



平成28年度

Shizuoka City Museum of Art ANNUAL REPORT 2016

静岡市美術館年報 No.7

目 次

1. 基本理念・沿革	
1-1 基本理念	3
1-2 沿革	3
1-3 平成28(2016)年度事業一覧	4
2. 展覧会事業	
2-1 没後20年 ルーシー・リー展	6
2-2 伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺	14
2-3 エッシャーの世界	20
2-4 ランス美術館展 美しきフランス パロックからフジタへ	27
2-5 高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。スタジオジブリ・レイアウト展	34
2-6 夢二と京都の日本画	40
3. 交流事業(教育普及事業)	
3-1 交流事業	48
1) Shizubi Project 6「彼方へ 國府理・林勇気・宮永亮」/2) Shizubiシネマアワー/3) ピーター・バラカンの「音を見る。アートを聴く。」/4) しずびオープンアトリエ/5) しずびチビッコプログラム/6) 暦とあそぶワークショップ/7) プレゼントワークショップ/8) 夜店市	
3-2 連携事業	57
1) ミュージアム教室・展示解説/2) めぐるりアート静岡 記憶をめぐる 記憶をつくる/3) 生涯学習センター・静岡市美術館連携事業「しずび出前講座」/4) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)/5) キニナルスキニナルプロジェクト/6) その他施設との連携等	
4. 受託事業等	
4-1 受託事業等	63
1) 「旧五十嵐邸・竹久夢二」展/2) 静岡市清水文化会館マリナート常設展示「平野富山－清水が生んだ彩色木彫の名匠」	
5. 調査研究・研修受入等	
5-1 調査研究	65
5-2 博物館実習	66
5-3 視察等受入	67
6. 収蔵品・図書等	
6-1 収蔵品・画像貸出等	68
6-2 図書等	68
7. 広報活動	
7-1 広報印刷物	69
7-2 ウェブサイト	70
7-3 施設広報記録	70
8. 管理運営	
8-1 利用者数	71
8-2 過去展覧会一覧	77
8-3 静岡市美術館運営協議会	79
8-4 組織図・職員名簿	80
8-5 条例・施行規則	81
8-6 施設・建築概要	83

1. 基本理念・沿革

1-1 基本理念

静岡市美術館は、JR静岡駅北口の25階建ビル「葵タワー」3階に、平成22年5月に開館、同年10月にグランドオープンしました。「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」を基本理念とし、展覧会、教育普及、調査研究活動を行っています。

展示室では、美術を主軸にデザインや工芸など幅広いジャンルの展覧会を開催します。

また、エントランスホールや多目的室、ワークショップ室などの「交流ゾーン」では、様々なアートシーンの紹介や講演会、ワークショップ、コンサート、美術映画の上映など普及事業を実施します。駅から徒歩3分という立地を活かし、誰もが気軽に立ち寄れる“ちょっと面白い街の中の広場”のような美術館を目指しています。

美術館ロゴマーク



美術館のロゴマークは、静岡、そして日本を象徴する富士山をモチーフにしています。重ねられた2つの円には、美術館を中心とした人の輪の広がり、地域と世界を結ぶイメージが表されています。また、視点と興行きの変化による“視ることの楽しさ”にも気付かせてくれます。

デザイン：柿木原政広（アートディレクター）

1-2 沿革

平成18(2006)年

3月 「静岡市文化振興ビジョン」策定

平成19(2007)年

3月 「(仮称)静岡市立美術館 基本計画」策定

7月4日 「葵タワー」着工

平成20(2008)年

3月 「(仮称)静岡市立美術館運営実施計画」策定

平成21(2009)年

7月8日 美術館内装建築工事着工[内装設計：(株)丹青研究所、内装建築工事：(株)木内建設]

7月16日 静岡市美術館条例制定

11月12日 静岡市美術館条例施行規則制定

平成22(2010)年

3月24日 静岡市が(財)静岡市文化振興財団を指定管理者に指定

3月31日 「葵タワー」竣工

4月1日 「葵タワー」オープン

4月21日 静岡市美術館竣工

5月1日 静岡市美術館開館・完成記念式典開催

9月30日まで展覧会関連事業および交流事業を実施

10月1日 静岡市美術館グランドオープン記念式典開催

10月2日 開館記念展<I> 「ポーラ美術館コレクション展 印象派とエコール・ド・パリ」開催(～11月28日)

平成23(2011)年

5月9日 当館のヴィジュアル・アイデンティティー(含：ロゴマーク)が「ワンショウ(ONE Show)」の銀賞を受賞

平成24(2012)年

1月4日 当館エントランスに漆芸作品「東海道五十三次ひとめ図」が設置され、除幕式を実施

平成25(2013)年

9月14日 来館100万人達成記念式典を実施

平成26(2014)年

5月2日 静岡県教育委員会より博物館相当施設に指定

平成27(2015)年

3月20日 静岡市が(公財)静岡市文化振興財団を第Ⅱ期指定管理者に指定

5月1日 静岡市美術館開館5周年

※過去展覧会一覧は、77～78ページを参照。

1-3 平成28(2016)年度事業一覧

		展覧会	交流事業
平成28年(2016年)	4月		23日 暦とあそぶワークショップ vol.12「こどもの日の準備をしよう！」
	5月	没後20年 ルーシー・リー展 4月9日-5月29日<開館45日間>	5日 Shizubiシネマアワー vol.18『地下鉄のザジ』 8日 プレゼントワークショップ vol.17「母の日だ！親子でプレゼントをつくろう」 14日 しずびチビッコプログラム①
	6月	伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靫彦・龍子らと修善寺 6月7日-7月10日<開館30日間>	11日 しずびチビッコプログラム② 18日 プレゼントワークショップ vol.18「父の日だ！親子でプレゼントをつくろう」
	7月		2日 暦とあそぶワークショップ vol.13「七夕の準備をしよう！」 23日・30日 静岡市・静岡市美術館共同開催 静岡市まちかどコレクション ワークショップ 「“フォトモ”で再現 静岡の“まちかど”」
	8月	エッシャーの世界 7月17日-8月28日<開館37日間>	6日 しずびオープンアトリエ「メビウスの輪で不思議な模様とカタチをつくろう！」(-21日) 12日 第54回 静岡夏まつり夜店市(-14日) 13日 Shizubiシネマアワー vol.19「マンガの時代」 ①『マンガをはみだした男 赤塚不二夫』 20日 同 ②『トキワ荘の青春』 27日 しずびチビッコプログラム③
	9月	ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ 9月10日-10月30日<開館45日間>	17日 プレゼントワークショップ vol.19「敬老の日だ！おじいちゃん、おばあちゃんとプレゼントをつくろう」
	10月		15日 しずびチビッコプログラム④ 25日 めぐるりアート静岡 記憶をめぐる 記憶をつくる(-11月13日) 30日 同 アーティストトーク
	11月		
	12月	高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。 スタジオジブリ・レイアウト展 11月19日-2月5日<開館65日間>	10日 プレゼントワークショップ vol.20「クリスマスの準備をしよう！」子ども編 11日 同 大人編
	1月		9日 ピーター・バラカンの「音を見る。アートを聴く。」 第10回「音を見る。アートを聴く。」 21日 しずびチビッコプログラム⑤-1 22日 しずびチビッコプログラム⑤-2
平成29年(2017年)	2月		18日 しずびオープンアトリエ「はんこでつくろ！夢二デザイン」(-3月26日)
	3月	夢二と京都の日本画 2月18日-3月26日<開館32日間>	20日 しずびチビッコプログラム⑥ 28日 Shizubi Project 6「彼方へ 國府理・林勇気・宮永亮」(-6月18日まで開催予定) 同 Shizubi Project 6 アーティストトーク

2. 展覧会事業 目次

2-1 没後20年 ルーシー・リー展	6
2-2 伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺	14
2-3 エッシャーの世界	20
2-4 ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ	27
2-5 高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。 スタジオジブリ・レイアウト展	34
2-6 夢二と京都の日本画	40

2. 展覧会事業

2-1 没後20年 ルーシー・リー展

会期：4月9日(土)～5月29日(日)

概要：20世紀を代表するイギリスの陶芸家ルーシー・リー（1902-1995）。没後20年を機に開催された本展では、初期から晩年にいたる約200点の作品で彼女の足跡を辿り、その魅力に迫った。ルーシー・リーは1902年、ウィーンウィーンの裕福なユダヤ人家庭に生まれた。ウィーン工芸美術学校で轆轤ろくろの面白さに魅了され陶芸家となることを決意し、国際的な展覧会で高い評価を得ていく。しかし戦争へと向かう時代の流れを受け、1938年イギリスへの亡命を余儀なくされる。以後ロンドンの自宅に工房を構え、半世紀以上にわたり制作を続けた。轆轤によって生み出される優美で緊張感のあるフォルムそうがん、象嵌や掻き落としなどによる独自の文様、釉薬のあたたかみのある色調など、彼女ならではの造形世界は、国や世代を超え多くの人々を魅了し続けている。本展では展示作品の大半が日本初公開となったほか、今回新たに発見されたウィーン時代の作品も紹介した。

巡回先：茨城県陶芸美術館、千葉市美術館、姫路市立美術館、郡山市立美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡朝日テレビ、日本経済新聞社

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、オーストリア大使館、プリティッシュ・カウンスル

協賛：大伸社

協力：オーストリア航空、全日本空輸、ルフトハンザ カーゴ AG

観覧料：一般 1,000円(800円)
大高生・70才以上 700円(500円)
中学生以下無料
※()内は前売および20名以上の団体料金
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：17,157人(有料12,314人、無料4,843人、有料率71.8%)

出品点数：196点

印刷物：

1)チラシ

＜仕様＞紙：スマッシュ 110kg

サイズ・数量：A4 65,000部

2)ポスター

＜仕様＞紙：マットコート 135kg (B1、B1・B3JR帯付版)、スマッシュ 110kg (B2、B3)

サイズ・数量：B1 110部(うちJR帯付40部)、B2 2,000部、B3 2,680部(うちJR帯付400部)



チラシ表面



チラシ裏面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

<仕様>206×206mm、317頁



カタログ表紙

カラー図版205点

参考図版(カラー21点、モノクロ47点)

金子賢治「ルーシー・リーのものの作り方」

ライナルト・フランツ「初期の器、モダンなものたち」ルーシー・ゴンペルツの初期ウィーン時代(1921-26年)における制作とオーストリア応用美術・現代美術館所蔵の新発見作品」

佐藤秀彦「ルーシー・リーのフォルムと技法」

関連年表／邦語主要文献／作品リスト

編集：茨城県陶芸美術館、日本経済新聞社文化事業部

編集協力：内藤裕子

翻訳：小川紀久子、長谷川珠緒、スタンリー・N・アンダソン

発行：日本経済新聞社

発行年：2015年

普及ツール：

1)本展オリジナルDMと缶バッジの作成・配布

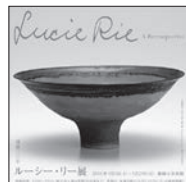
メインターゲット層である女性、デザイン関心層向けにオリジナルDMを表面2種制作し、市内店舗等へ配架した。DMを持参した先着500名にはルーシー・リーのボタンをモチーフにしたオリジナル缶バッジをプレゼント。また、ゴールデンウィーク特典として4月29日から5月8日の10日間、先着30名にも同缶バッジをプレゼントした。

制作物：

◆カード型DM

<仕様>紙：スノーブルFS #240 211kg

サイズ・数量：130×130mm 15,000部



DM表①



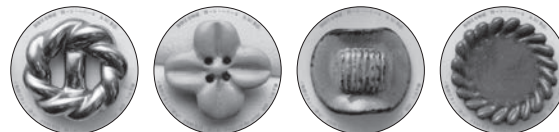
DM表②



DM裏(①②共通)

◆缶バッジ

<仕様>φ32mm 計4種



2)インスタグラムの導入と館内フォトロケーションの設置

若年層向けの広報戦略として、初めてインスタグラムを導入した。また、展覧会情報拡散を期待し、巡回備品を使用したフォトロケーションを展示室出口に設置した。



各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内等店舗で、展覧会入場者への優待サービスの実施、および近隣店舗にて、ルーシー・リーのオリジナルレシピを元にアレンジした、チョコレートケーキの提供を行った。

印刷物：

チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表



協賛チラシ裏

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「ルーシー・リー展 静岡市美術館」静岡朝日テレビ『ANNニュース静岡』4月9日放送。
- ・「ルーシー・リー展」静岡朝日テレビ『とびっきり！しずおか』4月27日、5月11日放送。
- ・「展覧会紹介」ケーブルテレビ『TCNワイド』4月27日放送。
- ・「展覧会紹介」静岡朝日テレビ『たまごちゃん』4月30日、5月4日放送。
- ・「静岡市美術館 ルーシー・リー展1万人突破」静岡朝日テレビ『ANNニュース静岡』5月15日放送。

2)新聞

- ・「凛とした表情たたえる ルーシー・リー展」『日本経済新聞』全国版、2015年8月12日。
- ・「「ルーシー・リー展」静岡会場開幕」『日本経済新聞』静岡版、3月28日。
- ・「静岡市美術館 陶芸200点展示 「ルーシー・リー展」」『日本経済新聞』静岡版、4月9日。
- ・「没後20年の陶芸家 ルーシー・リー展 静岡市美術館」『読売新聞』静岡版、4月10日。
- ・「静岡で最後の巡回展 没後20年 ルーシー・リー展」『日本経済新聞』静岡版、4月17日。
- ・「作品に奥ゆきと多様性 没後20年 ルーシー・リー展」『日本経済新聞』静岡版、5月15日。

3)雑誌他

- ・「nid Information ART：展覧会紹介」『nid』、vol.44。
- ・「イギリスが誇る美しき器たち。圧倒的な個性を放つルーシー・リーの世界を堪能」『Precious』、4月号。
- ・「展覧会紹介」『ザ・マイカー』、5月号。
- ・「展覧会紹介」『Discover Japan』、5月号。
- ・「ミセスビュー ART 展覧会紹介」『ミセス』、5月号。
- ・「没後20年 ルーシー・リー展 5月29日まで 静岡市美術館」『富士ニュース』第20961号、4月14日。
- ・「展覧会紹介」『レタスクラブ』、vol.846。
- ・「20世紀を代表するイギリスの女流陶芸家「没後20年 ルーシー・リー展」」『輸入住宅 スタイルブック』、vol.14。
- ・「美しいルーシー・リー様式の魅力を満喫 没後20年 ルーシー・リー展」『ホットペッパー』6月号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「Japan Design Net」、「Yahoo!JAPAN」、「じゃらんnet」、「LIVERARY」、「ぴあポイント」、「インターネットミュージアム」、「エココロ」、「Pen Online」、「CINRA.NETニュース」、「アットエス」、「ウェッブマガジン近傍」、「和楽」、「Yahoo! 路線検索」、「artscape」



5月15日 1万人達成



関連事業：

1) 記念講演会「ルーシー・リーの造形美 現代陶芸のパイオニア」

概要：本展監修者で、2010年の「ルーシー・リー展」も監修された金子氏による、最新の研究を踏まえた講演会。本展準備中に新発見されたウィーン工芸美術学校時代の作品の特徴や、彼女の優美で繊細な形の出自を古代ギリシャや東洋の陶芸と比較しながら探った。さらにルーシー・リーと同時代の工芸の潮流や、現代の陶芸家たちの活動も紹介され、時代や地域を越え、ルーシー・リーの作品を広い視点で捉える内容となった。

日時：4月16日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 **参加者数：**91人

講師：金子賢治氏(本展監修者・茨城県陶芸美術館館長)



2) 実演&レクチャー「ルーシー・リーの制作技法について」

概要：ルーシー・リーの制作技法について研究してきた陶芸家・小山氏が、彼女の作品に特徴的な「掻き落とし」「象嵌」「スパイラル(練り込み)」の技法を中心に、実演を交えながら紹介した。釉薬の調合など、専門的な事柄もわかりやすく説明された。

日時：4月30日(土)14:00-16:00

会場：多目的室 **参加者数：**110人

講師：小山耕一氏(陶芸家)



3) 当館学芸員によるギャラリートーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるギャラリートークを会期中実施した。ルーシー・リーの制作技法を中心に、展示作品を解説した。

日時：5月7日(土)14:00-

会場：展示室 **参加者数：**33人

参加料：展覧会観覧料



5) 講演会②「ルーシー・リーとハンス・コパー その生涯と時代」

概要：長年ルーシー・リー研究に携わってきた西氏が、リーの生涯と作品について、交遊の深かった陶芸家ハンス・コパーとの関係を紹介。研究書では語られることのない2人の交流やエピソードを多数お話しいただいた。

日時：5月21日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 **参加者数：**106人

講師：西マーヤ氏(現代陶芸研究者)



出品作品リスト

※図録番号17、56、114、148、149、参考出品1、参考出品2は静岡会場には未出品。
 ※通し番号1-194はすべてルーシー・リー作（一部ハンス・コバーとの共作を含む）。
 ※寸法(cm)は、h（高さ）、D（径）、w（幅）、d（奥行）で表し、カッコ内は最少部分の幅を表している。

I 初期－ウィーン時代 1921-38年

通し 番号	図録 番号	作品名	制作年	素材	寸法(cm)	所蔵者
1	1	緑釉器	1922-26年頃	陶器	h9.5 D9.9	個人蔵
2	2	赤釉線文鉢	1925年	陶器	h7.0 D10.8	オーストリア応用美術・現代美術館
3	3	青釉鉢	1926年	陶器	h9.0 D16.2	オーストリア応用美術・現代美術館
4	4	赤釉鉢	1926年	陶器	h8.1 D14.2	オーストリア応用美術・現代美術館
5	5	黄釉小鉢	1926年頃	陶器	h5.2 D10.1	個人蔵
6	6	線文鉢	1930年	陶器	h9.5 D15.6	オーストリア応用美術・現代美術館
7	7	赤釉鉢	1930年	陶器	h5.6 D9.4	オーストリア応用美術・現代美術館
8	8	鉢	1930年頃	陶器	h14.0 D16.6	個人蔵
9	9	ランプ台	1930-38年頃	陶器	h11.4 D9.6	個人蔵
10	10	花器	1934年頃	陶器	h9.0 D10.5 w9.0	個人蔵
11	11	花器	1936年頃	陶器	h13.0 D10.0	個人蔵
12	12	白釉カップ	1936年頃	陶器	h11.5 D9.7	個人蔵

II 形成期－ロンドン時代 1938-70年

通し 番号	図録 番号	作品名	制作年	素材	寸法(cm)	所蔵者
13	13	緑釉碗	1940年頃	陶器	h8.0 D15.0 w15.0	個人蔵
14	14	ガラス製ボタン、イヤリング、 ブローチ(ビミニ社)、陶製ボタン	1940年代	ガラス、 陶器		個人蔵
15	15	陶製ボタン	1940年代	陶器		個人蔵
16	16	花器	1947年頃	陶器	h12.0 D12.0 w12.0	個人蔵
17	18	白釉ドレッシング瓶(オイルとビネガー)	1950年頃	陶器	h14.0 D7.7	個人蔵
18	19	斑文大鉢・小鉢	1950年頃	陶器	大:h17.5 D32.2 小:h9.0 D16.7	個人蔵
19	20	白釉コーヒーセット	1950年頃	陶器	ポット:h22.5 D16.4(11.0) ピッチャー:h12.0 D11.0(9.2) プレート:h3.0 D17.8	個人蔵
20	21	白釉カップとソーサー	1950年頃	陶器	カップ:h6.7 D10.3(8.5) ソーサー:h2.3 D13.7	個人蔵
21	22	白釉カップとソーサー ハンス・コバーとの共作含む	1950年頃	陶器	カップ:h8.5 D11.7(9.3) ソーサー:h1.8 D14.0	個人蔵
22	23	白釉文字文鉢	1950年頃	陶器	h2.7 D4.7	個人蔵
23	24	白釉ドレッシング瓶(オイルとビネガー)	1950年代	陶器	各h13.8 D7.5	個人蔵
24	25	白釉水差し	1950年代	陶器	h24.0 D17.5(13.0)	個人蔵
25	26	白釉鉢	1950年代	陶器	h7.8 D13.5	公益財団法人北野美術館
26	27	白釉鉢	1950年代	陶器	h7.8 D14.2	公益財団法人北野美術館
27	28	白釉鉢	1950年代	陶器	h7.5 D15.5 d11.5	公益財団法人北野美術館
28	29	茶釉線文四方鉢	1952年頃	陶器	h6.5 D26.1	個人蔵
29	30	線文小鉢	1952年頃	磁器	h9.2 D12.2	個人蔵
30	31	黄釉鉢とソーサー	1953年頃	磁器	カップ:h8.3 D13.1 ソーサー:h2.8 D13.7	個人蔵
31	32	四方鉢	1954年頃	陶器	h9.0 D39.5 w23.0	個人蔵
32	33	緑釉鉢	1954年頃	磁器	h12.0 D26.2(23.2)	紀井文庫
33	34	緑釉線文植木鉢	1954年頃	陶器	h29.0 D27.5	個人蔵
34	35	黄釉鉢	1954年頃	磁器	h8.0 D14.5 w14.5	個人蔵
35	36	線文大皿	1954年頃	陶器	h8.0 D34.0	個人蔵
36	37	白釉カップとソーサー	1955年頃	陶器	カップ:h6.2 D10.9(8.4) ソーサー:h2.3 D14.0	個人蔵
37	38	茶釉ティーポット	1955年頃	陶器	h19.5 w18.0(13.8)	個人蔵
38	39	茶釉花器	1955年頃	陶器	h20.2 w10.8(6.9)	個人蔵
39	40	茶釉線文花器	1955年頃	陶器	h6.7 D4.8	個人蔵
40	41	茶釉線文ティーセット ハンス・コバーとの共作含む	1955年頃	陶器	ポット:h15.0 w22.1(15.0) ピッチャー:h9.1 w9.2(6.9) ボウル:h11.5 w11.0 カップ:h6.3 w10.3(8.3) ソーサー:h2.7 w14.0	ミュージアム李朝
41	42	黒釉鉢	1955年頃	陶器	h13.5 D27.4	個人蔵
42	43	緑釉線文花器	1955年頃	陶器	h33.0 D21.0	個人蔵
43	44	青点文小鉢	1955年頃	磁器	h7.0 D8.0	個人蔵
44	45	茶釉線文鉢	1956年頃	磁器	h8.5 D15.9	個人蔵
45	46	茶釉線文鉢	1956年頃	磁器	h9.0 D21.5 w22.0	個人蔵
46	47	線文茶器	1957年頃	陶器	h17.2 D14.8	個人蔵
47	48	白釉小鉢	1957年頃	磁器	h5.6 D5.3	個人蔵
48	49	青釉小鉢	1957年頃	陶器	h5.9 D5.8	個人蔵

通し 番号	図録 番号	作品名	制作年	素材	寸法 (cm)	所蔵者
49	50	点文小鉢	1957年頃	磁器	h5.7 D4.8	個人蔵
50	51	点文小鉢	1957年頃	磁器	h6.6 D4.5	個人蔵
51	52	緑釉小鉢	1957年頃	陶器	h5.3 D5.4	個人蔵
52	53	大皿	1958年	陶器	h6.7 D34.0	個人蔵
53	54	長頸花器	1958年	陶器	h41.0 D16.0	個人蔵
54	55	白釉線文鉢	1958年頃	陶器	h6.6 D14.0	個人蔵
55	57	長頸斑文花器	1958年頃	陶器	h48.0 D21.0	個人蔵
56	58	黄釉鉢	1958年頃	磁器	h10.0 w26.8 (8.4)	個人蔵
57	59	黄釉点文鉢	1958年頃	磁器	h7.4 D13.8	個人蔵
58	60	黄釉線文小鉢	1958年頃	陶器	h5.7 D9.2	個人蔵
59	61	青釉線文小鉢	1958年頃	磁器	h3.4 D8.0	個人蔵
60	62	茶釉線文小鉢	1958年頃	磁器	h4.2 D12.5	個人蔵
61	63	緑釉鉢	1958年頃	磁器	h7.7 D14.9	個人蔵
62	64	茶釉線文手付皿	1958年頃	陶器	h4.5 D18.6	個人蔵
63	65	茶釉蓋付鍋	1958年頃	陶器	h14.4 D25.4	個人蔵
64	66	白釉鉢	1958年頃	陶器	h15.2 w26.3 (21.0)	個人蔵
65	67	茶釉ミルクピッチャー	1958年頃	陶器	h7.9 D6.5	個人蔵
66	68	白釉鉢 ハンス・コバーとの共作	1958年頃	陶器	h8.3 D13.8 d10.9	公益財団法人北野美術館
67	69	黒釉鉢	1958年頃	陶器	h8.0 D14.3 d12.2	公益財団法人北野美術館
68	70	スパイラル文花器	1958年頃	陶器	h14.3 D7.9	小山登美夫
69	71	緑釉小鉢	1960年頃	磁器	h4.3 w5.2 (4.8)	個人蔵
70	72	朱釉小鉢	1960年頃	陶器	h5.5 D4.8	個人蔵
71	73	線文花器	1960年頃	陶器	h16.5 w10.2 (8.3)	個人蔵
72	74	円筒花器	1960年頃	陶器	h31.5 D13.5 w13.5	個人蔵
73	75	花器	1960年頃	陶器	h16.5 D10.0 w10.0	個人蔵
74	76	花器	1960年頃	陶器	h10.5 D10.0 w9.0	個人蔵
75	77	線文円筒花器	1960年頃	磁器	h21.8 D12.2	個人蔵
76	78	茶釉花器	1960年頃	磁器	h20.2 D11.6	個人蔵
77	79	茶釉花器	1960年頃	磁器	h6.5 D5.8	個人蔵
78	80	茶釉蓋付筒形線文器	1960年頃	陶器	h9.6 D5.6	個人蔵
79	81	茶釉蓋付筒形器	1960年頃	磁器	h10.7 D6.0	個人蔵
80	82	丸文碗	1960年頃	磁器	h7.5 D11.7	個人蔵
81	83	丸文碗	1960年頃	磁器	h6.0 D10.0	個人蔵
82	84	茶釉線文カップとソーサー ハンス・コバーとの共作	1960年頃	陶器	カップ:h6.8 D12.2 (10.0) ソーサー:h2.9 D15.5	個人蔵
83	85	茶釉線文コーヒーポット	1960年頃	陶器	h19.7 w20.0 (10.7)	個人蔵
84	86	茶釉線文コーヒーポット	1960年頃	陶器	h20.0 w21.4 (13.3)	個人蔵
85	87	茶釉花器	1960年頃	陶器	h8.8 D8.8	個人蔵
86	88	茶釉線文鉢	1960年頃	陶器	h9.7 D16.5 (15.7)	個人蔵
87	89	茶釉線文鉢	1960年頃	磁器	h8.7 D17.5	個人蔵
88	90	青釉大鉢	1960年頃	陶器	h9.8 D28.6 w29.7	紀井文庫
89	91	熔岩釉花器	1960年頃	陶器	h11.4 D8.2	個人蔵
90	92	手付注器 ハンス・コバーとの共作	1960年代	陶器	黄:h7.2 D9.7 (6.7) 茶:h8.0 D9.7 (6.7) 青:h7.8 D9.7 (6.7)	個人蔵
91	93	線文円筒花器	1960年代	磁器	h14.2 D5.7	個人蔵
92	94	黄釉線文鉢	1961年頃	磁器	h13.4 D27.7	個人蔵
93	95	線文花器	1963年頃	磁器	h10.3 D7.6	個人蔵
94	96	黄釉小鉢	1964年頃	磁器	h7.5 D6.3	個人蔵
95	97	白釉花器	1964年頃	磁器	h15.2 D9.3	個人蔵
96	98	線文小鉢	1965年頃	磁器	h7.5 D6.3	個人蔵
97	99	線文小鉢	1965年頃	磁器	h6.2 D4.9	個人蔵
98	100	茶釉花器	1965年頃	磁器	h21.5 D12.2	個人蔵
99	101	緑釉鉢	1965年頃	磁器	h5.9 D13.4	個人蔵
100	102	黄釉鉢	1965年頃	磁器	h8.8 D19.2	個人蔵
101	103	線文鉢	1965年頃	磁器	h7.3 D10.5	個人蔵

通し 番号	図録 番号	作品名	制作年	素材	寸法(cm)	所蔵者
102	104	スパイラル文花器	1965年頃	陶器	h19.6 w11.3(9.2)	個人蔵
103	105	赤釉線文花器	1965年頃	磁器	h9.8 D7.1	個人蔵
104	106	ブロンズ釉白線文鉢	1965年頃	磁器	h9.0 D23.5	個人蔵
105	107	白釉鉢	1966年頃	磁器	h6.5 D15.0	個人蔵
106	108	赤釉赤線文花器	1966年頃	磁器	h18.9 D15.5	個人蔵
107	109	線文円筒花器	1968年	磁器	h22.0 D11.5	東京国立近代美術館
108	110	線文円筒花器	1968年頃	磁器	h25.0 D8.9	個人蔵
109	111	鎬文花器	1968年頃	陶器	h30.5 D11.5	個人蔵
110	112	スパイラル文鉢	1968年頃	磁器	h9.1 D20.5	個人蔵
111	113	白釉鉢	1968年頃	陶器	h8.9 D14.9	個人蔵

Ⅲ 円熟期 1970-90年

通し 番号	図録 番号	作品名	制作年	素材	寸法(cm)	所蔵者
112	115	茶釉線文鉢	1970年頃	陶器	h5.8 D11.9	個人蔵
113	116	青線文鉢	1970年頃	磁器	h7.3 D14.8	個人蔵
114	117	熔岩釉鉢	1970年頃	陶器	h7.6 D13.8	個人蔵
115	118	青釉鉢	1970年頃	磁器	h9.5 D16.5	個人蔵
116	119	線文鉢	1970年頃	陶器	h13.2 D10.9	個人蔵
117	120	線文鉢	1970年頃	磁器	h8.3 D17.4	東京国立近代美術館
118	121	スパイラル文鉢	1970年頃	陶器	h8.9 D22.2	個人蔵
119	122	スパイラル文花器	1970年頃	陶器	h21.5 D10.5	個人蔵
120	123	ドロマイト釉花器	1970年頃	陶器	h24.8 D13.0	個人蔵
121	124	スパイラル文花器	1970年代前半	陶器	h37.5 D18.2	個人蔵
122	125	ピンク線文鉢	1970年代後半	磁器	h7.7 D9.4	東京国立近代美術館
123	126	スパイラル文花器	1972年頃	陶器	h31.9 D17.0	個人蔵
124	127	ピンク線文鉢	1972年頃	陶器	h10.7 D17.2	個人蔵
125	128	ピンク線文鉢	1972年頃	陶器	h8.9 D16.6	個人蔵
126	129	ピンク線文鉢	1972年頃	磁器	h9.0 D12.1	個人蔵
127	130	黄釉鉢	1972年頃	磁器	h12.3 D18.0	個人蔵
128	131	黄釉線文鉢	1972年頃	磁器	h12.5 D25.4	紀井文庫
129	132	蓋付筒形器	1974年頃	磁器	h10.9 D14.0	個人蔵
130	133	蓋付筒形器	1974年頃	磁器	h10.5 D14.9	個人蔵
131	134	白釉ブロンズ花文鉢	1974年頃	磁器	h10.5 D20.5	個人蔵
132	135	葉文鉢	1974年頃	磁器	h17.2 D16.9(13.4)	個人蔵
133	136	鎬文鉢	1974年頃	陶器	h15.1 D26.5(19.8)	個人蔵
134	137	白釉大鉢	1974年頃	陶器	h14.0 D38.0 w38.0	個人蔵
135	138	白釉花器	1974年頃	陶器	h32.0 D16.0 w16.0	個人蔵
136	139	スパイラル文花器	1975年頃	陶器	h10.8 D6.9	個人蔵
137	140	線文花器	1975年頃	磁器	h7.6 D5.3	個人蔵
138	141	ピンク線文鉢	1975年頃	磁器	h10.8 D9.5	個人蔵
139	142	黄釉鉢	1975年頃	磁器	h8.6 D11.7	個人蔵
140	143	線文鉢	1975年頃	磁器	h10.8 D22.6	個人蔵
141	144	茶釉線文鉢	1976年頃	磁器	h9.2 D20.0(h10.0 D22.2)	個人蔵
142	145	線文鉢	1976年頃	磁器	h10.8 D21.4	個人蔵
143	146	鎬文花器	1976年頃	陶器	h24.4 D12.4	東京国立近代美術館
144	147	白釉鉢	1978年頃	磁器	h11.8 D17.6	我孫子市白樺文学館
145	150	ピンク線文鉢	1978年頃	磁器	h6.5 D10.9	個人蔵
146	151	ピンク線文小鉢	1978年頃	陶器	h4.1 D12.2	個人蔵
147	152	ピンク線文鉢	1978年頃	磁器	h10.2 D11.2	個人蔵
148	153	ピンク線文鉢	1978年頃	磁器	h11.5 D18.0 w17.0	個人蔵
149	154	ピンク線文蓋付筒形器	1978年頃	磁器	h13.8 D7.2	個人蔵
150	155	鎬文花器	1978年頃	陶器	h20.2 D10.8	個人蔵
151	156	線文花器	1978年頃	磁器	h25.5 D12.8	紀井文庫
152	157	線文花器	1978年頃	磁器	h23.4 D12.9	個人蔵
153	158	線文花器	1978年頃	磁器	h15.5 D8.8	個人蔵

通し 番号	図録 番号	作品名	制作年	素材	寸法 (cm)	所蔵者
154	159	ブロンズ釉線文花器	1978年頃	磁器	h20.5 D11.0	個人蔵
155	160	線文花器	1978年頃	磁器	h16.1 D9.0	個人蔵
156	161	白釉花器	1978年頃	陶器	h25.0 D13.5 w13.5	個人蔵
157	162	スパイラル文花器	1978年頃	陶器	h30.7 D15.1	紀井文庫
158	163	スパイラル文花器	1978年頃	陶器	h33.5 D15.9	茨城県陶芸美術館
159	164	スパイラル文花器	1978年頃	陶器	h32.4 D15.5	個人蔵
160	165	白釉青線文鉢	1979年	磁器	h9.8 D20.8	東京国立近代美術館
161	166	ブロンズ釉線文鉢	1979年頃	磁器	h10.8 D22.2	個人蔵
162	167	ブロンズ釉線文鉢	1980年頃	磁器	h4.8 D14.3	個人蔵
163	168	青ニツ線文碗	1980年頃	陶器	h8.0 D14.0	個人蔵
164	169	青ニツ線文鉢	1980年頃	陶器	h9.4 D21.5	個人蔵
165	170	線文鉢	1980年頃	磁器	h8.9 D20.9	個人蔵
166	171	青釉鉢	1980年頃	磁器	h9.5 D21.2	個人蔵
167	172	緑釉鉢	1980年頃	磁器	h17.5 D20.7	公益財団法人北野美術館
168	173	緑釉鉢	1980年頃	磁器	h7.8 D16.7	個人蔵
169	174	ピンク線文鉢	1980年頃	磁器	h10.8 D17.8	個人蔵
170	175	ピンク線文鉢	1980年頃	磁器	h7.9 D15.8	個人蔵
171	176	ピンク線文鉢	1980年頃	磁器	h7.8 D11.6	個人蔵
172	177	ピンク線文鉢	1980年頃	磁器	h9.5 D20.1	個人蔵
173	178	黄釉鉢	1980年頃	磁器	h7.7 D14.0	個人蔵
174	179	白釉鉢	1980年頃	磁器	h8.8 D25.3	個人蔵
175	180	白釉鉢	1980年頃	磁器	h9.1 D15.2	個人蔵
176	181	ブロンズ釉鉢	1980年頃	磁器	h9.3 D12.8	個人蔵
177	182	線文円筒花器	1980年頃	磁器	h20.4 D11.2	個人蔵
178	183	鎬文花器	1980年頃	陶器	h19.3 D10.7	個人蔵
179	184	スパイラル文花器	1980年頃	陶器	h29.5 D15.5	個人蔵
180	185	スパイラル文花器	1980年頃	陶器	h34.0 D18.0	個人蔵
181	186	スパイラル文花器	1980年頃	陶器	h36.8 D18.1	個人蔵
182	187	線文花器	1980年頃	磁器	h22.7 D9.2	個人蔵
183	188	ブロンズ釉鉢	1980年代	磁器	h7.2 D16.2	個人蔵
184	189	ピンク線文鉢	1981年頃	磁器	h9.2 D23.0	個人蔵
185	190	線文花器	1982年頃	磁器	h26.5 D10.0	公益財団法人北野美術館
186	191	ブロンズ釉線文花器	1982年頃	磁器	h27.6 D10.8	個人蔵
187	192	ブロンズ釉白線文鉢	1982年頃	磁器	h12.1 D20.5	個人蔵
188	193	白釉花器	1984年頃	陶器	h34.3 D19.6	個人蔵
189	194	ブロンズ釉花器	1984年頃	磁器	h8.2 D7.1	個人蔵
190	195	白釉花器	1984年頃	磁器	h12.4 D8.6	個人蔵
191	196	練り込み花器	1985年頃	陶器	h10.9 D10.1	個人蔵
192	197	練り込み花器	1985年頃	陶器	h12.6 D10.3	個人蔵
193	198	スパイラル文花器	1985年頃	陶器	h27.3 D13.2	個人蔵
194	199	線文花器	1990年頃	磁器	h23.8 D13.2	個人蔵

参考出品

通し 番号	図録 番号	作家名	作品名	制作年	素材	寸法 (cm)	所蔵者
195	参考出品3	ルーシー・リー	ボタンの型	1941-48年	石膏	各h4.2 D15.9	個人蔵
196	参考出品4	ハンス・コパー	カップとソーサー	1950年代	陶器	カップ:h6.0 D9.1 ソーサー:h2.6 D9.8	個人蔵

2-2 伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺

会期：6月7日(火)～7月10日(日)

概要：弘法大師・空海が開創した福地山修禅寺一帯は、風光明媚な温泉場として栄えてきた。とりわけ近代以降、夏目漱石「修善寺の大患」、岡本綺堂「修禅寺物語」で有名な修善寺温泉には、多くの文学者や俳優他の文化人が訪れた。そんな中、東京で学問を修め、芸術に造詣の深い相原寛太郎（号：沐芳）は、明治30年代半ばに新井旅館の娘、相原つると結婚し、三代目主人となるが、美術への思い捨て難く、多くの画家達と交流した。中でも安田靱彦との関わりは強く、靱彦が病氣療養のため修善寺で過ごした明治40年頃から、靱彦の先輩格の横山大観、菱田春草、同世代の今村紫紅、小林古径、前田青邨ら新しい日本画を追求した仲間が同館に滞在するようになる。また自ら日本美術院賛助会をはじめ後援会に加入して画家達をささえ、昭和5年の大観らの渡欧壮行会では美術院同人が新井旅館に大勢集まった。彼らはまた、福地山修禅寺第38代住職で書画の嗜みのある丘球学とも親交があった。球学は「新井旅館」看板を揮毫したり、靱彦作品を模している。さらに、修禅寺の檀家となり、宝物殿天井画を描いた川端龍子の存在も見逃せない。本展は、現在伊豆市が所蔵する日本画コレクションの多くが、福地山修禅寺を中心に開花した修善寺温泉の歴史的風土、文化的土壌を背負っていることを改めて紹介するものとなった。

巡回先：なし(自主企画展)

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡新聞社・静岡放送

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

特別協力：伊豆市、伊豆市教育委員会、福地山修禅寺、新井旅館

助成：芸術文化振興基金

観覧料：一般 1,000円(800円)
大高生・70才以上 700円(500円)
中学生以下無料
※()内は前売および20名以上の団体料金
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：6,592人(有料3,920人、無料2,672人、有料率59.5%)

出品点数：84件(うち資料5件)

印刷物：

1)チラシ

＜仕様＞紙：モンテシオン 56.5kg
サイズ・数量：A4 65,000部

2)ポスター

＜仕様＞紙：b7トラネクスト 99kg
サイズ・数量：B1 70部、B2 2,000部、B3 2,650部(うち400枚はJR带つき)



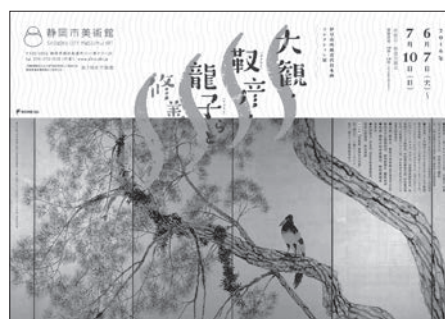
チラシ表面



チラシ裏面



B1・B2ポスター



B3ポスター

展覧会オリジナル小冊子：
＜仕様＞297×210mm、12頁



表紙

カラー図版20点
参考図版(カラー1点)

久野幸子「安田靱彦と修善寺—靱彦筆「かちかち山」とその模本をめぐって」
久野幸子「資料紹介コラム：安田靱彦筆「直心浄国禅師画像(旭傳院蔵)」について」
吉田恵理「相原沐芳像—新井旅館所蔵品より」*No.2をのぞく

作品リスト／関係年表

編集・発行：静岡市美術館
発行年：2016年

展覧会関連カタログ：
『伊豆市所蔵美術品目録＜日本画＞』



表紙

カラー図版170点
参考図版(カラー6点)

刊行にあたって

井上恵津子・久野幸子「総説＜伊豆市所蔵の美術品について＞」
作家・作品解説
用語解説
索引

編集・発行：伊豆市
発行年：2007年

各種連携：
1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者へ優待サービスを行った。

印刷物：

◆チラシ

＜仕様＞紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表



協賛チラシ裏

主要広報記録：

1)新聞

・吉田恵理「伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 温泉街に開花 交友の証し 7日から静岡市美術館」『静岡新聞』、5月31日。
・「修善寺の四季 写真に 葵区 来月10日まで展示」『静岡新聞』、6月1日。
・「「大観・靱彦・龍子らと修善寺」 静岡市美術館、展示進む 7日開幕」『静岡新聞』、6月5日。
・野島純子「「大観・靱彦・龍子らと修善寺」開幕 近代日本画名作79展」『静岡新聞』(夕刊)、6月7日。
・「「療養中も不断の努力」 静岡市美術館 修善寺滞在の安田靱彦解説」『静岡新聞』、6月14日。
・「制作当時の年齢併記に好感(読者欄)」『静岡新聞』、7月5日。

2)雑誌他

・「展覧会紹介」『womo』静岡版・浜松版、5月号。
・「展覧会紹介」『ひととき』6月号。
・「展覧会紹介」『月刊美術』6月号。
・「展覧会紹介」『美じょん新報』、第200号。
・「展覧会紹介」『プラネッツ』、vol.623。
・「Exhibition Spot 今月の展覧会50+ コレクションが形成された文化的背景を探る」『ギャラリー』、6月号。
・「大観・靱彦・龍子らと修善寺 7月10日まで 静岡市美術館」『富士ニュース』第21006号、6月9日。
・「展覧会紹介」『書道界』、6月号。
・「旅館主人と日本画たちの温かな交流 伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺」『ホットペッパー』、7月号。
・邱馨慧「国際藝壇 温泉勝地修善寺與日本畫家 明治時期錢湯與藝術の因縁」『藝術家』、8月号。

3)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「Pen Online」、「アットエス」、「和樂」、「artscape」、「Yahoo! 路線検索」



関連事業：

1)写真展「修禅寺の四季」

概要：展覧会にあわせ、修禅寺檀家総代で写真家の田口行央氏による修禅寺の風景写真を、葵タワーおよび多目的室のほか、一部展示室にも展示した。

会期：6月7日(火)～7月10日(日)

場所：葵タワー1階エントランス、当館多目的室および展示室

協力：葵タワー管理組合法人

主要広報記録：

◆新聞

・「修禅寺の四季 写真に 葵区 来月10日まで展示」『静岡新聞』、6月1日。



葵タワー1Fエントランス



展示室内(プロジェクション含)

2) 講演会「修善寺と安田靫彦」

概要：日本近世絵画史を専門とし、1989年より伊豆市嘱託学芸員として本コレクションの調査研究に携わった、久野氏による講演会。早くに才能を認められるも、病気で静養を余儀なくされた安田靫彦と、彼を支えた修善寺温泉の主人・相原沐芳。これをきっかけに沐芳と若き画家たちとの交流が始まった。講演会では、靫彦の画風変遷における沼津時代を語りつつ、作品に附随する箱書や書簡などを含め、新井旅館コレクションの実態が具体的に示された。

日時：6月12日(日)14:00-15:30

会場：多目的室 **参加者数：**94人

講師：久野幸子氏(東海大学非常勤講師)



3) 学芸員のギャラリートーク/この1点をとことん語る

概要：展覧会に対する理解を深めるため、展覧会担当学芸員が展示解説を行った。

1回目は、展示室をまわりながら、展覧会の見どころを概説するギャラリートークの形式で実施。

2回目は、多目的室にて、安田靫彦《鴨川夜情》について、展覧会未出品の関連作品や、作品細部をスライド投影して、日本画の繊細かつずるどい「線」を理解できるよう説明した後、展示室で改めて実物を鑑賞してもらう「この1点をとことん語る」として実施した。それぞれ参加者と対話しながら行った。

日時：①6月18日(土) ②6月25日(土)

いずれも 14:00-

会場：①展示室 ②多目的室・展示室 **参加者数：**計47人

参加料：展覧会観覧料



ギャラリートーク



この1点をとことん語る

出品作品リスト

新井旅館の沐芳と画家たち

No.	作家名	作品名	制作年	所蔵先／ ()内は展示期間
1	安田靉彦	あやめの前	明治42-44年	伊豆市
2	安田靉彦	相原沐芳像	昭和26年	新井旅館
書簡	靉彦筆、相原つる宛 肖像画添状	昭和26年頃	新井旅館	
3	安田靉彦	項羽画案	大正4年	伊豆市
4	菱田春草	秋郊帰牧	明治42年	伊豆市
書簡	春草筆、靉彦宛	明治42年4月4日	伊豆市	
5	横山大観	白鷺	明治42年頃	伊豆市
	相原沐芳書付	昭和3年頃	伊豆市	
6	靉彦・青邨・ 長江・未央・ 林響	十二支扇面散	明治末	伊豆市
7	石井林響	春風飜蕩	明治40年代	伊豆市
8	石井林響	弘法大師	明治41年	伊豆市
9	安田靉彦	吉野訣別	明治32年	伊豆市
10	安田靉彦	醍醐観花	明治40年	伊豆市
11	安田靉彦	大原御幸	明治44年頃	伊豆市
12	安田靉彦	拈華微笑	明治44年	伊豆市
13	安田靉彦	達磨	明治44年頃	伊豆市 (6/7-23)
14	安田靉彦	十六羅漢	明治44年頃	伊豆市 (6/24-7/10)
15	安田靉彦	六歌仙	明治44年頃	伊豆市
16	安田靉彦	上宮太子	大正元年頃	伊豆市
17	石井林響	波に鯉	明治40年代	伊豆市
18	石井林響	東方朔	明治40年代	伊豆市
19	石井林響	桐陰網蟬	明治40年代	伊豆市
20	石井林響	蘆花明月	明治40年代	伊豆市
書簡	林響筆、沐芳宛	明治44年3月27日	新井旅館	
書簡	靉彦・青邨筆 渡辺健次宛	明治43年5月20日	伊豆市	
書簡	長江筆、渡辺春水宛	明治44年3月3日	伊豆市	
書簡	古径筆、村田一郎宛	大正3年1月15日	伊豆市	
21	広瀬長江	観桜	明治末	伊豆市

No.	作家名	作品名	制作年	所蔵先／ ()内は展示期間
22	広瀬長江	妓女	明治末-大正初	伊豆市
23	広瀬長江	不破	明治末-大正初	伊豆市
24	広瀬長江	若衆と娘	明治末-大正初	伊豆市
25	小林古径	武蔵野	明治末	伊豆市
26	小林古径	箏三線	明治42年	伊豆市
27	小林古径	重盛	明治44年	伊豆市
28	小林古径	観音	明治末-大正初	伊豆市
29	前田青邨	市場	明治43年頃	伊豆市
30	前田青邨	燈籠大臣	明治末	伊豆市
31	前田青邨	春山霞男	明治末	伊豆市
32	前田青邨	鷄合	明治43年	伊豆市
33	前田青邨	騎馬武者	明治末	伊豆市
34	靉彦・青邨・ 長江・未央	鬼ヶ島	明治末	伊豆市
35	横山大観	柳陰清談	明治43年頃	伊豆市
36	横山大観	雨後	明治44年頃	伊豆市
37	横山大観	松竹遊禽	大正元年頃	伊豆市
38	横山大観	叭叭鳥	大正6年	伊豆市
39	今村紫紅	鴛鴦	明治42年頃	伊豆市
40	今村紫紅	牧牛桃林	明治42年頃	伊豆市
41	今村紫紅	秋江晚鴉	大正元年頃	伊豆市
42	今村紫紅	孫悟空	大正元年頃	伊豆市
43	今村紫紅	枇杷叭叭鳥	大正元年頃	伊豆市
44	今村紫紅	沐芳人相書	大正元年頃	新井旅館
45	今村紫紅	鷺	大正4年頃	伊豆市
46	速水御舟	手向	大正2年	伊豆市
47	安田靉彦	忠度訪俊成	大正5年頃	伊豆市
48	安田靉彦	隻履達磨	大正1-4年	伊豆市
49	小林古径	梅	大正6年	伊豆市

No.	作家名	作品名	制作年	所蔵先／ ()内は展示期間
50	小林古径	萬翠	大正7年	伊豆市
51	小林古径	伊勢物語	大正4年	伊豆市
書簡		古径筆、沐芳宛	明治44年8月5日	新井旅館
書簡		古径筆、沐芳宛	大正4年3月4日	新井旅館
52	前田青邨	後三年	大正初	伊豆市

相原家と安田家

No.	作家名	作品名	制作年	所蔵先／ ()内は展示期間
53	安田靫彦	相原浩二君肖像	明治43年	新井旅館
54	安田靫彦	沐猴	大正9年	新井旅館
資料		安田靫彦所用 画材一式		新井旅館
55	安田靫彦	うさぎ	大正4年	伊豆市
56	安田靫彦	龍	大正5年	伊豆市
57	安田靫彦	昭陽	大正8年	伊豆市
58	安田靫彦	真達羅大将	大正10年	伊豆市
59	安田靫彦	春生	大正11年	伊豆市
60	安田靫彦	牛	大正14年	伊豆市
61	大観・観山・紫紅・未醒	東海道	大正4年	伊豆市
書簡	大観・観山・紫紅・未醒筆	村田一郎・川上五郎宛	大正4年4月2日	伊豆市
資料	相原沐芳宛	日本美術院賛助員贈呈絵画 分配表 他 一式		新井旅館
62	横山大観	山上の家	昭和5年頃	伊豆市
63	横山大観	神州第一峰	昭和5年	伊豆市
書簡		大観筆、沐芳宛	昭和5年1月27日付	新井旅館
64	靫彦ら17名 合作	修善寺風物扇面散	明治末/ 昭和13年頃	伊豆市

紅児会、赤耀会と沼津の支援者たち

No.	作家名	作品名	制作年	所蔵先／ ()内は展示期間
65	石井林響	寒山子	明治末-大正初	伊豆市
66	黒田古郷	備後鞆津写生	大正後期	伊豆市
67	小山大月	小松	大正後期	伊豆市

福地山修禅寺の丘球学と沐芳、靫彦

No.	作家名	作品名	制作年	所蔵先／ ()内は展示期間
68	安田靫彦	萬古天風	昭和5年	伊豆市
69	安田靫彦	鴨川夜情	昭和9年頃	伊豆市
70	安田靫彦	春暁	昭和5年頃	伊豆市
71		金銅蓮弁独鈷柱	平安時代	福地山修禅寺
72	安田靫彦	かちかち山	明治43年	株式会社 ヤマタネ
73	丘球学	靫彦筆かちかち山模写	大正12年	福地山修禅寺
書簡		靫彦筆、沐芳宛	明治44年7月11日 付消印	新井旅館
書簡		靫彦筆、沐芳宛	大正元年11月10 日付	新井旅館
書簡		靫彦筆、沐芳宛	大正3年6月5日付	新井旅館
書簡		靫彦筆、修禅寺39世絶三宛	昭和28年2月24日 付	福地山修禅寺
74	安田靫彦	摩利支天	明治44年	伊豆市
75	安田靫彦	孝子揚香	大正15年	伊豆市
76	安田靫彦	頼政	昭和20年代	伊豆市

修善寺と龍子

No.	作家名	作品名	制作年	所蔵先／ ()内は展示期間
77	川端龍子	湯浴(湯治)	昭和2年	伊豆市
78	川端龍子	しいたけ	昭和中期	伊豆市
79	川端龍子	修善寺城山公園よりの展望	昭和37年	伊豆市
書簡		川端龍子書簡 丘球学宛	9月8日付	福地山修禅寺
参考	スライド ショー	川端龍子筆「玉取龍」福地山修禅寺、 重要文化財「大日如来坐像」福地山修禅寺、など		

2-3 エッシャーの世界

会期：7月17日(日)～8月28日(日)

概要：20世紀オランダを代表する版画家、マウリッツ・コルネリス・エッシャー(1898-1972)を約140点の作品で紹介する巡回展。彼の独特でユニークな作品は、「だまし絵」として世界中で高い人気を誇るが、学生時代の作品やイタリアで風景を描いた作品などはあまり知られていない。本展では、オランダ・エッシャー財団が所蔵するコレクションを中心に、エッシャーの版画作品だけでなく、下絵などの資料、エッシャーの師・メスキータの作品を加え、初期から晩年まで、その生涯を辿りながら作風の変遷や魅力に迫る内容であった。

巡回先：高松市美術館、茨城県近代美術館、札幌芸術の森美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡朝日テレビ、日本経済新聞社

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、オランダ王国大使館、在大阪・神戸オランダ総領事館

協力：エッシャー財団

企画協力：株式会社キュレーターズ

観覧料：一般 1,000円(800円)
大高生・70才以上 700円(500円)
中学生以下無料
※()内は前売および20名以上の団体料金
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：36,297人(有料24,164人、無料12,133人、有料率66.6%)

出品点数：139点(参考資料を含む)

印刷物：

1)チラシ

＜仕様＞紙：OKブリザード 103kg

サイズ・数量：210×282mm(A4変形)88,250部(うち市内回覧用23,250部)

2)ポスター

＜仕様＞紙：OKブリザード 103kg(B1、B2、B3通常版)、ユーライト 135kg(B3JR帯版)

サイズ・数量：B1 70部、B2 2,000部、B3 1,150部(うち400部はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ裏面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

＜仕様＞250mm×250mm、157頁



カタログ表紙

カラー図版160点

参考図版(カラー14点、モノクロ25点)

永松左知「無限迷宮への夢 エッシャーの世界」

ユリス・エック＝コキール「サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ」

大石沙織「エッシャーにとってのイタリア時代」

年譜／出品作品リスト／参考文献／写真提供

編集：永松左知、三富あずさ

翻訳：野坂悦子(蘭日)、人見伸子(英日)

発行：株式会社キュレイターズ

発行年：2016年

普及ツール：

1)子ども向けガイドパネルの作成

エッシャーを単なるだまし絵の作家ではなく、版画家としてのエッシャーに注目してもらうため、当館独自の教育普及的な展示・演出を行った。エッシャーの言葉を添えた作品拡大画像パネルや、作品解説パネル20種のほか、版画の用語解説のパネルなども作成した。小中学生だけでなく、大人からも好評を得た。



2)インスタグラムの利用とフォトスポットの設置

若年層、特に20～30代への広報として、ルーシー・リー展に続き、本展でもインスタグラムを導入した。また、展覧会情報拡散を期待し、作品画像を使用したフォトロケーションをエントランスホール内に設置した。



2)オリジナルDMの作成

展覧会のメインターゲット層である中学生に向けて、オリジナルDMを制作。市内中学校全生徒に配布したほか、市内店舗等へも配架した。

印刷物：

◆DM

＜仕様＞紙：MT^{A+}-FS 200kg

サイズ・数量：100×148mm

30,000部



DM表



DM裏

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者へ優待サービスを行った。

印刷物：

◆チラシ

＜仕様＞紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表



協賛チラシ裏

2)静岡科学館・く・るとの連携

本展連携事業として「みる・きく・さわるのさっかく展」が静岡科学館・く・るで開催された。詳細は60頁を参照。

3)静岡市立中央図書館との連携

静岡市立中央図書館からの提案で、会期中、中央図書館2階で本展と静岡科学館・く・るの「みる・きく・さわるのさっかく展」を紹介するコーナーが設置された。当館及び科学館より展示内容と関連書籍について情報を提供し、中央図書館が独自に解説などを加え展示したもので、相互協力により、良質な展示内容を作り上げることができた。



主要広報記録：

1) テレビ・ラジオ

- ・「『だまし絵』で世界的人気 「エッシャーの世界」開幕」静岡朝日テレビ『ANNニュース静岡』、7月17日放送。
- ・「展覧会紹介」ケーブルテレビ『TCNワイド』、7月25日放送。
- ・「エッシャーの世界展1万人 静岡市美術館」静岡朝日テレビ『ANNニュース静岡』、8月3日放送。
- ・「展覧会紹介」静岡朝日テレビ『とびっきり！しずおか』、8月10日放送。
- ・「展覧会紹介」静岡朝日テレビ『たまごちゃん』。

2) 新聞

- ・「静岡でエッシャー展」『毎日新聞』静岡版、7月5日。
- ・「展覧会紹介」『Weekly MAINICHI』No.2258、7月5日。
- ・神谷円香「あれっ！だまし絵に夢中 どこが一番上？環状の階段絵も 静岡市美術館 巨匠エッシャーの世界展」『中日新聞』静岡版、8月1日。
- ・河野貴子「不思議実感 来館1万人 静岡市美術館「エッシャーの世界」展」『中日新聞』静岡版、8月4日。
- ・「何が見えるかな？ 静岡でエッシャー展」『読売新聞』静岡版、8月14日。

3) 雑誌他

- ・「展覧会紹介」『美術の窓』、2月号。
- ・「展覧会紹介」『ザ・マイカー』、7月号。
- ・「エッシャーの創る『だまし絵』の世界観に圧倒される：展覧会紹介」『クーヨン』、8月号。
- ・「展覧会紹介」『美術屋・百兵衛』、2016年夏号。
- ・「世界的人気を誇るエッシャーの作品が一堂に！『エッシャーの世界』」『BARATEE』、7月号。
- ・「展覧会紹介」『UOMO』、9月号。
- ・「展覧会紹介」『日経サイエンス』、9月号。
- ・「不思議なエッシャーワールド エッシャーの世界：注目の美術展80」『男の隠れ家』、9月号。
- ・「17日から 静岡市美術館 エッシャーの世界」『富士ニュース』、7月14日。

4) ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「アットエス」、「静岡時代」、「artscape」、「Yahoo! 路線検索」



来場者2万人達成



関連事業：

1)講演会「エッシャーとサイケデリック数学」

概要：造形作家で幾何学研究者でもある日詰氏による講演会。アートや数学など氏ならではの、多角的な視点から、エッシャーの作品とその魅力を語った。日詰氏はエッシャーが生前交流のあったイギリスの数学者ロジャー・ペンローズとも面識があり、エッシャーとペンローズの交流の様子など、貴重な話も聞くことができた。

日時：7月17日(日)14:00-15:30

会場：多目的室 **参加者数：**132人

講師：日詰明男氏(幾何学アーティスト、龍谷大学理工学部数理情報学科客員教授)



2)「エッシャーの世界」展 クラシックミニコンサート

概要：展覧会共催者の静岡朝日テレビが主催。静岡交響楽団による、弦楽四重奏のコンサート。エッシャーが好んだバッハの曲だけでなく、ムソグレスキーの《展覧会の絵》など、美術館や展覧会に合った曲目を団員の解説つきで演奏した。

日時：7月31日(日)14:30開場 15:00開演

会場：多目的室 **参加者数：**88人

出演：増田訓子(第1ヴァイオリン)、沼野朱音(第2ヴァイオリン)、山崎優樹(ヴィオラ)、土山如之(チェロ)＜いずれも 静岡交響楽団＞

曲目：ヘンデル《水上の音楽》より＜アラ・ホーンパイプ＞／モーツァルト《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》K.525より第1楽章／バッハ《G線上のアリア》／モーツァルト《ディベルティメント》K.136より第1楽章／パッヘルベル《カノン》／《花は咲く》／《見上げてごらん夜の星を》／エルガー 《愛の挨拶》／マスカーニ《カヴァレリア・ルスティカーナ》より 間奏曲／バッハ《主よ、人の望みの喜びよ》／ムソルグスキー《展覧会の絵》よりプロムナード、古城／葉加瀬太郎《情熱大陸》



3)当館学芸員によるギャラリートーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため実施。展示室内でのギャラリートークを予定していたが、参加希望者が多かったため、急きょ多目的室でスライドトークとして実施した。エッシャーの生涯を辿りながらその作風の変遷、見どころを紹介し、作品と作家に対する理解を深めた。

日時：8月6日(土)14:00-

会場：多目的室 **参加者数：**83人

参加料：展覧会観覧料



出品作品リスト

・図録番号の欠番は本会場で展示されなかった作品である。
・所蔵先に記載のないものはすべて個人蔵。

1章 エッシャーとメスキータ

通し 番号	図録 番号	作者名	作品名	制作年	材質・技法	所蔵先
1	1-02	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	椅子に座っている自画像	1920年2月	板目木版	ハウステンボス美術館
2	1-45	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	サボテンと自画像	1926年	板目木版	
3	1-05	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	マントン近くの本立	1921年	板目木版(没後刷)	ハウステンボス美術館
4	1-06	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	小鳥に説法する聖フランシス	1922年	板目木版	ハウステンボス美術館
5	1-32	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	そうじ	1898年	板目木版	
6	1-33	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	ヨセフ・メンデス・デ・コスタの肖像	1908年	板目木版	
7	1-34	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	トド	1912年	板目木版	
8	1-35	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	オランダカイウの花瓶の後ろの女性の裸像	1912年	板目木版	
9	1-36	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	オニアオサギ	1915年	板目木版	
10	1-37	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	牛	1916年	板目木版	
11	1-38	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	ゆりと男女	1916-17年	板目木版	
12	1-39	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	しまうま	1918年	板目木版	
13	1-40	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	ビート・フォルキングの肖像	1919年	板目木版	
14	1-41	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	ウォーターバック	1921年	板目木版	
15	1-42	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	エクスタシー	1922年	板目木版	
16	1-43	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	王冠オウム	1924年	板目木版	
17	1-44	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	サボテン	1926年	板目木版	
18	1-46	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	マナヅル	1927年	板目木版	
19	1-47	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	バーシュドイン	1928年	板目木版	
20	1-48	サミュエル・イエッスルン・ド・メスキータ	メイド	1932年	板目木版	
21	1-08	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	『24の寓意画』中表紙	1932年4-6月	板目木版	ハウステンボス美術館
22	1-13	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	『24の寓意画』花瓶	1931年3-6月	板目木版	ハウステンボス美術館
23	1-14	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	『24の寓意画』鉄床	1931年3-6月	板目木版	ハウステンボス美術館
24	1-15	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	『24の寓意画』ブイ	1931年3-6月	板目木版	ハウステンボス美術館
25	1-16	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	『24の寓意画』やしの木	1931年3-6月	板目木版	ハウステンボス美術館
26	1-19	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	『24の寓意画』火打ち石	1931年3-6月	板目木版	ハウステンボス美術館
27	1-22	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	『24の寓意画』蜂蜜の巣箱	1931年3-6月	板目木版	ハウステンボス美術館
28	1-25	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	『24の寓意画』天秤	1931年3-6月	板目木版	ハウステンボス美術館
29	1-28	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	『24の寓意画』井戸	1931年3-6月	板目木版	ハウステンボス美術館
30	1-30	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	『24の寓意画』じょうろ	1931年3-6月	板目木版	ハウステンボス美術館
31	1-10	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	『24の寓意画』鳳	1931年3-6月	板目木版	ハウステンボス美術館
32	1-12	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	『24の寓意画』日時計	1931年3-6月	板目木版	ハウステンボス美術館

2章 イタリア周遊時代

通し 番号	図録 番号	作者名	作品名	制作年	材質・技法	所蔵先
33	2-01	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	シエナ周辺の景色	1922年12月	インク	
34	2-02	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	シエナ	1923年1月	インク	
35	1-07	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	イルカ	1923年2月	板目木版	ハウステンボス美術館
36	2-03	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	妻イエッタの肖像	1925年2月	板目木版	
37	2-05	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	オービ(アブルッツィ)	1929年9月	スクラッチ	
38	2-07	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	カストロヴァルヴァ(アブルッツィ)	1930年2月	リトグラフ	
39	2-06	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	スカンノの通り(アブルッツィ)	1930年1月	リトグラフ	
40	2-08	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	シッラ(カラブリア)	1931年1月	リトグラフ	
41	2-09	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	トロペア(カラブリア)	1931年1月	リトグラフ	
42	2-10	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	ロッカ・インペリアーレ近くの回廊(カラブリア)	1931年2月	リトグラフ	
43	2-11-1	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	アトラニ(アマルフィ海岸)	1931年8月	リトグラフ	
参考	2-11-2	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《メタモルフォーゼⅡ、Ⅲ》習作	1939年10月- 1940年3月	複製(原画:鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館

通し 番号	図録 番号	作者名	作品名	制作年	材質・技法	所蔵先
44	2-12	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	アトラニの地下路地(アマルフィ海岸)	1931年11月	木口木版	
45	2-13	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	アマルフィ海岸	1931年12月	板目木版(6色刷)	
46	2-22	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	ノンツァ(コルシカ島)	1934年2月	リトグラフ	
47	2-21	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	カルヴィの松林(コルシカ)	1933年6月	板目木版(3色刷)	
48	2-04	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	ラヴェッロ	1925年4月	インク	
49	2-14	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	サン・コシモ(ラヴェッロ)	1932年2月	リトグラフ	
50	2-15	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	マリア病院の玄関(ラヴェッロ)	1932年2月	木口木版	
51	2-20	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	やしの木	1933年2月	木口木版(2色刷)	
52	2-16	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	ガンジのミラとなった僧侶(シチリア島)	1932年6月	リトグラフ	
53	2-18	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	セジェスタの寺院(シチリア島)	1932年12月	木口木版	
54	2-19	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	(スベルリガ近くの)洞窟住居(シチリア島)	1933年1月	板目木版	
55	2-17	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	サン・ミケーレ・デイ・フリソーネ(ローマ)	1932年6月	リトグラフ	
56	2-23	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	夜のローマ:サン・ピエトロ寺院の列柱 (ヘルニーニの柱廊)	1934年3月	板目木版	
57	2-24	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	夜のローマ:ディオスクーロ・ボルックス (カンピドーリオ広場)	1934年4月	板目木版	
58	2-25	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	夜のローマ:コロセウム	1934年5月	板目木版	
59	2-26	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	(ローマの)ジャニコロから(見た) サン・ピエトロ寺院	1935年2月	木口木版	

3章 エッシャー独自の世界

通し 番号	図録 番号	作者名	作品名	制作年	材質・技法	所蔵先
参考	3-26	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	平面の正則分割	制作年不詳	複製(原画:墨、鉛筆、水彩)	原画:ハーグ市立美術館
参考	3-13	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	平面の正則分割18(二羽の鳥)	1938年2月	複製(原画:墨、鉛筆、水彩)	
参考	3-14	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	平面の正則分割22(鳥／魚)	1938年6月	複製(原画:墨、鉛筆、水彩)	
参考	3-16	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	平面の正則分割67(騎士)	1946年6月	複製(原画:墨、色鉛筆、水彩)	
参考	3-17	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	平面の正則分割71(鳥)	1948年4月	複製(原画:墨、水彩)	
60	3-25	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	平面の正則分割のスケッチ	制作年不詳	鉛筆、色鉛筆、インク	
参考	3-28	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	タイル壁画のためのスケッチ、ハーグ市の リベラル・クリスチャン中等学校のファサード	1959年	複製(原画:鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
参考	3-27	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	平面の正則分割の例と説明	1955-1965年	複製(原画:インク)	原画:ハーグ市立美術館
61	3-18	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	平面充填I	1951年3月	メジチント	
62	3-20	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	平面充填II	1957年7月	リトグラフ	
63	3-30	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	空と水I	1938年6月	板目木版	
64	3-12	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	発展I	1937年11月	板目木版	
65	3-31	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	解放	1955年4月	リトグラフ	
66	3-21	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	魚のいる球の表面	1958年7月	板目木版(2色刷)	
67	3-22	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	魚とうろこ	1959年7月	板目木版	
68	3-19	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	徐々に小さく(中心部の試刷り)	1956年10月	木口木版・板目木版(2色刷)	
69	3-23-1	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	円の極限Ⅲ	1959年12月	板目木版(5色刷)	
参考	-2 -3 -4 -5	マウリッツ・コルネリス・エッシャー マウリッツ・コルネリス・エッシャー マウリッツ・コルネリス・エッシャー マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《円の極限Ⅲ》習作 《円の極限Ⅲ》習作 平面の正則分割122(魚) 平面の正則分割123(魚)	制作年不詳 1959年 1964年4月 1964年4月	複製(原画:鉛筆) 複製(原画:色鉛筆) 複製(原画:ポスターカラー、鉛筆) 複製(原画:ポスターカラー、鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館 原画:ハーグ市立美術館 原画:ハーグ市立美術館 原画:ハーグ市立美術館
70	3-24	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	方形の極限	1964年	板目木版(2色刷)	
71	3-29	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	昼と夜	1938年2月	板目木版(2色刷)	
72	3-48	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	出会い	1944年5月	リトグラフ	
73	3-47	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	爬虫類	1943年3月	リトグラフ	
74	3-15	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	平面の正則分割56(トカゲ)	1942年11月	複製(原画:墨、金彩、色鉛筆、ポスター カラー)	
75	3-51	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	描く手	1948年1月	リトグラフ	
76	3-09-1	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	宿命(逆さまの世界)	1951年1月	リトグラフ	
参考	3-09-2	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	平面の正則分割80(トビウオ／鳥)	1950年11月	複製(原画:墨、水彩、グアッシュ)	原画:ハーグ市立美術館

通し 番号	図録 番号	作者名	作品名	制作年	材質・技法	所蔵先
	77	3-50	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	三つの球体I	1945年9月	木口木版
	78	3-49	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	バルコニー	1945年7月	リトグラフ
	79	2-27	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	セングレア(マルタ島)	1935年10月	板目木版(3色刷)
	80	3-52	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	版画画廊	1956年5月	リトグラフ
	81	3-10-1	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	深み	1955年10月	木口木版・板目木版(3色刷)
参考	-2	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《深み》習作	1955年	複製(原画:鉛筆、色鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
	-3	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《深み》習作	1955年頃	複製(原画:鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
	-4	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《深み》習作	1955年頃	複製(原画:黒と赤の鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
	-5	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《深み》習作	1955年頃	複製(原画:黒と赤の鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
	-6	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《深み》習作	1955年頃	複製(原画:鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
	82	3-01	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	想像球体を持つ手	1935年1月	リトグラフ
	83	3-03	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	三つの球体II	1946年4月	リトグラフ
	84	3-02	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	眼	1946年10月	メゾチント
	85	3-04	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	波紋	1950年3月	リノカット(2色刷)
	86	3-05	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	水たまり	1952年2月	板目木版(3色刷)
	87	3-06	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	三つの世界	1955年12月	リトグラフ
	88	3-53	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	星	1948年10月	木口木版
	89	3-54	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	二重の小惑星	1949年12月	木口木版(4色刷)
	90	3-55	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	重力	1952年6月	リトグラフ
	91	3-56	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	ダニエル・ウィレム・ヘンドリック・パタインの肖像	1943年4月	鉛筆
	92	3-57	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	エーケビュー村(ウブスラ)	1947年5月	鉛筆
	93	3-11	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	扁平虫類	1959年1月	リトグラフ
	94	3-07	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	もう一つの世界	1947年1月	木口木版・板目木版(3色刷)
	95	3-41	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	上と下	1947年7月	リトグラフ(褐色)
	96	3-42	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	相対性	1953年7月	リトグラフ
	97	3-43	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	凹凸	1955年3月	リトグラフ
	98	3-08	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	でんぐりでんぐり	1951年11月	リトグラフ
	99	3-44	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	ベルベデーレ(物見の塔)	1958年5月	リトグラフ
	100	3-45	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	上昇と下降	1960年3月	リトグラフ
	101	3-46-1	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	滝	1961年10月	リトグラフ
参考	-2	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《滝》(部分)習作	1942年9月	複製(原画:インク)	原画:ハーグ市立美術館
	-3	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《滝》習作	1960-61年頃	複製(原画:鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
	-4	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《滝》習作	1960-61年頃	複製(原画:鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
	-5	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《滝》習作	1960-61年頃	複製(原画:鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
	-6	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《滝》習作	1960-61年頃	複製(原画:鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
	-7	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《滝》習作	1960-61年頃	複製(原画:鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
	-8	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《滝》習作	1960-61年頃	複製(原画:鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
	-9	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《滝》習作	1960-61年頃	複製(原画:鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
	-10	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《滝》習作	1960-61年頃	複製(原画:鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
	-11	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《滝》習作	1960-61年頃	複製(原画:鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
	-12	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《滝》習作	1960-61年頃	複製(原画:鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
	-13	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	《滝》習作	1960-61年頃	複製(原画:鉛筆)	原画:ハーグ市立美術館
	102	3-32	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	騎手	1946年7月	板目木版(3色刷・没後刷)
	103	3-33	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	螺旋	1953年12月	木口木版(2色刷)
	104	3-35	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	白鳥(白鳥と黒鳥)	1956年2月	木口木版
	105	3-34	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	皮	1955年5月	木口木版・板目木版(4色刷)
	106	3-36	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	婚姻の絆	1956年4月	リトグラフ
	107	3-37	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	メビウスの輪I	1961年3月	木口木版・板目木版(4色刷)
	108	3-38	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	メビウスの輪II(赤蟻)	1963年2月	板目木版(3色刷)
	109	3-39	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	結び	1965年8月	板目木版(3色刷)
	110	3-40	マウリッツ・コルネリス・エッシャー	蛇	1969年7月	板目木版(3色刷)

2-4 ランス美術館展

美しきフランス バロックからフジタへ

会期：9月10日(土)～10月30日(日)

概要：フランスの古都ランスは、シャンパーニュ地方の街で、5世紀から歴代のフランス王が戴冠式を行った大聖堂のあることで知られている。発泡性ワインの「シャンパン(正式にはシャンパーニュ)」でも有名で、ランス美術館は、その「シャンパン」の生産で財を成した人々によるコレクションをもとに、1913年に開館した。現在ではフランスの絵画や工芸を中心に、中世から現代に至る幅広い作品を有している。この度同館が大規模な改修に入ったため、そのコレクションの精華を日本で紹介できることとなった。本展では、ドラクロワ、ジェリコー、コロー、ミレー、ピサロ、シスレー、ゴーギャン、ドニをはじめとする17世紀から20世紀の巨匠たち、そして晩年この地で洗礼を受け、制作も行ったレオナール・フジタ(藤田嗣治)など、特別出品を含む名画69点を展示した。

巡回先：熊本県立美術館、福井県立美術館、ひろしま美術館、東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館、山口県立美術館、名古屋市美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、テレビ静岡、中日新聞東海本社

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、静岡日仏協会、中日ショップパー

企画・監修：ランス美術館

協力：エールフランス航空、ヤマトロジスティクス、G.H.マム

静岡展特別協賛：株式会社安心堂

企画協力：株式会社ブレーントラスト

観覧料：一般 1,200円(1,000円)
大高生・70才以上 800円(600円)
中学生以下無料
※()内は前売および20名以上の団体料金
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：16,154人(有料11,432人、無料4,722人、有料率70.8%)

出品点数：69点

印刷物：

1)チラシ

＜仕様＞紙：b7トラネクスト 99kg

サイズ・加工・数量：A3二つ折り(仕上A4)78,200部(うち23,200部は市内回覧用)

2)ポスター

＜仕様＞紙：グラディアCoC 120.5kg (B1、B2、B3)

サイズ・数量：B1 70部、B2 2,000部、B3 1,300部(うち400部はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ中面



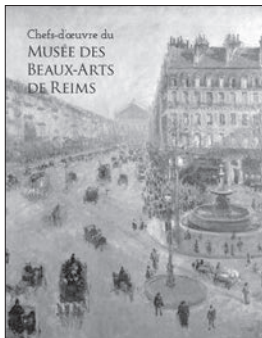
B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

<仕様>225×290mm、148頁



カタログ表紙

カラー図版91点

参考図版(カラー44点、モノクロ31点)

カトリヌ・ドゥロ「ランス美術館、コレクションの歴史」
マリー＝エレーヌ・モントゥ＝リシャル「フジタ、永遠の生のためのデッサン」ランス美術館所蔵フジタ贈与作品」

矢追愛弓「コラム①追悼のイメージ《マラーの死》」
小川かい「コラム②ランスと「シャンパーニュ」」
矢追愛弓「コラム③19世紀フランスの都市と自然」
村上哲「コラム④レオナルド・フジタとルネ・ラルー」

村上哲「平和の聖母礼拝堂をめぐる―藤田嗣治の日記から―」
森静花「ランス市紹介」

村上哲「レオナルド・フジタとランス―藤田嗣治をめぐるキリスト教図像の系譜」
深谷克典「ランス美術館とアンリ・ヴァニエのコレクション」

作家解説／出品リスト

企画・監修：カトリヌ・ドゥロ
企画統括：村上哲
編集：村上哲、ブレントラスト
編集協力：須賀百恵
エッセイ翻訳：小林晶、田中圭
章解説翻訳：岡田真梨子、小川かい、森静花、深谷克典
発行：ランス美術館展カタログ実行委員会
発行年：2016年

普及ツール：

1)コースター型DM

幅広い層からの誘客を図るため、コースター型DMを制作、市内店舗等に配布した。DMを持参した来場者には、別柄のコースター3種をプレゼントした。

印刷物：

◆DM

<仕様>紙：ニューズ(ミルク) 258kg

サイズ・加工・数量：φ90mm型抜き

柄A 15,000部、柄B 600部、柄C 600部、柄D 600部
計16,800部



柄A表



柄A裏



柄B表



柄C表



柄D表



柄B・C・D裏
(共通)

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者へ優待サービスを行った。

印刷物：

◆チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表



協賛チラシ裏



10月14日 1万人達成

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」NHKEテレ『日曜美術館アートシーン』、8月21日放送。
- ・「美術史を彩る名画の数々 ランス美術館展開幕」テレビ静岡『FNNスピーク静岡』、9月10日放送。
- ・「ランス美術館の名画が静岡に 来月30日まで開催」テレビ静岡『FNNみんなのニュースしずおか』、9月10日放送。
- ・「展覧会紹介」TOKAIケーブルネットワーク『TCNワイド』、9月14日放送。
- ・「展覧会紹介」テレビ静岡『てっぺん静岡』、10月6日放送。
- ・「ランス美術館1万人来場」テレビ静岡『FNNスピーク静岡』、10月14日放送。
- ・「展覧会開催」FM-Hi!『chalchalサタデー 静岡ドライブインフォメーション』、10月15日放送。

2)新聞

- ・河野貴子「日本初公開含む70点 10日から葵区 ランス美術館展 ミレーにゴーギャン、藤田嗣治ら絵画 先着500人にコースター」『中日新聞』静岡版、9月8日。
- ・「芳醇な秋の実り ランス美術館展あす開幕 静岡市美術館10月30日まで」『中日新聞』静岡版、9月9日。
- ・松野穂波「芸術の秋に欧州の名画を 静岡市美術館 ランス美術館展開幕」『中日新聞』(夕刊)、9月10日。
- ・「フジタの作品一度に 静岡市美術館 ランス美術館展開幕」『中日新聞』静岡版、9月11日。
- ・小川かい「ランス美術館展①10月30日まで静岡市美術館：静謐と凄惨さの対比：マラーの死 ジャック＝ルイ・ダヴィッド(および工房)1793年7月13日以降」『中日新聞』静岡版、9月17日。
- ・小川かい「ランス美術館展②10月30日まで静岡市美術館：流行のドレス 華やか：ルイ・ボメリー夫人 エドゥアール・デュビュッフ1875年」『中日新聞』静岡版、9月18日。
- ・小川かい「ランス美術館展③10月30日まで静岡市美術館：パリを捉えた代表作：オペラ座通り、テアトル・フランセ広場 カミーユ・ピサロ1898年」『中日新聞』静岡版、9月21日。
- ・小川かい「ランス美術館展④10月30日まで静岡市美術館：「仕切る」技法で表現：バラと彫像 ポール・ゴーギャン1889年」『中日新聞』静岡版、9月22日。
- ・小川かい「ランス美術館展⑤10月30日まで静岡市美術館：設計、壁画 全て自分で：平和の聖母礼拝堂 レオナルド・フジタ(藤田嗣治)」『中日新聞』静岡版、9月23日。
- ・松野穂波「きらめく美の潮流 ランス美術館展 10月30日まで静岡市美術館」『中日新聞』静岡版、9月24日。
- ・品「ランス美術館展(静岡市美術館、30日まで。月曜休館)：美術」『中日新聞』、10月12日。
- ・河野貴子「ランス美術館展1万人 焼津・沼津の姉妹に記念品 静岡市美術館で開催中」『中日新聞』静岡版、10月15日。
- ・「ランス美術館展 私のお気に入り 上 静岡市美術館総務課 岩倉牧：森を歩く気配や存在感：《フォンテーヌブローの森》1874年 ナルシス＝ヴィルジール・ディアズ・ド・ラ・ペーニャ」『中日新聞』静岡版、10月24日。
- ・「ランス美術館展 私のお気に入り 中 静岡市美術館 会場案内係 齊藤和子：さわやかな視線が魅力：《男の肖像》1845年 ジャン＝フランソワ・ミレー」『中日新聞』静岡版、10月25日。
- ・「ランス美術館展 私のお気に入り 下 静岡市美術館 ミュージアムショップ&カフェ 三浦育美：独特の青色 透き通る空：《カーディフの停泊地》1897年 アルフレッド・シスレー」『中日新聞』静岡版、10月26日。

聞』静岡版、10月26日。

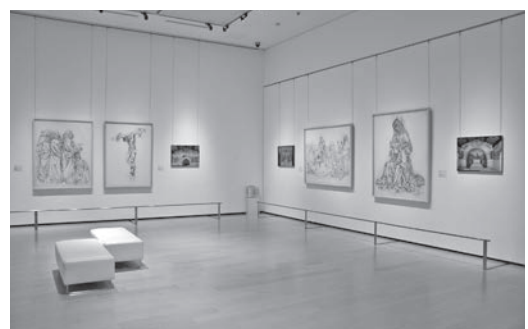
- ・「ランス美術館展30日まで」『中日新聞』静岡版、10月27日。
- ・「ランス美術館展あすまで」『中日新聞』静岡版、10月29日。

3)雑誌他

- ・「展覧会紹介」『百花壇』、9-10月号。
- ・「展覧会紹介」『日経サイエンス』、10月号。
- ・「絶対に行きたい!!美術館展 海外美術館展 貴重な作品が来日 ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ」『ギャラリー』、9月号。
- ・「展覧会紹介」『ゆうゆう』、10月号。
- ・「音楽と美術の幸せな出会い」、「美術とCHAMPAGNE 味のマリアージュ」、「芳醇の秋」『ORANGE PRESSE maison』、9月号。
- ・「ランス美術館展 静岡市美術館10日に開幕」『富士ニュース』第21081号、9月7日。
- ・「静岡・葵区 美しきフランス バロックからフジタへ：展覧会紹介」『ワイナート』、10月号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「アットエス」、「静岡市facebook」、「ウェブマガジンきんぽう」、「Yahoo!JAPAN」、「じゃらんnet」、「まちほ」、「artscape」、「Yahoo!路線検索」



関連事業：

1) 講演会①「レオナルド・フジタとランスー魂の安寧の地へ」

概要：本展企画統括者で、レオナルド・フジタの研究でも知られる村上氏による講演会。ランスで制作された作品を中心に、フジタ晩年の創作活動の様子が紹介された。また「平和の聖母礼拝堂」をはじめ、フジタのキリスト教を主題にした作品が、どのようにして構想され描かれたかが述べられ、西洋文化の中で、自らのオリジナリティーをいかに確立するか模索し続けたフジタの姿を、具体的な作品を通じて知ることができた。

日時：9月10日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：85人

講師：村上哲氏(熊本県立美術館学芸課長／本展企画統括)



2) 学芸員によるギャラリートーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるギャラリートークを実施。18世紀以降の西洋絵画の流れを概説しながら、その時代を代表する作品について、描かれた背景や見どころなどを詳しく解説した。

日時：9月17日(土)、10月9日(日)いずれも 14:00-

会場：展示室 参加者数：計94人

参加料：展覧会観覧料



3) コンサート「バロックから近代へ～音楽でめぐるヨーロッパ～」

概要：本展で紹介された17世紀から20世紀のヨーロッパの音楽の発展の様子を、声楽曲やチェンバロなど地元グループの演奏で紹介した。演奏の合間には、出演者による曲目解説も行われた。また、フジタが幼少期を過ごした熊本の「五木の子守歌」も披露された。

日時：9月22日(木・祝)13:30開場 14:00開演

会場：多目的室 参加料：1,000円 参加者数：93人

出演：戸崎廣乃(チェンバロ)、戸崎文葉(指揮)、静岡児童合唱団・青葉会スベリオル<主宰・戸崎裕子>(合唱)

曲目：コレット《星》／モンセラートの“朱い本”《喜びの都の女王》／ハンドル《アレレヤ》／ハスラー《主にむかいて新しき歌をうたえ》／ギボンズ《白銀の白鳥》／クーペラン《百合の花開く》《小さな鐘》／バルバストル《マルセイエーズ》／モンテヴェルディ《来たれ、来たれ》《歌いさえずる小鳥よ》／サティ《グノシエンヌ第1番》／ブルガリア聖歌《主の御名をほめたたえよ》／トリチコフ《愛しき祖国》／熊本県民謡、間宮芳生編曲《五木の子守歌》

主要広報記録：

◆新聞

・垣見窓佳「ランス美術館展合わせコンサート 静岡市美術館」『中日新聞』静岡版、9月23日。



4)「シャンパーニュのタベ」(展覧会レクチャー&シャンパン試飲会)

概要：ランスの主要産業の一つで、ランス美術館のコレクション形成にも関係のあった「シャンパン(シャンパーニュ)」を紹介。2部構成の事業とし、第1部ではランス美術館とシャンパーニュの関わりについてのスライドトーク、第2部では、静岡市内を中心に活躍するソムリエを講師にむかえ、生産の歴史や醸造方法、シャンパーニュの味わい方についてのレクチャーを試飲つきで実施した。

日時：10月8日(土)18:30-20:30 **会場：**多目的室

参加料：3,500円(チケット制・展覧会観覧券付き)

参加者数：46人

講師：＜スライドトーク＞当館学芸員、＜レクチャー＞長谷川浩美氏(ラ・ソムリエール)

協力：静岡日仏協会、ラ・ソムリエール (有)長谷川和洋酒、G.H.マム

主要広報記録：

◆新聞

・松野穂波「シャンパンに名画の薫り 「ランス展」ゆかりの3種試飲 静岡市美術館」『中日新聞』静岡版、10月9日。



5)コンサート「音楽と美術の幸せな出会い」

概要：フランス在住のピアニスト、パトリシア・パニーによるコンサートを、静岡日仏協会の協力を得て実施。「テンペスト(嵐)」をプログラムテーマに設定し、パニー氏が本展出品作から選んだ作品の画像を背景に投影しながら演奏された。

日時：10月23日(日)14:00-16:00

会場：多目的室 **参加料：**2,500円 **参加者数：**66人

出演：パトリシア・パニー (ピアニスト)

曲目：モーツァルト《ソナタ ヘ長調 K.332》／グリーク《4つの作品》／ベートーベン《ピアノソナタ第17番 ニ短調 作品31-2》／シューベルト《アンゼラム・ヒュッテンブレンナーの主題による変奏曲 D576 イ短調》／ショパン《ノクターン 作品27-1》《バラード第2番 作品38》／ドビュッシー《前奏曲集》より「帆」「西風のみたもの」「交替する三度」

協力：静岡日仏協会、ヤマハ株式会社

主要広報記録：

◆新聞

・瀬田貴嗣「作品とピアノ演奏 目と耳で楽しむ 静岡市美術館」『中日新聞』静岡版、10月24日。



出品作品リスト

*作品の所蔵先は以下を除き、すべてランス美術館
S1：公益財団法人ひろしま美術館 S2、S3：熊本県立美術館
S4：アンスティチュ・フランセ関西(旧関西日仏学館)

I. 国王たちの時代

No	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
1	マールテン・ブーレマ・デ・ストンメ	レモンのある静物	17世紀	油彩・板	44.8×38.9
2	テオドール・ロンブー (と思われる)	コンサート	17世紀前半	油彩・カンヴァス	94.2×161.1
3	作者不明(フランス)	ルイ13世	17世紀	油彩・カンヴァス	65×52.9
4	ピエトロ・マルティレ・ネリ (ソフォニスバ・アングソラに基づく)	マクシミリアン・スタンパ、サンシノ侯爵3世、9歳	1630年から 1640年頃	油彩・カンヴァス	136.8×73.5
5	フィリップ・ド・シャンパーニュ (に基づく)	ジャン＝バティスト・コルベール	17世紀	油彩・カンヴァス	62.3×52.5
6	クロード・ヴィニョン(に基づく)	ダヴィデ	17世紀	油彩・カンヴァス	116.1×88.2
7	ヤーコブ・ヨルダーンス(と思われる)	サテロス	17世紀	油彩・カンヴァス	95.2×100.5
8	ジュリオ・カルピオーニ	パッカス祭	1638年以降	油彩・カンヴァス	83×122.2
9	ジャック・マルモッテ	レダ	おそらく18世紀後半	油彩・カンヴァス	69×100.2
10	作者不明(フランス)	ルイ15世の娘、アデライード夫人の肖像(と思われる)	18世紀	油彩・カンヴァス	35.5×30.5
11	作者不明(フランス)	ディアナに扮した女の肖像	18世紀	油彩・カンヴァス	78.5×61.3
12	ドナシアン・ノット	女の肖像	1750年頃	油彩・カンヴァス	92×69.1
13	リエ＝ルイ・ペラン＝サルブルー	ソフィー夫人(またの名を小さな王妃)の肖像	1776年	油彩・カンヴァス	65×54.4
14	ニコラ・トーネイ	村人たちのダンス	1790年頃	油彩・カンヴァス	66.2×82.3

II. 近代の幕開けを告げる革命の中から

No	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
15	アレクサンドル・ロズラン	リエ＝ルイ・ペラン＝サルブルー	1791年	油彩・カンヴァス	58.3×48.4
16	ジャック＝ルイ・ダヴィッド (および工房)	マラーの死	1793年7月13日以降	油彩・カンヴァス	111.3×86.1
17	テオドール・ジェリコー (と思われる)	佐官に命令をするナポレオン	1812年から1816年の間	油彩・カンヴァス	45.9×55.5
18	テオドール・シャセリオー	バンクォーの亡霊	1854年から1855年の間	油彩・板	53.8×65.3
19	ウジェーヌ・ドラクロワ	ポロニウスの亡骸を前にするハムレット	1854年から1856年の間	油彩・カンヴァス	59.6×48
20	テオドール・シャセリオー	とらわれの女	1845年から1850年の間	油彩・カンヴァス	46.4×38.3
21	シャルル・ランデル	タンジールのユダヤ人の女	1866年以降	油彩・カンヴァス	61.4×50.6
22	カミーユ・コロー	川辺の木陰で読む女	1865年から1870年の間	油彩・カンヴァス	55.6×46.3
23	ジャン＝フランソワ・ミレー	男の肖像	1845年頃	油彩・カンヴァス	40.8×32.7
24	オノレ・ドーミエ	画家	1867年頃	油彩・板	35.8×32
25	ギュスターヴ・クールベ	彫刻家マルチェロ(カステリオーネ＝コロナ公爵夫人)	1870年	油彩・カンヴァス	60×49.3
26	エドゥアール・デュBUFF	ルイ・ボメリー夫人	1875年	油彩・カンヴァス	130.8×90.5
27	フランソワ・ボンヴァン	昼食、一杯のカフェ	1879年	油彩・板	41×30.1
28	ナルシス＝ヴィルジール・ディアズ・ ド・ラ・ペーニャ	フォンテーヌブローの森	1874年	油彩・板	39×57.2
29	ウジェーヌ・ブーダン	ダンケルク周辺の農家の一角	1889年	油彩・カンヴァス	46.8×65.5

III. モデルニテをめぐって

No	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
30	スタニスラス・レピーヌ	フルール河岸	1884年から1888年頃	油彩・カンヴァス	32.4×46.3
31	アルフレッド・シスレー	カーディフの停泊地	1897年	油彩・カンヴァス	54.1×65.4
32	カミーユ・ピサロ	オペラ座通り、テアトル・フランセ広場	1898年	油彩・カンヴァス	73.3×92.3
33	ジャン＝フランソワ・ラファエリ	シャンゼリゼ	1902年	油彩・カンヴァス	65.4×81.3
34	アンリ・ファンタン＝ラトゥール	まどろむニンフ	1900年頃	油彩・カンヴァス	38.3×46.3
35	アンリ・ジェルヴェックス	期待はずれ	1890年以前	油彩・カンヴァス	51.3×44.6

No	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
36	アルフレッド＝フィリップ・ロル	アレクサンドル・デュマ(子)[未完]	1895年11月以前	油彩・カンヴァス	142×109
37	エドゥアール・ヴェイヤール	試着	1892年頃	油彩・板	23.8×18.5
38	ポール・ゴーギャン	バラと彫像	1889年	油彩・カンヴァス	73.2×54.5
39	ルイ・バヴィオ	トリニテ広場	1900年	油彩・カンヴァス	81×116
40	モーリス・ドニ	魅せられた人々	1907年	油彩・カンヴァス	80.2×120.6
41	ポール・ジューヴ	修復中のランス大聖堂	20世紀	油彩・板	58.5×49.7
42	ヨーゼフ・シマ	ロジェ・ジルベール＝ルコント	1929年	油彩・カンヴァス	100×81

IV. フジタ、ランスの特別コレクション

No	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
43	レオナール・フジタ	マンゴー	1932年	油彩・インペールに貼ったカンヴァス	100.5×81.3
44	レオナール・フジタ	若いアフリカの女と子供	1932年	油彩・インペールのパネルに貼ったカンヴァス	54×44.5
45	レオナール・フジタ	好色	20世紀後半	油彩・カンヴァス	38.1×55.3
46	レオナール・フジタ	フジタ、7歳	20世紀	油彩・インペールに貼ったカンヴァス	110×40
47	レオナール・フジタ	少女	1957年11月27日	油彩、ガラス・鉛	67×29.6×0.5
48	レオナール・フジタ	猫	1963年	油彩・カンヴァス	62.7×76.5
49	レオナール・フジタ	マドンナ	1963年	油彩・カンヴァス	60.9×38.2
50	レオナール・フジタ	奇跡の聖母	1964年6月6日	油彩・カンヴァス	65.3×54.1
51	レオナール・フジタ	授乳の聖母	1964年7月11日	油彩・カンヴァス	64.9×54.2
52	レオナール・フジタ	聖母マリア	1965年7月	テンペラ、油彩・合板	25.6×26
53	レオナール・フジタ	サロメ	1965年7月	テンペラ、油彩・合板	26.4×24.5
54	レオナール・フジタ	キリスト	1965年7月	テンペラ、油彩・合板	23.3×18.3
55	レオナール・フジタ	聖ペテロ	1965年頃	テンペラ・合板	26×24.4
B1	レオナール・フジタ	聖母子	1965年4月19日	フェルトペン、ボールペン、木炭、 擦筆・紙	146.8×120.5
B2	レオナール・フジタ	信徒たち	1965年5月5日	木炭、擦筆・紙	139×112
B3	レオナール・フジタ	聖カエキリア マンドリンをもつ聖女	1965年5月12日	木炭、擦筆、紙	91.6×45.2
B4	レオナール・フジタ	手足の不自由な人を癒すキリスト キリストの奇跡	1965年5月20日	木炭、擦筆、ボールペン・紙	126.8×119.4
B5	レオナール・フジタ	降誕	1965年5月22日	木炭、擦筆・紙	118.9×152.5
B6	レオナール・フジタ	十字架の盗人	1965年5月24日	木炭、擦筆・紙	141.6×101
B7	レオナール・フジタ	五つの大罪 七つの大罪から	1965年11月4日	木炭、擦筆・紙	62×44.1
B8	レオナール・フジタ	聖カエキリア マンドリンをもつ聖女	1965年11月	木炭、摺筆、インク、フェルトペン、 ボールペン、水彩・紙	132×50.2
B9	レオナール・フジタ	楽園から追放されるアダムとイヴ	20世紀後半	水彩、インク、パステル、 フェルトペン、・紙	63×46
B10	レオナール・フジタ	箱舟を造るノア	20世紀後半	木炭、インク、パステル、 フェルトペン、・紙	63×46
S1	レオナール・フジタ	十字架降下	1927年	油彩・カンヴァス	150×150
S2	レオナール・フジタ	ヴァイオリンを持つこども	1923年	油彩・カンヴァス	116×73
S3	レオナール・フジタ	キリストの顔	1966年	フレスコ・カンヴァス	27.2×23.4
S4	レオナール・フジタ	ノルマンディーの春	1936年	油彩・カンヴァス	200×272

2-5 高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。 スタジオジブリ・レイアウト展

会期：11月19日(土)～2月5日(日)

概要：アニメーションは実写の映画とは違い、登場人物やその背景、雨や風などの自然現象にいたるまで、あらゆる素材をすべて一から描かなくてはならない。分業化が進んだ現在のアニメーション制作において、スタッフ全員がイメージや世界観を共有し、作品に統一感を持たせ、同時に画面を決定する重要な役割を果たすものが、原寸大の紙に鉛筆で描かれた《レイアウト》である。本展では「風の谷のナウシカ」から「思い出のマーニー」まで、宮崎駿監督直筆のレイアウトを中心に、高畑勲、宮崎駿監督がジブリ以前に手がけた「アルプスの少女ハイジ」や「赤毛のアン」等も加えた、全33タイトルのレイアウト画約1,360点を一挙に公開した。一枚一枚のレイアウトには、そのカットで表現される“すべて”が詰まっている。スタジオジブリの名作アニメーションはいかにして生まれたのか。レイアウトを読み解くことに主眼を置き、その秘密に迫った。

なお、毎週木曜日と土曜日は、会話を楽しみながら展覧会鑑賞ができる「トークフリーデー」とした。

巡回先：東京都現代美術館、サントリーミュージアム[天保山]、徳島県文化の森総合公園、松坂屋美術館、札幌芸術の森美術館、青森県立美術館、福島県立美術館、熊本県立美術館、松本市美術館、秋田県立美術館、沖縄県立博物館・美術館、福岡アジア美術館、愛媛県美術館、新潟県立万代島美術館、静岡市美術館ほか

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、Daiichi-TV

企画制作協力：スタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

協賛：エプソン販売、ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン

協力：セキスイハイム東海、スタジオアリス、JVIS

観覧料：一般 1,300円(1,100円)
大高生・70才以上 900円(700円)
中学生以下無料
※()内は前売および20名以上の団体料金
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：79,378人(有料54,093人、無料25,285人、有料率68.1%)

出品点数：1,362点

印刷物：

1)チラシ

＜仕様＞紙：b7トラネクスト 86kg

サイズ・加工・数量：A3二つ折り(仕上A4)176,000部

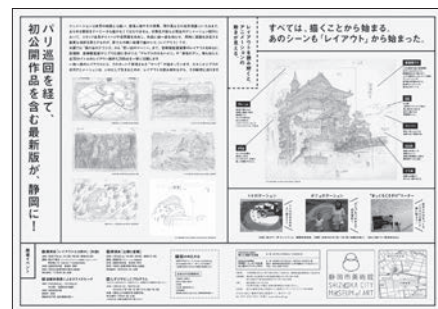
2)ポスター

＜仕様＞紙：マットコート 135kg (B1)、A-プランスノーホワイト103kg (B2・B3)

サイズ・数量：B1 70部、B2 1,650部、B3 3,200部(うち400部はJR帯つき)



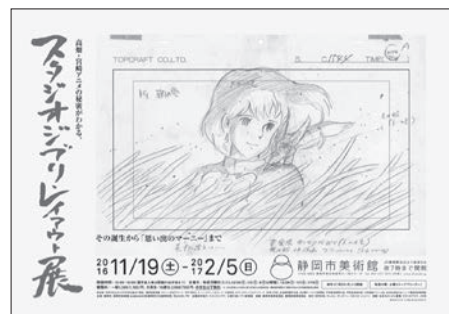
チラシ表面



チラシ中面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

＜仕様＞230mm×297mm、460頁＋特別小冊子12頁



カタログ表紙

カラー図版1,447点

参考図版(カラー49点、モノクロ10点)

高畑勲「レイアウトはアニメーション映画制作のキイ・ポイント」
大塚康生 取材・構成／叶精二「レイアウト変遷史－東映動画創設から現代まで」
宮崎吾朗「映画『ゲド戦記』を制作しながら学んだ、絵コンテとレイアウトの重要性」
藤森照信「ジブリアニメの二つの遠近法」
行定勲「24分の1コマの核」
山口晃「動画の卵」
小黒祐一郎「宮崎駿のレイアウトと『アルプスの少女ハイジ』の革命」

展示物「レイアウト」について／用語解説／高畑勲・宮崎駿・スタジオジブリ作品年表／展示作品リスト

発行：日本テレビ放送網株式会社
編集：株式会社スタジオジブリ
編集担当：齊藤陸志(スタジオジブリ出版部)
筒井亮子(スタジオジブリ展示企画部)
編集協力：井筒理枝子、及川静
発行年：2008年

普及ツール：

1)音声ガイド

2)12月は“まっくろくろすけ”と展覧会を見に行こう！

閑散期対策として、12月中に“まっくろくろすけ”を想起させる小物等を持参し、受付で提示するとオリジナル缶バッジをプレゼントするイベントを実施した。

制作物：

◆缶バッジ

＜仕様＞φ32mm



オリジナル缶バッジ

利用者数：450人

3)オリジナル鑑賞ガイド

スタジオジブリ協力のもと、レイアウトの鑑賞のポイントをもとめたガイドを制作。用語解説や作品解説の他、実写映画との違いや制作工程をイラスト入りでわかりやすく紹介した。

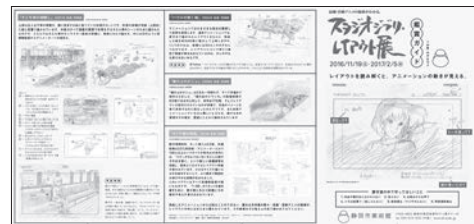
印刷物：

◆鑑賞ガイド

＜仕様＞紙：b7トラネクスト 86kg

サイズ・加工・数量：210×445.5mm（仕上210×148.5mm）

巻三つ折り 80,000部



鑑賞ガイド表



鑑賞ガイド裏

4)撮影コーナーの設置

本展に関連して、ジブリのキャラクターと一緒に写真撮影ができるコーナーを2箇所設けた。トトロのおなかの上に乗っているかのような写真が撮れる「トトロケーション」を葵タワー1階エントランスホールに、ポニョをつかまえたような写真が撮れる「ポニョロケーション」を美術館フロアエレベーター横に設置した。



トトロケーション(協力：葵タワー管理組合法人)



ポニョロケーション

5)自分だけの“まっくろくろすけ”を描いて壁に貼ろう！

シールにオリジナルの“まっくろくろすけ”を描けるコーナーを展示室出口に設置。描いたものは出口に設置されたパネルに貼り付けられるようにし、幅広い年代層から好評を得た。



6)スタジオアリスによる来場記念撮影会

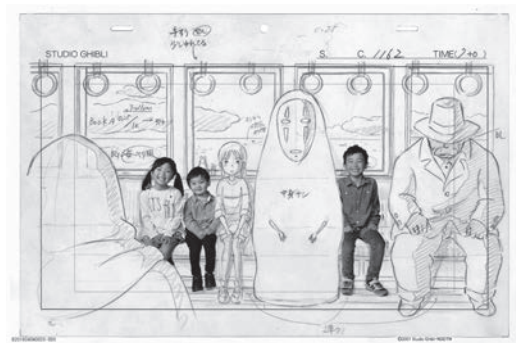
展覧会協賛社のスタジオアリスの協力で、プロのカメラマンがその場で撮った写真を合成して、『千と千尋の神隠し』のレイアウトの中に入っているような写真に仕上げる撮影会を実施した。

日時：11月18日(金)～20日(日)、12月23日(金・祝)～27日(火)

料金：1枚1,000円

プリントサイズ：177×127mm

利用者数：249組



見本

7)インスタグラムの利用

10代から30代をターゲットに、インスタグラムで情報を発信。展覧会の様子や作品解説を掲載した。

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者へ優待サービスを行った。

印刷物：

◆チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表



協賛チラシ裏

2)紺屋町名店街との連携

はじめての試みとして、地元の商店街である紺屋町名店街と連携し「スタジオジブリ・レイアウト展を観たら商店街に急ごう！」を開催。展覧会の半券提示で参加できるスピードくじを実施し、美術館と商店街との回遊性を高めることができた。

日時：11月19日(土)、20日(日)、23日(水・祝)、26日(土)、27日(日)13:00～16:00

スピードくじ実施場所：紺屋町名店街・小椋神社前

景品内容：中島屋クリスマスディナーペア券、スタジオジブリ・レイアウト展オリジナル缶バッジ(各日200個)

参加者数：638人

制作物：

◆告知チラシ(商店街作成)

<仕様>サイズ：A5



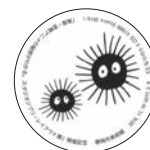
告知チラシ表



告知チラシ裏

◆缶バッジ

<仕様>φ32mm



オリジナル缶バッジ

3)静岡音楽館AOIとの連携

静岡音楽館AOIの主催で、「子どものためのコンサート 弦楽四重奏で聴く『ジブリ』の世界」を実施した。詳細は61頁参照。

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

・「スタジオジブリ・レイアウト展 静岡市美術館ですから」Daiichi-TV『news.every しずおか』、11月18日放送。
・「展覧会紹介」Daiichi-TV『ストリートニュース静岡』、11月19日放送。
・「展覧会紹介」Daiichi-TV『FRONT ZERO』、11月19日放送。
・「ジブリアニメの秘密がここに！」Daiichi-TV『あいチャン!!』、11月22日放送。
・「静岡市美術館 スタジオジブリ・レイアウト展に1万人！」Daiichi-TV『ストリートニュース』、11月25日放送。
・「スタジオジブリ・レイアウト展1万人達成」Daiichi-TV『news.every しずおか』、11月25日放送。
・「まるごとジブリ」Daiichi-TV『まるごと』、11月25日、12月2日・9日・16日・23日、1月6日・13日・20日・23日・27日、2月3日放送。
・「展覧会紹介」Daiichi-TV『まるごと』、12月14日放送。
・「静岡市美術館 ジブリ作品制作の舞台裏語る」Daiichi-TV『news every.サタデーしずおか』、12月17日放送。
・「静岡市美術館 スタジオジブリ・レイアウト展 3万人達成」Daiichi-TV『ストリートニュース』、12月23日放送。
・Daiichi-TV『スタジオジブリ・レイアウト展特番』、12月26日放送。
・「スタジオジブリ・レイアウト展」Daiichi-TV『The Shizuoka 2016 キオクを刻んだNEWSの扉』、12月31日放送。
・「ジブリレイアウト展来場者5万人」Daiichi-TV『news.every サタデーしずおか』、1月14日放送。
・「図録プレゼント」Daiichi-TV『得トク！ナビ』、1月20日・22日、2月3日・5日放送。
・「図録プレゼント」Daiichi-TV『あいチャン!!』、1月23日～27日放送。
・「三鷹の森ジブリ美術館紹介」Daiichi-TV『まるごと』、1月23日放送。
・「展覧会紹介」Daiichi-TV『ももコレ』、1月28日・2月4日放送。
・「スタジオジブリ・レイアウト展にぎわう」Daiichi-TV『news.everyサタデーしずおか』、2月4日放送。

2)新聞

・「高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。スタジオジブリ・レイアウト展 11月19日から静岡市美術館で開催」『報知新聞』静岡版、9月20日、10月25日、11月15日。
・「Studio Ghibli Layout Designs: Understanding the Secrets of Takahata/Miyazaki Animation」『The Japan Times』、11月9日。
・垣見窓佳「ジブリ・レイアウト画 きょうから葵区の美術館 トトロなど1300点展示」『中日新聞』静岡版、11月19日。
・「ジブリアニメ設計図1300点 きょうから静岡でレイアウト展」『読売新聞』静岡版、11月19日。
・「高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。スタジオジブリ・レイアウト展 静岡市美術館で大好評開催中！」『報知新聞』静岡版、11月22日、1月3日。
・「ジブリ・レイアウト展 盛況 静岡、入場者1万人を突破」『読売新聞』静岡版、11月26日。
・垣見窓佳「ジブリ展1万人達成セレモニー 静岡市美術館」『中日新聞』静岡版、11月26日。
・「まるごとブログ：ジブリの世界を“ジップリ”ご堪能下さい！」『報知新聞』静岡版、12月2日。
・安岡真理「スタジオジブリ・レイアウト展」①：画面決定づける鉛筆画：「もののけ姫」©1997 Studio Ghibli・ND『読売新聞』静

岡版、12月13日。

・安岡真理「スタジオジブリ・レイアウト展」②：手で描かれた線の魅力：「風の谷のナウシカ」©1984 Studio Ghibli・H『読売新聞』静岡版、12月14日。
・安岡真理「スタジオジブリ・レイアウト展」③：一枚一枚にすべてが表現：「となりのトトロ」©1988 Studio Ghibli『読売新聞』静岡版、12月15日。
・安岡真理「スタジオジブリ・レイアウト展」④：キャラ設定まで詳細に：「千と千尋の神隠し」©2001 Studio Ghibli・NDDTM『読売新聞』静岡版、12月17日。
・「高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。スタジオジブリ・レイアウト展：「風の谷のナウシカ」©1984 Studio Ghibli・H」『毎日新聞』静岡版、12月20日。
・安岡真理「スタジオジブリ・レイアウト展」⑤：アニメの秘密文字にも：「かぐや姫の物語」©2013 Studio Ghibli・NDHDMTK『読売新聞』静岡版、12月21日。
・「ジブリ展3万人」『読売新聞』静岡版、12月24日。
・「来場5万人突破 ジブリ・レイアウト展」『読売新聞』静岡版、1月15日。

3)雑誌他

・「展覧会紹介」『ひととき』、11月号。
・「展覧会紹介」『日経サイエンス』、12月号。
・「展覧会紹介」『InRed[インレッド]』、12月号。
・「展覧会紹介」『LARME[ラルム]』、1月号。
・「展覧会紹介」『ザ・マイカー』、1月号。
・「スタジオジブリの名作をレイアウトを通して読み解く：列島たび前線 展覧会紹介」『旅行読売』、12月号。
・「『ハウルの動く城』や『風の谷のナウシカ』など名作アニメの秘密を探る」『Precious』、1月号。
・「高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。スタジオジブリ・レイアウト展 2月5日まで」『富士ニュース』第21177号、1月5日。

4)ウェブサイト等

「Japan Design Net」、「ShareArt」、「Yahoo!JAPAN」、「じゃらんnet」、「まちば」、「静岡観光コンベンション協会イベントカレンダー」、「クラブオフ」、「アットエス」、「はままつ子育てネットワークぴっぴ」、「Girls artalk」、「artscape」、「Yahoo! 路線検索」



1月14日 来場者5万人達成



関連事業：

1)担当学芸員によるスライドトーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、担当学芸員がスライドを用いて展示解説を行った。映像等資料を多数用いることで、難解なレイアウトの役割をわかりやすく伝えただけでなく、レイアウトに書き込まれた用語についても解説した。

日時：11月26日(土)、1月15日(日)いずれも 14:00－

会場：多目的室 **参加者数：**計128人



2)講演会「レイアウトとは何か」(対談)

概要：スタジオジブリの田中氏と、三鷹の森ジブリ美術館の西岡氏による対談。「レイアウト」について、それぞれ制作者と広報という異なる立場から、制作秘話を交えながら解説された。西岡氏は、国内外から多くの来館者でにぎわうジブリ美術館の、その特徴的な展示方法や企画展についても紹介された。

日時：12月17日(土)14:00－16:00

会場：多目的室 **参加者数：**100人

講師：田中千義氏(スタジオジブリ／イベント事業室・プロデューサー)、西岡純一氏(三鷹の森ジブリ美術館事務局長)

主要広報記録：

◆新聞

・「ジブリアニメ設計図を解説：レイアウト展 名作を例に」『読売新聞』静岡版、12月18日。

・垂水友里香「鉛筆と紙でこれだけできる」：レイアウト展でジブリスタッフが対談：静岡市美術館」『毎日新聞』静岡版、12月21日。



3)講演会「主観と客観」

概要：日本で初めてレイアウトシステムを導入した高畑監督による講演会。実写のカメラワークを取り入れた「PAN」、海外作品にはあまり見られないキャラクターの心理描写等その実験的な試みを、自身の初監督作品から最新作までの映像を見せながら解説された。また、アニメーションにおける主観的表現と客観的表現や、現在氏が最も関心を持っているという「手で描かれた線の魅力」についても言及された。

日時：1月14日(土)14:00-16:00 会場：多目的室

参加者数：115人

講師：高畑勲氏(アニメーション映画監督)

主要広報記録：

◆新聞

・「ジブリ高畑監督 作品作りを語る：静岡市美術館で」『中日新聞』静岡版、1月15日。



出品作品リスト

・サイズについて…展示されたレイアウトは、基本的に3種類の定型用紙(230×350mm、230×300mm、228×268mm)に描かれている。(ただし「かぐや姫の物語」のみイレギュラーサイズ)
・画材について…すべて、紙に鉛筆・色鉛筆(一部の作品にはペンも)を使用

第1部 スタジオジブリ作品のレイアウト

タイトル	制作年	作品数
風の谷のナウシカ	1984	46
天空の城ラピュタ	1986	77
火垂るの墓	1988	25
となりのトトロ	1988	29
魔女の宅急便	1989	3
おもひでぽろぽろ	1991	61
紅の豚	1992	30
海がきこえる	1993	10
平成狸合戦ぽんぽこ	1994	63
耳をすませば	1995	23
On Your Mark	1995	3
もののけ姫	1997	92
ホーホケキョ となりの山田くん	1999	25
千と千尋の神隠し	2001	463
猫の恩返し	2002	7
ギブリーズ エピソード2	2002	1
ハウルの動く城	2004	68
ゲド戦記	2006	9
崖の上のポニョ	2008	40
借りぐらしのアリエッティ	2010	13
コクリコ坂から	2011	18

第2部 「レイアウトシステム」のはじまり

タイトル	制作年	作品数
アルプスの少女ハイジ	1974	35
母をたずねて三千里	1976	28
未来少年コナン	1978	24
赤毛のアン	1979	10
ルパン三世 カリオストロの城	1979	8
ルパン三世(第2シリーズ)	1980	7
じゃりン子チエ	1981	17
セロ弾きのゴーシュ	1982	4
名探偵ホームズ	1984	31
風立ちぬ	2013	26
かぐや姫の物語	2013	49
思い出のマーニー	2014	17
合計		1,362

2-6 夢二と京都の日本画

会期：2月18日(土)～3月26日(日)

概要：岡山県出身の竹久夢二(1884～1934)は、明治34(1901)年に単身上京、苦学しながら投稿したコマ絵(新聞等の紙面に挿入される独立した絵のこと)で認められ、明治42(1909)年に『夢二画集 春の巻』を出版し人気を集めた。

出版物での活躍から出発した夢二が、初めて肉筆画やスケッチを披露したのは大正元(1912)年のことだった。記念すべき初個展の会場は京都府立図書館であった。また、大正5(1916)年11月から2年間京都に住み、大正7(1918)年には府立図書館で再び個展を開くなど、京都に足跡を残している。

明治末期から大正にかけての京都では、日本画と西洋絵画の融合をはかった竹内栖鳳や、気品溢れる美人画を描いた上村松園らが充実した制作ぶりを見せていた。より若い世代の土田麦僊や小野竹喬たちは海外の新思潮に影響を受け斬新な日本画を模索し、国画創作協会の創立へと進んだ。

本展では、こうした時代の京都に夢二が滞在したことに注目し、夢二の作品と資料約80点に京都の日本画約40点を合わせた約120点を一堂に紹介した。夢二の京都滞在からちょうど100年を経た節目に、画壇とは異なる活躍の場を求めた夢二と、京都画壇の作品を引き合わせ、同時代の表現として捉え直す試みとなった。

巡回先：なし(自主企画展)

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡新聞社・静岡放送

特別協力：京都市美術館

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

特別協賛：清水銀行

観覧料：一般 1,000円(800円)
大高生・70才以上 700円(500円)
中学生以下無料
※()内は前売および20名以上の団体料金
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：11,969人(有料8,339人、無料3,630人、有料率69.7%)

出品点数：116件

印刷物：

1)チラシ

＜仕様＞紙：テイクGA-FS 110kg

サイズ・加工・数量：594×210mm 二つ折り(仕上A4)50,000部

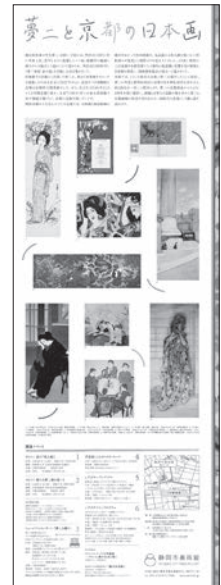
2)ポスター

＜仕様＞紙：テイクGA-FS 135kg (B1、B2、B3)

サイズ・数量：B1 70部、B2 2,000部、B3 2,700部(うち400部はJR带つき)



チラシ表面



チラシ裏面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

＜仕様＞225×296mm、135頁



カタログ表紙

カラー図版175点

参考図版(カラー13点、モノクロ1点)

山本香瑞子「夢二と日本画―「第一回夢二作品展覧会」から「竹久夢二抒情画展覧会」までを中心に」

作家略歴／竹久夢二略年譜／作品リスト

編集・発行：静岡市美術館

執筆：山本香瑞子・森谷紗世

翻訳：小川紀久子

発行年：2017年



各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者へ優待サービスを行った。

印刷物：

◆チラシ

＜仕様＞紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表



協賛チラシ裏



主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」シティエフエム静岡『chalchalサタデー 静岡ドライブインフォメーション』、2月18日放送。
- ・「展覧会紹介」NHKEテレ『日曜美術館アートシーン』、3月5日放送。

2)新聞

- ・山本香瑞子「和洋混交 花開く個性：夢二と京都の日本画 18日から静岡市美術館」『静岡新聞』、2月15日。
- ・「夢二作品 展示進む 静岡市美術館、18日開幕」『静岡新聞』、2月16日。
- ・「「夢二展」きょう開幕 静岡市美術館 日本画120点」『静岡新聞』、2月18日。

3)雑誌他

- ・「展覧会紹介」『男の隠れ家』、9月号。
- ・「展覧会紹介」『ザ・マイカー』、2月号。
- ・「夢二と京都の日本画 in 静岡：展覧会紹介」『プラネット』、vol.637。
- ・「夢二と京都の日本画 静岡市美術館18日に開幕」『富士ニュース』第21206号、2月9日。
- ・「展覧会紹介」『イノセント』、174号。
- ・「展覧会紹介」『womo』静岡版、3月号。
- ・「展覧会紹介」『天然生活』、3月号。
- ・「夢二と京都の関係を探る展覧会 夢二と京都の日本画：展覧会紹介」『ホットベッパ』、3月号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「Japan Design Net」、「CINRA.NET」、「静岡観光コンベンション協会イベントカレンダー」、「Yahoo!JAPAN」、「じゃらんnet」、「アットエス」、「Pen Online」、「シニアコム」、「ArtGene」、「artscape」、「Yahoo!路線検索」

関連事業：

1)プレミアムフライデー特別企画

館長と担当学芸員によるプレミアムトーク

概要：本年度より開始された「プレミアムフライデー」にあわせて実施。美術と美術館にまつわる話や、展覧会の見どころなどを、スライドを交えて解説した。

日時：2月24日(金)16:00-17:00

会場：多目的室 **参加者数：**33人



2)講演会①「京の『美人画』」

概要：京都市美術館学芸課長の尾崎真人氏による講演会。同館のコレクションの日本画や、夢二と京都の関わりについて等お話し頂いた。また明治～昭和の美人画の多様性と、時代による変化も解説され、展覧会内容の時代背景を補足する講演となった。

日時：2月25日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 **参加者数：**75人

講師：尾崎真人氏(京都市美術館学芸課長)

主要広報記録：

◆新聞

- ・「「美人画、時代で変化」京都市美術館学芸課長 夢二展で講演会」『静岡新聞』、2月26日。



3) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業／キニナルスキニナルプロジェクト ミュージアムコンサート「夢二を歌う」

概要：静岡音楽館AOIの企画で実施。夢二が表紙画を描き、また作詞も行ったセノオ音楽出版社から発行されたセノオ楽譜に収録されている楽曲を中心に、大正時代の日本の歌とクラシックの名曲の演奏が行われた。

日時：2月26日(日)15:00-16:30

会場：多目的室 **参加料：**500円 **参加者数：**97人

出演：山田祐規子(ソプラノ)、大石啓(ピアノ)

曲目：澤田柳吉《麓の道》／山田耕作《からたちの花》《ペイチカ》／藤井清水《黄昏の歌》《ちゝのみの》《消えてあとなき》《影ふめば》／榊原直《草の夢》／土屋平三郎《巷の雪》／多忠亮《宵待草》／F.ショパン《ワルツ第7番 嬰ハ短調 op.64-2》／H.ビショップ《見よ、優しき雲雀を》(歌劇《間違いの喜劇》より)／G.B.ペルゴレージ(伝)《ニーナの死》／W.A.モーツァルト《すみれK.476》《夜の女王のアリア〈復讐の心は地獄のようにわが胸に燃え〉(歌劇《魔笛》K.620より)》／A.ドヴォルザーク《ユモレスク 変ト長調 op.101-7》／P.I.チャイコフスキー《ただ惚れを知るものだけが op.6-6》／J.マスネ《汝が碧き眼を開け(《愛の詩》第3曲)》／R.シューマン《トロイメライ(「子どもの情景」より) op.15-7》／G.ヴェルディ：ヴィオレッタのアリア〈ああ、そはかの人か ～ 花から花へ〉(歌劇《椿姫》より)》

主要広報記録：

◆新聞

・「セノオ楽譜作品のコンサート楽しむ 夢二展開催の静岡市美術館」『静岡新聞』、2月27日。



4) 講演会②「新たな夢二像を探って」

概要：新居浜市美術館館長で、長らく京都国立近代美術館の研究員を務められた山野氏による講演会。夢二が後進に与えた影響や、前衛芸術運動との関わり、国際的観点からの夢二の位置づけなど、夢二の制作活動を理解する多様な視点が提示された。

日時：3月4日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 **参加者数：**74人

講師：山野英嗣氏(新居浜市美術館館長)



5) 学芸員によるギャラリートーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるギャラリートークを実施した。夢二と京都の関わり、京都時代以前と以後の作風の変化を、実際の作品を前に解説するとともに、夢二のいた時代の京都画壇の名画も合わせて紹介し、筆法や構図などの個性の違いに注目を促した。

日時：3月5日(日)、3月18日(土)いずれも 14:00-

会場：展示室 **参加者数：**計74人

参加料：展覧会観覧料



出品作品リスト

・作品保護のため、会期中一部展示替えを行った。
 展示期間および該当作品は下記のとおり。
 【前期】2/18(土)～3/5(日)no.55、57、60、61、75(▲印)
 【後期】3/7(火)～3/26(日)no.56、58、59、64、76(▽印)

第1章 夢二ー京都滞在まで

No	作家名	作者	制作年	技法材質または 形状・頁数	発行	寸法(cm)	展覧会歴	所蔵
1	竹久夢二	『夢二画集 春の巻』	明治43年2月、3版 (明治42年12月初版)	書籍、一冊	洛陽堂	22.4×15.2×1.8		静岡市美術館
2	竹久夢二	『夢二画集 夏の巻』	明治43年4月、初版	書籍、一冊	洛陽堂	22.3×15.2×1.6		静岡市美術館
3	竹久夢二	『夢二画集 花の巻』	明治43年6月、4版 (同年5月初版)	書籍、一冊	洛陽堂	15.2×11.7×0.8		静岡市美術館
4	竹久夢二	『夢二画集 旅の巻』	明治43年8月、2版 (同年7月初版)	書籍、一冊	洛陽堂	18.8×13.2×1.2		静岡市美術館
5	竹久夢二	『夢二画集 秋の巻』	明治43年11月、2版 (同年10月初版)	書籍、一冊	洛陽堂	22.3×15.5×1.1		静岡市美術館
6	竹久夢二	『夢二画集 冬の巻』	明治43年11月、初版	書籍、一冊	洛陽堂	22.0×15.6×1.1		静岡市美術館
7	竹久夢二	『夢二画集 野に山に』	明治44年2月、初版	書籍、一冊	洛陽堂	22.5×15.3×1.0		静岡市美術館
8	竹久夢二	『夢二画集 都会の巻』	明治44年11月、初版	書籍、一冊	洛陽堂	22.2×15.6×0.9		静岡市美術館
9	竹久夢二	『コドモのスケッチ帖 活動写真 にて』	明治44年12月、初版	書籍、一冊	洛陽堂	18.0×13.4×0.7		静岡市美術館
10	竹久夢二	『桜さく島 見知らぬ世界』	明治45年4月、初版	書籍、一冊	洛陽堂	18.2×12.2×0.7		静岡市美術館
11	竹久夢二	『桜さく島 春のかはたれ』	明治45年3月、2版 (同年2月初版)	書籍、一冊	洛陽堂	17.9×11.9×0.7		静岡市美術館
12	竹久夢二	『昼夜帯』	大正2年12月、初版	書籍、一冊	洛陽堂	21.1×14.6×2.2		静岡市美術館
13	竹久夢二	『草画』	大正3年4月、初版	書籍、一冊	岡村書店	22.5×15.2×2.0		静岡市美術館
14	竹久夢二	『ねむの木』	大正5年4月、3版 (同年3月初版)	書籍、一冊	実業之日本社	16.7×12.6×1.2		静岡市美術館
15	竹久夢二	『夜の露台』	大正5年8月、初版	書籍、一冊	千章館	17.5×11.5×1.2		静岡市美術館
16	竹久夢二	『縮刷 夢二画集』	大正5年11月、5版 (大正3年10月初版)	書籍、一冊	蜻蛉館書店	16.5×11.3×2.7		静岡市美術館
17		『第一回夢二作品展覧会』目録	大正元年	紙・印刷、一冊		17.4×9.4		京都国立近代美術館
18		第一回展覧会作品集(A)ケース	大正元年頃	紙・印刷、五枚	つるや画房	各14.0×9.0		静岡市美術館
18-1		樺色の夕月						
18-2		炬燵						
18-3		袂ゆたかにたちしかど						
18-4		銚子の海岸						
18-5		とつおいつ						
19		第一回展覧会作品集(B)ケース	大正元年頃	紙・印刷、二枚	つるや画房	各14.0×9.1		静岡市美術館
19-1		酒屋のムスメ						
19-2		不安な夕月						
20		『第二回夢二作品展覧会』目録	大正元年	紙・印刷、一枚		27.2×39.2		京都国立近代美術館
21	竹久夢二	河岸の落日	大正前期	紙本着色、一幅		129.0×29.0		京都国立近代美術館
22	竹久夢二	水のほとり	大正前期	紙本着色、一幅		129.5×29.5		京都国立近代美術館
23	竹久夢二	初春	大正3年	絹本着色、一幅		103.0×31.5		静岡市美術館
24	竹久夢二	合鏡	大正3年頃	絹本着色、一幅		113.5×41.0		静岡市美術館
25	竹久夢二	草に憩う女	大正初期	絹本着色、一幅		88.7×32.5		静岡市美術館
26	竹久夢二	木に寄る女	大正4年頃	絹本着色、一幅		123.0×36.0		静岡市美術館
27	竹久夢二	大正5年12月18日笠井彦乃宛 書簡	大正5年	紙・墨書、一卷		17.4×134.1		三鷹市(高相コレクション)
28	竹久夢二	大正6年1月21日笠井彦乃宛 書簡	大正6年	紙・墨書、一卷		便箋 各16.5×22.7		三鷹市(高相コレクション)
29	竹久夢二	大正6年2月26日笠井彦乃宛 書簡	大正6年	紙・墨書、一卷		便箋 各24.0×33.0		三鷹市(高相コレクション)
30	竹久夢二	日記帳 (大正7年3月4日～12月29日)	大正7年	紙・インク、鉛筆、 表紙革製、一冊		21.0×15.5×1.7		静岡市美術館
31		『竹久夢二抒情画展覧会』目録	大正7年	紙・印刷、一冊		17.4×12.8		京都国立近代美術館
32		『竹久夢二抒情画展覧会』 ポスター	大正7年	紙・技法未詳、 一枚		50.7×30.0		京都国立近代美術館
33	竹久夢二装丁、 長田幹彦著	情話新集第2編『舞妓姿』	大正5年9月、12版 (大正4年3月初版)	書籍、一冊	新潮社	15.5×11.1×1.0		三鷹市(高相コレクション)
34	竹久夢二装丁、 田村俊子著	情話新集第3編『小さん金五郎』	大正5年6月、6版 (大正4年4月初版)	書籍、一冊	新潮社	15.5×11.1×0.9		三鷹市(高相コレクション)
35	竹久夢二装丁、 長田幹彦著	情話新集第4編『小夜ちど里』	大正10年6月、16版 (大正4年7月初版)	書籍、一冊	新潮社	15.5×11.0×1.1		三鷹市(高相コレクション)
36	竹久夢二装丁、 近松秋江著	情話新集第10編『葛城太夫』	大正5年7月、初版	書籍、一冊	新潮社	15.4×11.0×1.0		三鷹市(高相コレクション)
37	竹久夢二装丁、 小山内薫著	情話新集第11編『江島生島』	大正9年5月、5版 (大正5年10月初版)	書籍、一冊	新潮社	15.6×11.0×1.0		三鷹市(高相コレクション)
38	竹久夢二	『三味線草』	大正4年9月、初版	書籍、一冊	新潮社	17.5×11.5×16.0		静岡市美術館
39	竹久夢二装丁、 吉井勇著	『東京紅燈集』	大正5年	書籍、一冊	新潮社	15.7×11.0×1.7		京都国立近代美術館
40	竹久夢二	『春の鳥』	大正6年4月、初版	書籍、一冊	雲泉堂書店	16.5×11.5×1.2		静岡市美術館
41	竹久夢二装丁、 吉井勇著	『新訳絵入 伊勢物語』	大正6年5月、初版	書籍、一冊	阿蘭陀書房	19.7×12.8×2.1		三鷹市

No	作者	題名	制作年	技法材質または形状、員数	発行	寸法(cm)	展覧会歴	所蔵
42		月間夢二エハガキ 「第四十六集 ばらの歌」	大正4年6月頃	紙・印刷、四枚	つるや画房	各14.1×9.1		島田安彦コレクション
42-1		ばらの歌(一)(二)						
42-2		ばらの歌(三)						
42-3		川べの歌(一)(二)						
42-4		川べの歌(三)(四)						
43		月刊夢二エハガキ 「第五十三集 カルタ」	大正5年1月頃	紙・印刷、三枚	つるや画房	各8.9×14.1		静岡市美術館
43-1		花かるた						
43-2		家族あはせ						
43-3		かるた						
44		月刊夢二エハガキ 「第五十六集 恋の小唄」	大正5年4月頃	紙・印刷、四枚	つるや画房	各14.1×9.0		静岡市美術館
44-1		逢ふてたつ名が						
44-2		夕方かけて						
44-3		ただおいて						
44-4		指を切ろうとした						
45		月刊夢二エハガキ 「第六十五集 春の遊び」	大正6年1月頃	紙・印刷、三枚	つるや画房	各14.1×9.1		静岡市美術館
46		月刊夢二エハガキ 「第七十六集 さすらひの唄」	大正6年12月頃	紙・印刷、三枚、 袋付属	つるや画房	各14.1×9.1		島田安彦コレクション
46-1		袋						
46-2		さすらひの唄(一)						
46-3		さすらひの唄(二)						
46-4		さすらひの唄(四)						
47		月刊夢二エハガキ 「第八十六集 俗曲」	大正7年10月頃	紙・印刷、三枚	つるや画房	各14.0×9.1		静岡市美術館
47-1		いくよ明石の						
47-2		船がつくつく						
47-3		妹がりゆけば						
48	竹久夢二装画	セノオ楽譜12番 お江戸日本橋	大正13年6月、6版 (大正5年4月初版)	紙・石版、一冊	セノオ音楽 出版社	30.6×23.2		静岡市美術館
49	竹久夢二装画	セノオ楽譜27番 唯我心悩ぞ知らめ	大正13年5月、6版 (大正5年11月初版)	紙・石版、一冊	セノオ音楽 出版社	30.4×22.4		静岡市美術館
50	竹久夢二装画	セノオ楽譜28番 歌劇カルメン ノバネラの歌	昭和2年2月、7版 (大正6年7月初版)	紙・石版、一冊	セノオ音楽 出版社	30.5×22.4		静岡市美術館
51	竹久夢二装画	セノオ楽譜56番 汝が碧き眼を開け	大正14年10月、6版 (大正6年7月初版)	紙・石版、一冊	セノオ音楽 出版社	31.0×22.4		静岡市美術館
52	野長瀬晩花	初夏の流	大正7年	木綿着色、六曲 一雙		176.5×555.0	第1回国展	京都市美術館
53	秦テルヲ	煙突	明治44年	絹本着色、一面		110.0×41.5		京都国立近代美術館
54	秦テルヲ	母子	大正末期	キャンバス・顔料、 一面		65.2×53.4		京都市美術館
55 ▲	平井模仙	日盛り	大正8年	絹本着色、二曲 一雙		各170.0×188.0	第1回帝展	京都国立近代美術館
56 ▽	菊池契月	ゆふべ	大正3年	絹本着色、二曲 一雙		各157.5×172.0	第8回文展(二等賞)	京都国立近代美術館

第2章 京都の日本画①—伝統と革新

No	作家名	作品名	制作年	技法材質または形状、員数	寸法(cm)	展覧会歴	所蔵
57 ▲	菊池芳文	春の夕・霜の朝	明治36年	絹本着色、八曲一雙	各158.5×485.0	第5回内国勲業博覧会 (二等賞)	京都市美術館
58 ▽	谷口香嶠	實方花下遊雨図	不詳	紙本着色、一幅	124.0×56.5		京都市美術館
59 ▽	竹内栖鳳	雨	明治44年	絹本墨画、一幅	118.0×152.0	第5回文展	京都市美術館
60 ▲	竹内栖鳳	絵になる最初(下絵) 重要文化財	大正2年	紙・墨、淡彩、一幅	197.0×85.0		京都市美術館
61 ▲	都路華香	萬年台の夕・東萊里の朝	大正9年	紙本着色、双幅	左168.0×90.5 右169.0×91.0	第2回帝展	京都市美術館
62	山元春挙	山上楽園	大正11年	絹本着色、一面	236.0×176.0	第4回帝展	京都市美術館
63	上村松園	待月	大正15年	絹本着色、一幅	193.2×92.8	第7回帝展	京都市美術館
64 ▽	木島桜谷	寒月	大正元年	絹本着色、六曲一雙	各167.0×372.0	第6回文展(二等賞)	京都市美術館
65	千種掃雲	蓮池	明治42年	絹本着色、一幅	99.4×71.5	丙午画会春季展	京都市美術館
66	千種掃雲	ねざめ	明治44年	絹本着色、一幅	71.8×99.7	丙午画会春季展	京都市美術館
67	北野恒富	浴後	明治45年	絹本着色、一面	161.0×86.2	京都高島屋呉服店 風俗画展	京都市美術館
68	梶原緋佐子	若き日	大正5年	絹本着色、一面	173.5×69.0		京都市美術館
69	梶原緋佐子	古着市	大正9年	絹本着色、一幅	130.0×88.2	第2回帝展	京都市美術館
70	富岡鉄斎	不盡山畫叢	大正9年	題字:紙本墨書、画 面:絹本着色、一卷	25.1×397.2		京都市美術館

No	作者	題名	制作年	技法材質または形状、員数	寸法(cm)	展覧会歴	所蔵
71	雷田溪仙	宇治川之巻(宇治橋)	大正4年	絹本着色、一巻	50.4×526.8	再興第2回院展	京都市美術館
72	金島桂華	叢	大正7年	紙本着色、二曲一双	各170.0×184.0	第12回文展	京都市美術館
73	金島桂華	芥子	大正14年	紙本着色、四曲一隻	182.0×352.0	第6回帝展(特選)	京都市美術館
74	案本一洋	送り火	大正5年	絹本着色、二曲一隻	161.5×236.0	第10回文展	京都市美術館
75 ▲	宇田萩邨	太夫	大正9年	絹本着色、二曲一隻	195.0×179.0	第2回帝展	京都市美術館
76	勝田 哲	お夏	大正15年	絹本着色、一幅	228.0×150.5	第7回帝展	京都市美術館
77	小野竹喬	南島四季のうち春秋	大正2年	紙本着色、二幅	各136.0×46.0	第18回新古典美術品展	京都市美術館
78	土田麦僊	惺	明治40年頃	絹本着色、一幅	62.8×71.5		京都市美術館
79	村上華岳	阿弥陀	大正5年	絹本着色、一幅	209.2×130.8	第10回文展(特選)	京都市美術館
80	野長瀬晩花	水汲みにいく女	大正14年	木綿着色、二曲一隻	167.0×185.0	第5回国展	京都市美術館
81	榊原紫峰	奈良の森	大正9年	絹本着色、二曲一双	各188.0×233.0	第3回国展	京都市美術館
82	甲斐莊楠音	青衣の女	大正8年	絹本着色、二曲一隻	145.0×165.5	第4回帝展	京都市美術館
83	梶原緋佐子	暮れゆく停留所	大正7年	絹本着色、一面	189.0×83.0	第1回国展	京都市美術館
84	岡村宇太郎	娘	大正15年頃	絹本着色、一面	45.0×44.3		京都市美術館

第3章 京都の日本画②—さまざまな美人画

No	作家名	作品名	制作年	技法材質または形状、員数	寸法(cm)	展覧会歴	所蔵
85	上村松園	春光	昭和戦前期	絹本着色、一幅	128.0×41.0		京都市美術館
86	西山翠嶂	槿花	大正12年	絹本着色、一幅	129.0×85.0	日本美術展覧会	京都市美術館
87	伊藤小坡	夏	大正9年	紙本着色、一面	136.0×88.0	第2回帝展	京都市美術館
88	木村斯光	傾く日ざし	昭和6年	絹本着色、一面	231.5×183.0	第12回帝展	京都市美術館
89	案本一洋	銭春	昭和3年	絹本着色、二曲一隻	188.0×162.0	第9回帝展(特選)	京都市美術館
90	林 司馬	舞妓	昭和9年	紙本着色、一面	136.0×90.0	大礼記念京都市美術展	京都市美術館
91	菊池契月	散策	昭和9年	絹本着色、一面	173.0×173.5	第15回帝展	京都市美術館
92	秋野不矩	紅裳	昭和13年	紙本着色、一面	208.0×174.0	第2回新文展(特選)	京都市美術館

第4章 夢二—大正から昭和へ

No	作家名	作者	制作年	技法材質または形状、員数	発行	寸法(cm)	所蔵
93	竹久夢二	小春・時雨の炬燵	大正7年頃	絹本着色、双幅		各110.0×41.0	静岡市美術館
94	竹久夢二	鴨東夜花	大正後期	絹本着色、一面		27.2×24.1	静岡市美術館
95	竹久夢二	紫色の春の夜の	大正15年	絹本着色、二曲一隻		148.0×148.0	静岡市美術館
96	竹久夢二	荒野の楽人	大正中期	紙本着色、一幅		144.5×33.5	静岡市美術館
97	竹久夢二	嵐峡初秋	昭和初期	絹本着色、一幅		118.0×36.0	静岡市美術館
98	竹久夢二	灯ともしごろ・あきの丘	大正11年頃	絹本着色、双幅		各113.5×25.4	三鷹市(高相コレクション)
99	竹久夢二	南枝早春・立春大吉	昭和3年頃	絹本着色、双幅		各127.0×35.5	三鷹市(高相コレクション)
100	竹久夢二	舞妓	不詳	紙本着色、一面		21.2×18.2	三鷹市(高相コレクション)
101	竹久夢二	うしろ姿	大正中期	紙本着色、一面		21.0×18.0	静岡市美術館
102	竹久夢二	寒燈	大正中期	紙本着色、一面		21.2×18.2	静岡市美術館
103	竹久夢二装画	セノオ楽譜123番 麓の道	大正8年2月、初版	紙・石版、一冊	セノオ音楽出版社	31.3×22.6	静岡市美術館
104	竹久夢二装画	セノオ楽譜128番 歌劇プロフェットあゝわが子よ	大正13年4月、2版 (大正8年3月初版)	紙・石版、一冊	セノオ音楽出版社	30.0×22.1	静岡市美術館
105	竹久夢二装画	セノオ楽譜169番 影ふめば	大正9年4月、初版	紙・石版、一冊	セノオ音楽出版社	31.1×22.6	静岡市美術館
106	竹久夢二装画	セノオ楽譜175番 消えてあとなき	大正14年3月、3版 (大正9年4月初版)	紙・石版、一冊	セノオ音楽出版社	30.3×22.0	静岡市美術館
107	竹久夢二装画	セノオ楽譜176番 ちのみの	大正9年4月、初版	紙・石版、一冊	セノオ音楽出版社	31.0×22.7	静岡市美術館
108	竹久夢二装画	セノオ楽譜185番 暮れて行く	大正14年1月、2版 (大正9年7月初版)	紙・石版、一冊	セノオ音楽出版社	30.8×22.1	静岡市美術館
109	竹久夢二装画	セノオ楽譜192番 月ぞけぶれる	大正9年8月、初版	紙・石版、一冊	セノオ音楽出版社	30.8×22.8	静岡市美術館
110	竹久夢二装画	セノオ楽譜238番 たそがれの歌	大正10年7月、初版	紙・石版、一冊	セノオ音楽出版社	30.8×22.6	静岡市美術館
111	竹久夢二装画	セノオ楽譜338番 草の夢	大正13年7月、初版	紙・石版、一冊	セノオ音楽出版社	30.4×22.5	静岡市美術館
112	竹久夢二装画	秩父丸メニュー	昭和初期	紙・木版、一枚	日本郵船	35.5×23.0	三鷹市(高相コレクション)
113	竹久夢二装画	中山晋平作曲全集目次(七夕)	昭和5年	紙・木版、一枚	山野楽器店	33.3×23.4	静岡市美術館
114	竹久夢二	『山へよする』	大正8年2月、初版	書籍、一冊	新潮社	16.0×11.3×1.8	静岡市美術館
115	竹久夢二装丁、 長田幹彦著	『祇園全集 絵日傘』一の巻	大正8年	書籍、一冊	玄文社	15.9×12.1×1.9	京国国立近代美術館
116	竹久夢二装丁、 長田幹彦著	『祇園離子』	昭和9年	書籍、一冊	新小説社	19.4×13.4×2.6	京国国立近代美術館

3. 交流事業(教育普及事業)目次

3-1 交流事業

1) Shizubi Project 6「彼方へ 國府理・林勇気・宮永亮」	48
2) Shizubiシネマアワー	49
3) ピーター・バラカンの「音を見る。アートを聴く。」	50
4) しずびオープンアトリエ	50
5) しずびチビッコプログラム	51
6) 暦とあそぶワークショップ	53
7) プレゼントワークショップ	54
8) 夜店市	56

3-2 連携事業

1) ミュージアム教室・展示解説	57
2) めぐるりアート静岡 記憶をめぐる 記憶をつくる	58
3) 生涯学習センター・静岡市美術館連携事業「しずび出前講座」	59
4) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)	60
5) キニナルスキニナルプロジェクト	61
6) その他施設との連携等	62

3. 交流事業(教育普及事業)

3-1 交流事業

1) Shizubi Project 6「彼方へ 國府理・林勇氣・宮永亮」

概要：多くの人が行きかうエントランスホールの開放的な空間で、現代のさまざまな美術の姿を紹介してきたShizubi Project。今回は「彼方へ」と題して次年度にかけ実施し、國府理、林勇氣、宮永亮の3名の作品を展示した。

「私が乗り物を作りたいかったのは、それを手に入れれば、どこかへ行けると思ったから」、プロペラをつけた自転車や帆をはって風に進む自動車など、「KOKUFUMOBIL」として、自身の夢の乗り物を独自の設計思想と自らの手で生み出した國府理。“ここではない何処か”へ、乗り物としての機能に想像力をプラスして走らせる國府作品は、世界の中でほんとうに考え、自由であることを私たちに呼びかけ続けている。

林勇氣の映像作品《もう一つの世界》(2014)は、ネット上の膨大な画像を集め切り抜いて浮遊させ、私たちをとりまくデジタル世界を鮮やかに可視化する。3Dプリンタの登場などデータが直接物質化される時代に、画像やデータ、物質とは何かということを、私たちに優れて感覚的に体験させる。

宮永亮は各地に出かけ撮影した都市や田園の映像を、さまざまなレイヤー(層)として重ね編集する。ときに疾走し、ときにゆったりと流れる時間を映しだした映像は、優れたロードムービーの持つ世界の手触りが、複雑に多層化され、固有の場所性を離れて、“どこでもない場所へと飛躍する”ような感覚を見るものに与える。尚、展示は当館エントランスホール・多目的室でスタートし、次年度6月の2週間余りは展示室にも拡張する。

会期：3月28日(火)～2017年6月18日(日)
＜エントランスホール・多目的室＞
2017年6月4日(日)～18日(日)＜展示室＞

観覧者数：1,587人(本年度分)

出品作品リスト(本年度分)：

＜國府理＞

《プロペラ自転車》1994年 自転車部品、鉄、木、エンジンほか

《Sailing Bike》2005年 オートバイ部品、セイル、FRPほか

《Natural Powered Vehicle(映像)》2005年 ビデオ

個人蔵

＜林勇氣＞

《the outline of everything》2010年 ビデオ、モニター

音楽：オオタニシユウヘイ(from SJQ)

《もうひとつの世界002》2014年 インターネットシステム、googlemap、YouTube、FHDビデオ(マルチチャンネル)、パーソナルコンピューター、デジタル端末

《IMAGE DATA》2016年 FHDビデオ

＜宮永亮＞

《地の灯について》2010年 FHDビデオ(8チャンネル)

《KIWA》2013年 FHDビデオ

記載のないものはすべて作家蔵

主要広報記録：

◆新聞

・Yukari Tanaka「OUTSIDE TOKYO：‘Shizubi Project 6: Kokufu Osamu, Hayashi Yuki, Miyanaga Akira’」『The Japan Times』、3月29日。

・「葵区 造形や映像作品紹介」『静岡新聞』、3月30日。

◆ウェブサイト等

「Japan Design Net」、「静岡市Facebook」、「ART iT」、「アットエス」

印刷物：

◆チラシ

＜仕様＞紙：エスプリコートFM 110kg

サイズ・数量：A4 30,000部



チラシ表面



チラシ裏面



関連事業(今年度分)：

◆アーティストトーク

概要：出品作家の林、宮永両氏に加え、近年若くして亡くなった國府氏の生前をよく知る関係者により、出品作品や活動について話を伺った。作家本人による話は具体的で参加者の興味を引いた。

日時：3月28日(火)13:00-14:30

会場：エントランスホール 参加者数：15人



2)Shizubiシネマアワー

(1)Shizubiシネマアワー vol.18

シズオカ×カンヌウィーク2016・こどもの日 連携企画

『地下鉄のザジ』

概要：美術館ならではのテーマとセレクトで、年間2〜3回程度映画上映を行う、Shizubiシネマアワーの18回目。シズオカ×カンヌウィーク・こどもの日に連動し、パリを舞台に少女ザジと大人たちがくり広げるドタバタ劇『地下鉄のザジ』を上映した。

日時：5月5日(木・祝)14:00-(開場 13:30)

上映内容：

『地下鉄のザジ』(1960年、フランス、93分)

会場：多目的室 参加者数：74人

参加料：500円 企画協力：(株)サルナートホール

告知チラシ(当館作成)

(2)Shizubiシネマアワー vol.19

『マンガの時代』

概要：「マンガ」をテーマに、赤塚不二夫のドキュメンタリー映画と、手塚治虫、藤子不二雄、石森章太郎らが暮らした伝説のアパート「トキワ荘」を舞台にしたドラマ映画の2本の作品を上映。昭和に活躍した漫画家たちの様々な側面を紹介することができた。

日時：①8月13日(土) ②8月20日(土)

いずれも 14:00-(開場 13:30)

上映内容：

①『マンガをはみだした男 赤塚不二夫』(2016年、日本、96分)

②『トキワ荘の青春』(1996年、日本、110分)

会場：多目的室 参加者数：①50人 ②45人

参加料：いずれも 500円

企画協力：(株)サルナートホール

主要広報記録：

◆新聞

・五十住和樹「美術館には漫画の映画があうのだ! 静岡市美術館 赤塚さん人生など来月上映 「芸術性考える機会になれば」」『中日新聞』静岡版、7月10日。

・遠藤竜哉「静岡市美術館で映画いかが 上映会が好評 今月は「マンガの時代」」『静岡新聞』、8月14日。

告知チラシ(当館作成)

3)ピーター・バラカンの「音を見る。アートを聴く。」

第10回「音を見る。アートを聴く。」

概要：テレビやラジオでブロードキャスターとして活躍中のピーター・バラカン氏が案内役を務めるトークシリーズの第10弾。バラカン氏が昨年見聴した音楽の中からベスト10を紹介しつつ、ミュージシャンとその音楽を生み出した美術を含む文化的背景を交え、様々な視点から音楽を語った。本事業は今回で最終回となったが、全10回の事業をとおして、様々な切り口から見ることや聴くこと、つくることの本来的な楽しさを紹介することができた。

日時：1月9日(月・祝)16:00-18:00

会場：多目的室 **参加者数：**101人 **参加料：**500円

案内人：ピーター・バラカン氏(ブロードキャスター)

主要広報記録：

◆新聞

・瀬田貴嗣「昨年注目した音楽バラカンさん語る 静岡市美術館」『中日新聞』静岡版、1月10日。

・「バラカンさんの音楽解説最終回 静岡市美術館」『静岡新聞』、1月10日。



4)キニナルスキニナルプロジェクト

しずびオープンアトリエ

概要：春・夏の年2回、開催中の展覧会にあわせて実施する、鑑賞と創作が一体となったオリジナルワークショップ。

(1)「メビウスの輪で不思議な模様とかたちをつくろう！」

概要：「エッシャーの世界」展にあわせ、エッシャーも作品に取り入れた「メビウスの輪」を参考に、厚紙で幾何学模様のおりやブローチを制作した。従来どおり「つくり方ガイド」を用意したほか、厚紙の色数や成果物の種類を複数揃え、繰り返し参加しても楽しめるように工夫した。

日時：8月6日(土) - 21日(日) ※毎週月曜日を除く

いずれも ①13:30 - ②15:00 -

(各回約1時間、計14日間・28回実施)

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上 計291人(各回定員15人)

参加料：200円(材料費含む)



(2)「はんこでつくろ！夢ニデザイン」

概要：「夢二と京都の日本画」展にあわせ、平成23年度に実施した竹久夢二のデザイナーとしての一面に焦点を当てたプログラムに一部改良を加え実施した。夢二作品にみられる模様と、夢二が自らの作品に多用した日本の伝統文様の消しゴムはんこを用い、これらの組み合わせを考えながらスタンプをして5種のステーションナリーに仕上げた。

日時：2月18日(土) - 3月26日(日)の毎週土曜・日曜日

いずれも ①13:30 - ②15:00 -

(各回約1時間、計12日間・24回実施)

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上 計313人(各回定員15人)

参加料：200円(材料費含む)



5)キニナルスキニナルプロジェクト

しずびちびっこプログラム

概要：2歳以上の未就学児を対象とした、鑑賞に基づく制作プログラム。保護者は展覧会を見学する。展覧会毎に様々なアプローチで未就学児の表現の可能性に迫っている。市内保育支援団体の協力を得て実施。(保護者は要観覧券)

(1)しずびちびっこプログラム

「没後20年 ルーシー・リー展」

概要：ルーシー・リーの作品を参考に、タタラ状にのばしたオープン陶土を型抜きして、ボタンや器形のプローチを制作。アクリル絵具で着色したオープン陶土の上から、鉛筆を使って掻き落としの技法を体験したほか、ストローの形状をいかしてドット模様の表現に取り組み、リーの作品の雰囲気に近づけた。陶芸展にあわせ、陶芸特有の素材や技法に親しむ機会となった。

日時：5月14日(土)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計24人

参加料：子ども1人につき500円



(2)しずびちびっこプログラム

「伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺」

概要：出品作品の安田靱彦「かちかち山」を取り上げ、まずは『かちかち山』のストーリーを追いながら作品図版を鑑賞した。その後、面相筆と墨を使った模写に取り組んだ。下に敷いた作品図版があることで、線の強弱も意識することにつながり、味わいのある仕上がりとなった。最後は長い台紙に和紙を貼り込み、簡易な卷子状に仕立てて、作品の雰囲気を楽しんだ。

日時：6月11日(土)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計19人

参加料：子ども1人につき500円



(3)しずびちびっこプログラム

「エッシャーの世界」

概要：出品作品の《平面の正則分割22(鳥/魚)》の鳥と魚のモチーフの消しゴムハンコを用意し、2つのモチーフが繋がるよう意識しながらエコバッグにスタンプした。正則分割という未就学児には難解なテーマではあったが、手を動かし、モチーフを繋げる、という体験をとおして、参加者にもエッシャーの作品の独特でユニークな魅力を伝えることができた。

日時：8月27日(土)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計22人

参加料：子ども1人につき500円



(4)しずびちびっこプログラム

「ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ」

概要：「名画のモチーフを描く」をテーマに、出品作品のゴッヤン《バラと彫像》を取り上げ、同作を鑑賞した後、バラの部分の模写を行った。淡い色から段階ごとに塗り重ねていくことで、未就学児なりに立体感のあるバラを描くことができた。描き終わったバラの部分は切り抜いてスチレンボードに貼り込み、立体感のある壁飾りとして仕上げた。

日時：10月15日(土)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計23人

参加料：子ども1人につき500円



(5)しずびちびっこプログラム

「高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。スタジオジブリ・レイアウト展」

概要：出品作品の『崖の上のポニョ』のレイアウトをもとに、1カットを再現した。セルの代用品として用意したOHPにあらかじめ線画を印刷し、実際の作業のように裏からの彩色に挑戦した。背景も実際に使われる画材を使用し制作。未就学児でもアニメーションの制作過程を疑似体験することのできる貴重な機会となった。

日時：1月21日(土)、22日(日)

いずれも ①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計44人

参加料：子ども1人につき500円



(6)しずびちびっこプログラム

「夢二と京都の日本画」

概要：「しずびオープンアトリエ(春)」の内容を未就学児向けにアレンジして実施。夢二モチーフのハンコから1種、日本の文様のハンコより2種を組み合わせ、パターンを構成して手ぬぐいを彩った。題材となる日本の文様を未就学児に親しんでもらえるよう、鑑賞にも重点を置いた。

日時：3月20日(月・祝)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計25人

参加料：子ども1人につき500円

主要広報記録：

◆新聞

・「「消しゴム印」楽しく 夢二展に合わせ静岡市美術館 幼児ら手ぬぐい彩る」『静岡新聞』、3月21日。



6) 暦とあそぶワークショップ

概要：祭事や年中行事を通して季節を感じ、それをかたちにするワークショップシリーズ。暦の本来の意味や歴史を学びながら制作する。

(1) 暦とあそぶワークショップ vol.12

「こどもの日の準備をしよう！」

概要：端午の節句にあわせ、沖縄などで見られる郷土玩具「鯉乗り童子」を制作した。鯉に乗る童子を、子どもたちは自分に、親は子どもなどに置き換えた。素材には柔らかいアルミ線や石膏包帯を使用することで、誰でも短時間で、それぞれの思い描く立体作品を制作することができた。鯉の鱗を描く際には、鯉のほりの画像等をまとめたガイドを用意し、鑑賞へとつなげた。

日時：4月23日(土)13:00-16:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上の子と親 15組30人

参加料：1人につき500円

主要広報記録：

◆新聞

・「鯉乗り童子親子で制作 静岡市美術館」『静岡新聞』、4月26日。



(2) 暦とあそぶワークショップ vol.13

「七夕の準備をしよう！」

概要：七夕本来の意味を学びながら、関東から東北地方に見られる伝統的な七夕人形「七夕馬」を参考に、丸めた新聞紙を芯棒に利用した馬の飾り物を制作した。デザインの参考に、市内出身の彩色木彫家・平野富山の「飾馬」「神馬」などの作品図版を鑑賞した。馬具などで豪華に彩られた独特な意匠は、参加者にも魅力的だったようで、個性的で大胆な着色が施された作品が完成した。

日時：7月2日(土)13:00-16:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上 23人

参加料：1人につき500円

主要広報記録：

◆新聞

・「新聞紙の七夕馬かっこよく 静岡市美術館」『朝日新聞』静岡版、7月3日。

・「葵区 伝統的な七夕人形作る」『静岡新聞』、7月7日。



7) プレゼントワークショップ

概要：子どもたちの創作意欲の原点である、家族や大切な人への想いをかたちにし、プレゼントを作る、という行為に焦点を当て、記念日にあわせて実施。プレゼントを「作って、贈る」ことから生まれるコミュニケーションに主眼を置く。

(1) プレゼントワークショップ vol.17

「母の日だ！親子でプレゼントをつくろう」

概要：母の日にあわせ、小学生とその母が、それぞれ自分の母に向けてプレゼントを制作。今回は母をイメージしてデザインしたお花の陶板とブローチをつくった。作品づくりの参考には、元マリメッコテキスタイルデザイナーの石本藤雄氏の陶板作品の写真なども鑑賞。デザイン画づくりに重点を置き、配色も検討した上で、オープン陶土にアクリル絵具で着色した花の陶板に仕上げた。

日時：5月8日(日)13:00-16:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生とその母 11組22人

参加料：1人につき500円(材料費含む)

主要広報記録：

◆新聞

- ・神谷円香「『母の日』感謝を形に 親子で贈り物の壁飾り作り 静岡市美術館 相談し色付け」『中日新聞』静岡版、5月9日。
- ・「母の日に壁飾り制作 葵区 小学生、感謝込める」『静岡新聞』、5月9日。
- ・「来年考えて 母の日色々 感謝こめて 親子で陶板づくり 静岡市美術館」『朝日新聞』静岡版、5月9日。



(2) プレゼントワークショップ vol.18

「父の日だ！親子でプレゼントをつくろう」

概要：父の日にあわせ、親子が一緒にプレゼントを制作。今回はカラフルな羊毛を用いて、洋服や顔の細部まで再現した、全長約60cmの父親の全身像を作った。完成作品は、それぞれの父親の横に並べ、こだわったポイントなどを参加者一組ずつが発表した。導入へのレクチャーでは、人が羊毛を使うようになった歴史を、羊毛製のさまざまな工芸品の写真をおして紹介した。

日時：6月18日(土)13:00-16:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生とその父 10組21人

参加料：1人につき500円(材料費含む)

主要広報記録：

◆新聞

- ・「『父の日』に手づくり贈り物 羊毛などを使い立体的全身像に 葵区」『静岡新聞』、6月19日。



(3) プレゼントワークショップ vol.19

「敬老の日だ！おじいちゃん、おばあちゃんとプレゼントをつくろう」

概要：敬老の日にあわせ、小学生とその祖父母と一緒にプレゼントを制作。父の日ワークショップの羊毛で全身像を制作した内容を、今回は祖父母に置き換え実施した。ワークシートをとおして祖父母の全身を観察し、下絵を考えた後、カラフルな羊毛を用い、顔のパーツや洋服の模様、腕時計やネックレスなど、祖父母の全身を細部まで再現した。また、祖父母と相談しながら趣味や仕事ができるアイテムを持たせた作品も多く完成し、「孫と話しながら制作できて嬉しかった」、との感想も寄せられた。

日時：9月17日(土)13:00-16:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生とその祖父母 9組18人

参加料：1人につき500円(材料費含む)



(4) プレゼントワークショップVol.20

「クリスマスの準備をしよう！」

概要：ドイツや北欧でオーナメントづくりなどに使われる「トランスパレントペーパー」という透過性のある色紙を用い、トランスパレントスターと呼ばれる、伝統的な星の飾りものや透かし絵作りをした。子ども編のレクチャーでは、クリスマスの象徴をキリスト教絵画の中から探った。大人編では、海外の宗教行事であるクリスマスが、どのように日本文化の中に定着していったかを伝えた。紙をちぎって貼る、透過性を意識しながら、色の重なりを楽しむというシンプルな内容であるため、低学年の子どもでもイメージを形にしやすかったようだ。

日時：①子ども編 12月10日(土)

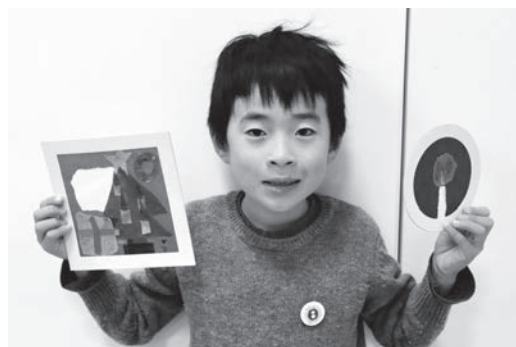
②大人編 12月11日(日)

いずれも 13:00-16:30

会場：①、②ともワークショップ室

対象・参加者数：①小学生21人 ②中学生以上20人

参加料：いずれも 1人につき500円(材料費含む)



子ども編



大人編

8)夜店市

概要：中央商店街恒例のイベント「夜店市」に、財団事務局、静岡音楽館AOI、静岡科学館る・く・ると共同で出店。当館ブースでは「エッシャーの世界」展、「ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ」のチケット、当館オリジナル茶アメ等を販売し、美術館の広報に努めた。また昨年度の当館の5周年、静岡音楽館AOIの20周年にあわせ、地元企業のAOI BREWINGが醸造したオリジナルビール「月白風清」が好評であったことから、本年も再醸造・限定販売した。

日時：8月12日(金)、13日(土)、14日(日)

いずれも 16:00-21:00

場所：葵区紺屋町名店街「札幌かに本家」前「小梳神社」側

販売物：「エッシャーの世界」展当日券、「ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ」前売券、静岡市美術館オリジナル茶アメ、同虹色えんぴつ&クリアファイルセット
※チケット・商品購入者には、スピードくじを実施した。

印刷物等：

◆うちわ

<仕様>サイズ：185×534mm（仕上φ185mm・穴アキ部分φ30mm）

印刷：両面オフセット4色印刷 ニス引き

加工：3連うちわ、3つ折り

枚数：タイプA 4,750枚、タイプB 4,750枚 計9,500枚

※タイプA：当館および静岡音楽館AOIの面を表面として折り加工

※タイプB：静岡音楽館AOI・静岡市文化振興財団事務局・静岡科学館る・く・るの面を表面として折り加工

主要広報記録：

◆新聞

・長谷川隆「きょうから「静岡夏まつり」 夜店市限定ビール好評で今年も販売」『毎日新聞』静岡版、8月12日。

・「夏恒例「夜店市」限定ビール販売」『静岡新聞』、8月13日。



うちわ A面



うちわ B面



3-2 連携事業

1)ミュージアム教室・展示解説

概要：当館では、学校や生涯学習センター等からの団体を対象にして、展覧会担当学芸員が直接解説する鑑賞教室に力を入れている。幼稚園・保育園児～高校生については、子どもたちと当館学芸員等が対話形式で展覧会鑑賞を行う「ミュージアム教室」として実施。子どもたち自身が作品の魅力を発見し、考えるよう促すことで、美術を身近で楽しいものと感じることを目指すとともに、美術館でのマナーも学習することを目的とする。大学・専門学校生、および生涯学習センター・生涯学習交流館等の事業参加者については、展覧会の見どころを中心とした「展示解説」として実施している。

対象：＜ミュージアム教室＞幼稚園・保育園児～高校生
＜展示解説＞大学生・専門学校生～一般

実施内容・所要時間(共通)：

スタッフの解説30分+自由鑑賞30分 計60分



利用状況：

◆ミュージアム教室利用状況

	幼稚園・保育園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校 特別支援学級		児童クラブ		展覧会合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
没後20年 ルーシー・リー展	0	0	0	0	8	149	2	25	2	25	0	0	12	199
伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺	0	0	1	116	6	158	3	79	0	0	0	0	10	353
エッシャーの世界	2	33	2	151	18	453	7	142	2	32	11	451	42	1,262
ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ	0	0	1	6	3	189	2	23	0	0	0	0	6	218
高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。 スタジオジブリ・レイアウト展	3	123	20	1,068	17	574	7	82	3	36	7	336	57	2,219
夢二と京都の日本画	0	0	0	0	5	112	2	19	1	13	0	0	8	144
計	5	156	24	1,341	57	1,635	23	370	8	106	18	787	135	4,395

計 135団体 4,395人

◆展示解説利用状況

	大学・専門学校		生涯学習センター 生涯学習交流館		その他		展覧会合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
没後20年 ルーシー・リー展	1	16	0	0	1	91	2	107
伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺	1	23	1	13	2	57	4	93
エッシャーの世界	0	0	1	54	1	36	2	90
ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ	0	0	2	123	2	36	4	159
高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。 スタジオジブリ・レイアウト展	0	0	1	43	5	252	6	295
夢二と京都の日本画	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2	39	5	233	11	472	18	744

計 18団体 744人

2)キニナルスキニナルプロジェクト

めぐりアート静岡 記憶をめぐる 記憶をつくる

概要：静岡大学「アートマネジメント力育成事業」美術分野実習として過去3年間実施した、静岡市内の様々な場所を会場に、今を生きるアートを紹介する展覧会に、本年度から静岡市及び静岡市文化振興財団が加わり開催した。当館では、グラフィックデザイナーの田中義久（浜松市生まれ）と彫刻家の飯田竜太（沼津市生まれ）によるアーティスト・デュオNerholを紹介。広いエントランスホールと多目的室の空間に大規模なインスタレーションを展開、強い印象を与えた。また今年度より新たに会場となった「東静岡アート&スポーツ/ヒロバ」での展示のうち、日詰明男、岩野勝人を担当した。作家インタビューなどを掲載したニュースレターを3号発行したほか、講師による作家評等が掲載された記録冊子を刊行した。

会期：10月25日（火）～11月13日（日）＜※当館会場＞

会場：①当館エントランスホール ②アート&スポーツ/ヒロバ（10月30日（日）～11月20日（日）） ③静岡県立美術館 ④中勘助文学記念館・杓子庵 ⑤旧マッケンジー住宅（③～⑤の会期：11月1日（火）～20日（日））

出品作家：①Nerhol（田中義久・飯田竜太） ②岩野勝人／千葉広一／日詰明男 ③鈴木基真／福井利佐 ④木下琢朗 ⑤千葉広一／木下琢朗

来場者数：12,294人（当館分のみ）

出品作品リスト（当館分のみ）：

- ①《ATLAS No.001～No.040》（うち32点）2014年 本（インクジェットプリント積層）各31×29×4.5cm 台座：鉄 ウレタン塗装 各31×29×90cm
- ②《multiple-roadside tree no.010～no.060》2016年 インクジェットプリント 各29.7×37.3×3cm
- ③《multiple-roadside tree no.003》2016年 インクジェットプリント 240×300×6cm
- ④《Their Portraits (A.Soth)》2016年 インクジェットプリント 各29.7×35.7×3cm
- ⑤《Table》2014年 インクジェットプリント 42×59.4×7cm

主要広報記録：

◆ラジオ

・「めぐりアート静岡」『ChalChalサタデー』FM-Hil、11月19日。

◆テレビ

・「めぐりアート静岡」『トーキョーコーリング』テレビ朝日、11月5日。（BS朝日でも12月1日に放送）

◆新聞

・市川雄一「『練り』『掘る』不思議な共作 静岡市美術館 グラフィックデザイナーと彫刻家 写真重ね独特の表現」『静岡新聞』、10月26日。

・河野貴子「5会場巡り 造形美快感 静岡市内で6人と一組アート展示」『中日新聞』静岡版、11月2日。

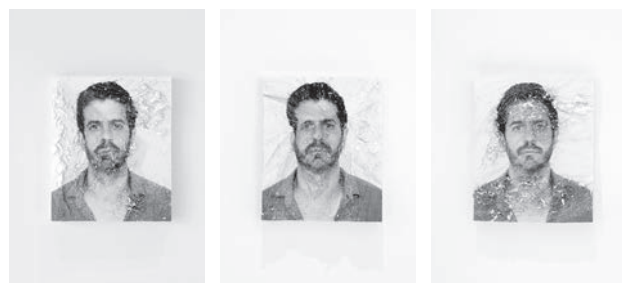
・「めぐりアート静岡 記憶をめぐる 記憶をつくる 市内5会場で開催中！」『中日ショッパー』静岡版、vol.2149、11月4日。

・「街が新鮮「めぐりアート静岡」 変化する“東静岡広場”が面白い」『タウン新聞しずおか』、第62号。

◆雑誌

・「展覧会紹介」『大道芸ワールドカップin静岡2016公式ガイドブック』。

・「静岡市内各所で今を生きるアートを紹介」『ギャラリー11』、11月1日。



印刷物：

◆ニュースレター

＜仕様＞

サイズ・加工：＜No.1＞A2 四つ折り加工（仕上A4）

＜No.2＞A3二つ折り 8頁（仕上A4）

＜No.3＞840mm×297mm ジャバラ折り（仕上A4）

部数：各20,000部



No.1表紙



No.2表紙



No.3表紙

◆記録集

<仕様>A4版、24頁



記録集 表紙

ごあいさつ/作家紹介/会場と展示/バンブーストック・フェスティバル/アーティストトーク/ワークショップ/アーティストインタビュー/来場者の声/ふりかえり/来場者の声

編集：白井嘉尚、川谷承子、以倉新、堀切正人、柚木康裕、平野雅彦、名倉達也、片桐義晴

デザイン：Jicca design

発行：国立大学法人 静岡大学

関連事業

◆アーティストトーク

概要：出品作家による作品解説。一見、スタイリッシュで手の跡を感じさせない作品に隠された、膨大な手作業や、積層した写真に閉じ込められた時間、デザインと美術の境界、複製と消費社会への問いなど、制作やコンセプトに纏わる興味深い話を聞くことができた。

日時：10月30日(日)14:00-14:50

会場：エントランスホール・多目的室

参加者数：36人

講師：Nerhol (田中義久・飯田竜太)(出品作家)



3)生涯学習センター・静岡市美術館連携事業

「しずび出前講座」

概要：「しずび出前講座」は、開催中の展覧会にかかわらず、生涯学習センターに当館学芸員を講師として派遣し、座学やワークショップを実施する連携講座。本年度は座学6講座、ワークショップ2講座を実施した。

<講義>

①「大観・靱彦・龍子らと修善寺」を楽しむ(全2回)

概要：開催中の「伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺」の見どころを紹介しつつ、展示室では見ることのできない、新井旅館や修善寺の様子、箱書きや関連書簡等も織り交ぜながら、実際の見学に役立つような内容とした。

日時：①6月18日(土)10:00- ②6月25日(土)9:30-

会場：①長田生涯学習センター ②当館 **参加者数：**計23人

講師：吉田恵理

②高齢者学級みのり大学 南部学級での講義

概要：平成29年度開催予定の展覧会「駿河の白隠さん」のプレ事業にもなるように、「白隠の生涯と書画」と題し、県内調査の成果も活かしながら、地域ゆかりの偉人の紹介をしつつ、その造形的魅力に迫る内容とした。

日時：9月28日(水)10:00-

会場：南部生涯学習センター **参加者数：**69人

講師：吉田恵理

③「白隠と仙厓 その生涯と書画」(全2回)

概要：平成29年度開催予定の展覧会「駿河の白隠さん」のプレ事業にもなるように、禅画で有名な白隠と仙厓をとりあげ、2回講座とした。両者の筆墨の違いの比較なども試みた。

日時：①9月30日(金) ②10月7日(金) いずれも 14:00-

会場：南部生涯学習センター

参加者数：計81人 **講師：**吉田恵理

④「中勘助と美術ー随筆に見る浮世絵鑑賞」(全2回)

概要：平成28年度末に開催した、静岡市民ギャラリーでの展覧会準備中に会った、静岡時代の中勘助資料より、中の「春信七題」と題した詩を、実際の春信作品の解釈とともに、改めて読み直した。

日時：①10月1日(土) ②10月8日(土) いずれも 14:00-

会場：薬科生涯学習センター **参加者数：**計20人

講師：吉田恵理

⑤高齢者学級みのり大学 長田学級での講義

概要：平成29年度開催予定の展覧会「駿河の白隠さん」のプレ事業にもなるように、「白隠の生涯と書画」と題し、県内調査の成果も活かしながら、地域ゆかりの偉人の紹介をした。

日時：11月11日(金)9:30-

会場：長田生涯学習センター **参加者数：**88人

講師：吉田恵理

⑥「画家とめぐる地中海沿岸の旅(南仏編・スペイン編)」(全2回)

概要：平成25年度に開催した「シャガール展」、および本年度開催の「ランス美術館展」などを踏まえ、西洋絵画の発展の様子を、地中海沿岸での画家たちの活動を切り口に紹介。貴重な作家たちの制作風景など、豊富なスライドを用いて解説した。

日時：①12月10日(土) ②12月17日(土) いずれも 14:00-

会場：北部生涯学習センター **参加者数：**計26人

講師：小川かい

<ワークショップ>

①出張！しずびちビッコプログラム

「親子でオリジナルエコバックをつくろう」

概要：平成24年度に実施した「フィンランドのくらしとデザイン」展の「しずびちビッコプログラム」をもとに、未就学児の親子向けにアレンジした内容を実施。折り畳んだラベルシートをハサミで切ってできたパターンを型紙に使用し、エコバックを着色して仕上げた。

日時：7月23日(土)10:30-12:00

会場：西奈生涯学習センター

対象・参加者数：2歳以上の未就学児とその保護者 12組24人

講師：森谷紗世

②出張！しずびちビッコプログラム

「自分のマーク入りの旗「旗印」をつくろう！」

概要：平成26年度に実施した「久能山東照宮展」の「しずびちビッコプログラム」をもとに、未就学児の親子向けにアレンジした内容を実施。ラベルシートを利用して自分を表すマークを制作し、布地に絵具で転写して「旗印」を制作。黒地に金をあしらった木の棒を取り付ける本格的な仕上がりで好評を得た。

日時：10月22日(土)10:30-12:00

会場：北部生涯学習センター

対象・参加者数：2歳以上の未就学児とその保護者 8組16人

講師：森谷紗世

4) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)

概要：JR静岡駅前に位置する静岡音楽館AOI、静岡科学館る・く・る、静岡市美術館が特徴を活かして、音楽、科学、美術の境界を越え、総合的な文化空間の創造を目指して連携実施する事業。本年度は4事業を実施した。

(1) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト「みる・きく・さわるのさっかく展」

概要：「エッシャーの世界」展との連携により、静岡科学館主催で実施した体験型企画展示。錯覚に焦点をあて、知覚心理学などの視点からエッシャー作品を紹介した。なお、本展の展示スペースでは当館の「エッシャーの世界」展を告知し、当館でもエントランスには本展の小展示を行うなど、事業だけでなく、広報面でも相互協力することができた。

会期：7月16日(土)～8月31日(水)

会場：静岡科学館る・く・る

参加料：無料(科学館入館料別途)



(2) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業

「エッシャーの世界展に寄せて エッシャーとバッハ」

概要：「エッシャーの世界」展に関連した静岡音楽館学芸員による講座。ダグラス・ホフスタッター『ゲーデル、エッシャー、バッハ』をもとに、主にバッハとエッシャーとの関係について解説した。

日時：7月22日(金)19:00-21:00

会場：南部生涯学習センター **参加者数：**34人

講師：小林句氏(静岡音楽館AOI学芸員)



(3)静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト

「子どものためのコンサート 弦楽四重奏で聴く「ジブリ」の世界」

概要：歴代のスタジオジブリ作品で使用された名曲の数々を、弦楽四重奏曲に編曲し演奏。未就学児も入場することができ、小さな子ども連れの家族が気兼ねなく生演奏を味わうことのできる貴重な機会となった。

日時：12月3日(土)開場17:00 開演17:30

会場：静岡音楽館AOIホール 参加者数：554人

出演：東京バウハウスアンサンブル

曲目：『風の谷のナウシカ』より〈風の谷のナウシカ〉〈ナウシカ・レクイエム〉/『天空の城ラピュタ』より〈君をのせて〉/『となりのトトロ』より〈となりのトトロ〉〈風の通り道〉/『魔女の宅急便』より〈海に見える街〉〈旅立ち〉/『紅の豚』より〈マッドネス〉/『耳をすませば』より〈カントリーロード〉/『もののけ姫』より〈もののけ姫〉/『千と千尋の神隠し』より〈いつも何度でも〉〈千尋のワルツ〉/『ハウルの動く城』より〈人生のメリーゴーランド〉/『崖の上のポニョ』より〈メインテーマ〉/『風立ちぬ』より〈ひこうき雲〉



(4)静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト
ミュージアム・コンサート「夢二を歌う」

※43頁を参照。

5)「キニナルスキニナルプロジェクト」

概要：当館を指定管理する静岡市文化振興財団が、しずおか文化を知って「キニナル」、楽しんで「スキニナル」、そして魅力ある「しずおか文化」を創り出していくことを目的として、平成26年度から実施しているプロジェクト。昨年度に続き「次世代の育成」をテーマに財団内各施設における「ダンス」「美術」「音楽」「科学」「生涯学習」等の多彩な事業をエントリーし展開している。当館では本年度、展覧会やワークショップ等4事業、鑑賞ガイド1種を実施・制作した。

印刷物：

◆事業告知チラシ(静岡市文化振興財団事務局作成)

<仕様>サイズ・加工：A3二つ折り(仕上A4)<5月・10月>、
A4<3月>



5月発行チラシ



10月発行チラシ



3月発行チラシ

(1)キニナルスキニナルプロジェクト

しずびチビッコプログラム

※51-52頁を参照。

(2)静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト

みる・きく・さわるのさっかく展

※60頁を参照。

(3)キニナルスキニナルプロジェクト

しずびオープンアトリエ

※50頁を参照。

(4)キニナルスキニナルプロジェクト

めぐりアート静岡 記憶をめぐる 記憶をつくる

※58-59頁を参照。

(5)キニナルスキニナルプロジェクト

「スタジオジブリ・レイアウト展」鑑賞ガイド

※35頁を参照。

(6)静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト

ミュージアムコンサート「夢二を歌う」

※43頁を参照。

6)その他施設との連携等

(1)Kids Art Project Shizuoka

概要：平成28年4月～平成29年3月末まで、「Kids Art Project Shizuoka 実行委員会」に参画、県内の小学生全児童に参加各館のオリジナルスタンプを集めるスタンプラリー付の「しずおかミュージアムパスポート」を配布した。

実施期間：4月1日(金)～3月31日(金)

対象：静岡県内の全小学生(165校・約21万人)

加盟館：静岡県内の美術館・博物館計43館



(2)JR東海「アート&トレイン」

概要：JR東海が企画した、電車を利用して、静岡県および山梨県にある全7館の美術館をめぐるスタンプラリー「アート&トレイン」へ協力。パンフレット持参の来館者には当館オリジナルクリアファイルを進呈した。

実施期間：7月17日(日)～11月27日(日)

利用者数：1,045人



パンフレット表紙

(3)静岡市・静岡市美術館共同開催

静岡市まちかどコレクション ワークショップ

「“フォトモ”で再現 静岡の“まちかど”」

概要：静岡市(担当：建築総務課)と共催事業として実施。当館教育普及担当がワークショップの準備・当日の進行をサポートした。美術家・写真家の糸崎公朗氏を講師に招き、静岡のまちを歩いて撮った写真をもとに、立体的に“まちかど”を再現する作品「フォトモ」を制作した。なお、完成した作品は8月末日まで当館エントランスホールに展示した。

日時：7月23日(土)、30日(土)10:00～16:00

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：中学生以上 13人

作品展示：8月6日(土)～28日(日)



制作のようす



展示風景

4. 受託事業等

4-1 受託事業等

1) 「旧五十嵐邸・竹久夢二」展

概要：静岡市美術館が所蔵する、竹久夢二作品(志田コレクション)を、夢二と同時代に建てられた国登録有形文化財の旧五十嵐歯科医院(旧五十嵐邸)で展示する、毎年恒例の展覧会。今年度は「するがのくにの芸術祭 富士の山ビエンナーレ」と同時開催した。

会期：11月3日(木・祝)～6日(日)

会場：旧五十嵐邸

来場者数：455人

展示内容：志田コレクションより

1. 竹久夢二原画〈女十題〉「舞姫」
2. 同「黒猫」
3. 同「逢状」
4. 竹久夢二原画〈長崎六景〉「眼鏡橋」
5. 同「出島」
6. 同「青い酒」
- 7～9. 竹久夢二原画〈夢二小品版画集〉
10. 竹久夢二著・装幀『たそやあんど』
11. 竹久夢二著・装幀『露地の細道』
12. 澤田伊四郎編『歌の絵草紙』

計12点

主要広報記録：

◆新聞

・「竹久夢二の作品 旧五十嵐邸で展示 清水区」『静岡新聞』、11月4日。



2) 静岡市清水文化会館マリナート常設展示

「平野富山ー清水が生んだ彩色木彫の名匠」

概要：今年度で5年目となる静岡市清水文化会館マリナートにおける、彩色木彫家・平野富山の常設展示。静岡市が収蔵する富山作品(彩色木彫35点、塑像等約35点、書2点)と富山の収集品454件を活用し、各期テーマを設けて展示した。また、それに係る展示施工、保存管理、調査研究もあわせて実施した。特に第2期では富山の彩色木彫のほか、昨年度実施した富山コレクションの陶磁器調査の成果として、陶製の置物、中国・明時代の青花磁器、日本・江戸期の色絵磁器なども展示した。

テーマおよび会期：

【第1期】富山と最初の師・池野哲仙 7月～10月

【第2期】縁起物、雛 11月～2月

【第3期】能、歌舞伎 3月～6月

会場：静岡市清水文化会館マリナート 1階ギャラリー隣
平野富山常設展示コーナー



出品作品リスト：

【第1期】テーマ：写実的表現

富山の初期作品と、富山の最初の師である人形師・池野哲仙^{いけの てっせん}の彩色木彫4点を出品した。中でも親指大の木彫り人形が並ぶ《模刻隆慶百人一衆》や、古面を忠実に模して古色を付けた《蘭陵王面》などは哲仙の技量の高さがうかがえるもので、充実した内容となった。

1. 平野富山《八重垣姫》昭和11年、彩色木彫、静岡市
2. 平野富山《おぼろ夜》昭和12年、彩色木彫、静岡市
3. 池野哲仙《蘭陵王舞》昭和4～7年頃、彩色木彫、静岡市/平野富山コレクション
4. 池野哲仙《蘭陵王面》昭和11年、彩色木彫、静岡市/平野富山コレクション
5. 池野哲仙《白武悪》彩色木彫、静岡市/平野富山コレクション
6. 池野哲仙《模刻隆慶作百人一衆》彩色木彫、静岡市/平野富山コレクション
7. 平野富山《神猿》昭和56年、彩色木彫、静岡市
8. 平野富山(敬吉)《ボデー・ビルダー》昭和11年、石膏、静岡市

【第2期】テーマ：縁起物、雛

縁起物、雛をテーマに《福童子》など富山の彩色木彫を展示した。あわせて富山の収集品より、京焼の陶工、十四代永楽得全の妻である永楽妙全^{みよづせん}が手がけた《色絵福神形置物》も出品。華やかな上絵付が施された妙全の色絵と、富山の彩色木彫に通底する、極彩色の精緻な文様の魅力を伝えた。

1. 平野富山《吉野雛》昭和8年、彩色木彫、静岡市
2. 平野富山《三輪雛》昭和55年、彩色木彫、静岡市
3. 平野富山《欄間扇面散らし》昭和22年、彩色木彫、静岡市
4. 平野富山《福童子》昭和24年、彩色木彫、静岡市
5. 平野富山《吉祥天》昭和47年、彩色木彫、静岡市
6. 永楽妙全《色絵福神形置物》明治－大正時代、京焼、陶器、静岡市/平野富山コレクション
7. 平野富山(敬吉)《莫》※第7回改組日展出品、昭和50年、FRP、静岡市
8. 《青花花鳥図皿》明時代末期、漳州窯、磁器、静岡市/平野富山コレクション
9. 《呉須赤絵赤玉文合子》明時代後期、漳州窯、磁器、静岡市/平野富山コレクション
10. 《色絵龍文皿》江戸時代中期、有田、磁器、静岡市/平野富山コレクション

【第3期】テーマ：能、歌舞伎

富山の彩色木彫より、能や歌舞伎を主題とした作品を中心に紹介した。「三番叟」に愛らしい猿が扮した縁起物《三番叟》を展示したほか、歌舞伎の演目からは《鏡獅子》も出品。富山が彩色を手掛けた平櫛田中の《鏡獅子》の作品図版や、田中が同作の彩色に言及した言葉なども補足資料とした。

1. 平野富山《粧》昭和11年、彩色木彫、静岡市
2. 平野富山《羽衣》昭和10年、彩色木彫、静岡市
3. 平野富山《三番叟》昭和15年、彩色木彫、静岡市
4. 平野富山《翁舞》昭和49年、彩色木彫、静岡市
5. 平野富山《鏡獅子》昭和55年、彩色木彫、静岡市
6. 平野富山(敬吉)《裸婦》※第2回新日展出品、昭和34年、FRP、静岡市
7. 《能面 父尉》静岡市/平野富山コレクション
8. 《狂言面 黒式尉》静岡市/平野富山コレクション
9. 《能面 小面》静岡市/平野富山コレクション



第1期



第2期



第3期

5. 調査研究・研修受入等

5-1 調査研究

平成28年度中に当館職員が行った、館外での主な活動および執筆・寄稿等は下記のとおりである。

●田中豊稲

＜館外での活動＞

- ・静岡市文化振興審議会委員
- ・美術品補償制度部会臨時委員

●以倉新

＜館外での活動＞

- ・静岡市立芹沢銈介美術館 協議会委員(第1回：8月27日、第2回：2月25日)
- ・静岡県立美術館 専門評価員(11月9日)
- ・静岡大学アートマネジメント力育成事業実習「めぐるりアート静岡」展企画運営
- ＜展覧会カタログ編集・執筆＞
- ・「めぐるりアート静岡 記憶をめぐる 記憶をつくる」記録集編集、作家紹介執筆「日詰明男 黄金比と竹の実験都市」「岩野勝人《MENTAL CHAIR》、再び！」「Nerhol (田中義久・飯田竜太) 抵抗の身振り」『めぐるりアート静岡 記憶をめぐる 記憶をつくる』静岡大学、4、5、7頁。

●吉田恵理

＜館外での活動＞

- ・『池大雅「六遠図・試錐図巻」(香雪美術館蔵)について』『第1回表象文化研究会』青山学院大学 総研ビル(14号館)604号室、11月27日(日)10:00-12:30
- ・オーバリンプロジェクト実行委員会「オーバリン大学・アレンメモリアル美術館所蔵 メアリー・エインズワース・コレクション浮世絵版画目録(調査報告)」「千葉市美術館研究紀要 採蓮 第19号」、25-80頁、2017年3月。
- ＜展覧会カタログ編集・執筆＞
- ・「伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靉彦・龍子らと修善寺」展覧会オリジナル小冊子編集、作品解説執筆。
- ＜雑誌・新聞等寄稿＞
- ・吉田恵理「伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 温泉街に開花 交友の証し 7日から静岡市美術館」『静岡新聞』、5月31日。
- ・吉田恵理「「徳川の平和」がもたらした東海ブロックの展覧会」『全国美術館会議機関誌 全美フォーラム』vol.11、12-13頁。
- ＜その他＞

◆研究助成

- ・平成28年度 文化庁 地域の核となる美術館・博物館支援事業「米国オーバリン大学 アレン・メモリアル美術館所蔵 メアリー・エインズワース浮世絵コレクションの日米相互の活用と専門知識を通じた交流事業」(10月10日-21日)
- ・公益財団法人 野村財団 2016年度下半期芸術文化助成「オーバリン大学 アレン・メモリアル美術館 メアリー・エインズワース・コレクション浮世絵名品展(仮称)」(10月10日-21日)
- ・公益財団法人カメイ社会教育振興財団 平成28年度助成 公立美術館3館で開催予定の展覧会「オーバリン大学 アレン・メモリアル美術館 メアリー・エインズワース・コレクション浮世絵名品展(仮称)」のための事前作品調査、及び「山水画譜」の実態と利用に関する調査研究(10月10日-21日)

●山本香瑞子

＜展覧会カタログ編集・執筆＞

- ・「夢二と京都の日本画」カタログ編集、章解説、作品解説、作家略歴、「夢二と日本画―「第一回夢二作品展覧会」から「竹久夢二抒情画展覧会」までを中心に」執筆。
- ＜雑誌・新聞等寄稿＞
- ・山本香瑞子「和洋混交 花開く個性：夢二と京都の日本画 18日から静岡市美術館」『静岡新聞』、2月15日。

●小川かい

＜館外での活動＞

- ・静岡県博物館協会事業推進グループ委員
- ＜展覧会カタログ編集・執筆＞
- ・「ランス美術館展」カタログ編集、章解説(第1章)翻訳、コラム「ランスと「シャンパーニュ」」および作品解説・作家解説(第1章)執筆。
- ＜雑誌・新聞等寄稿＞
- ・小川かい「名画に酔いしれる」『中日新聞』静岡版、9月9日。
- ・小川かい「ランス美術館展①10月30日まで静岡市美術館：静謐と凄惨さの対比：マラーの死 ジャック＝ルイ・ダヴィッド(および工房)1793年7月13日以降」『中日新聞』、9月17日。
- ・小川かい「ランス美術館展②10月30日まで静岡市美術館：流行のドレス 華やか：ルイ・ボメリー夫人 エドゥアル・デュビュッフ1875年」『中日新聞』、9月18日。
- ・小川かい「ランス美術館展③10月30日まで静岡市美術館：パリを捉えた代表作：オペラ座通り、テアトル・フランセ広場 カミーユ・ピサロ1898年」『中日新聞』、9月21日。
- ・小川かい「ランス美術館展④10月30日まで静岡市美術館：「仕切る」技法で表現：バラと彫像 ポール・ゴーギャン1889年」『中日新聞』、9月22日。
- ・小川かい「ランス美術館展⑤10月30日まで静岡市美術館：設計、壁画 全て自分で：平和の聖母礼拝堂 レオナルド・フジタ(藤田嗣治)」『中日新聞』、9月23日。

●森谷紗世

＜館外での活動＞

- ・「日本平動物園写生大会」審査(12月3日)
- ＜展覧会カタログ編集・執筆＞
- ・「夢二と京都に日本画」展カタログ編集、作家略歴執筆。

●伊藤鮎

＜展覧会カタログ編集・執筆＞

- ・「没後20年 ルーシー・リー展」コラム、作品解説執筆。
- ＜その他＞
- ・「この人：美術館を舞台に映画上映を続ける 伊藤鮎さん(静岡市葵区)」『静岡新聞』、10月5日。

●大石沙織

＜館外での活動＞

- ・オーバリンプロジェクト実行委員会「オーバリン大学・アレンメモリアル美術館所蔵 メアリー・エインズワース・コレクション浮世絵版画目録(調査報告)」「千葉市美術館研究紀要 採蓮 第19号」、25-80頁、2017年3月。
- ＜展覧会カタログ編集・執筆＞
- ・「エッシャーの世界」展カタログ編集、「エッシャーにとってのイ

タリア時代」執筆。

<その他>

◆研究助成

- ・平成28年度 文化庁 地域の核となる美術館・博物館支援事業「米国オーバリン大学 アレン・メモリアル美術館所蔵 メアリー・エインズワース浮世絵コレクションの日米相互の活用と専門知識を通じた交流事業」(10月10日～21日)
- ・公益財団法人 野村財団 2016年度下半期芸術文化助成「オーバリン大学 アレン・メモリアル美術館 メアリー・エインズワース・コレクション浮世絵名品展(仮称)」(10月10日～21日)

●安岡真理

<館外での活動>

- ・「日本平動物園写生大会」審査(12月3日)

<研究発表・論文等>

- ・発表：「静岡市美術館の教育普及事業について」(美術科教育指導論・後期)、静岡大学、12月5日

<展覧会カタログ編集・執筆>

- ・「高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。スタジオジブリ・レイアウト展」鑑賞ガイド執筆、編集

<雑誌・新聞等寄稿>

- ・安岡真理「「スタジオジブリ・レイアウト展」①：画面決定づける鉛筆画：「もののけ姫」©1997 Studio Ghibli・ND」『読売新聞』、12月13日。
- ・安岡真理「「スタジオジブリ・レイアウト展」②：手で描かれた線の魅力：「風の谷のナウシカ」©1984 Studio Ghibli・H」『読売新聞』、12月14日。

聞』、12月14日。

- ・安岡真理「「スタジオジブリ・レイアウト展」③：一枚一枚にすべてが表現：「となりのトトロ」©1988 Studio Ghibli」『読売新聞』、12月15日。
- ・安岡真理「「スタジオジブリ・レイアウト展」④：キャラ設定まで詳細に：「千と千尋の神隠し」©2001 Studio Ghibli・NDDTM」『読売新聞』、12月17日。
- ・安岡真理「「スタジオジブリ・レイアウト展」⑤：アニメの秘密文字にも：「かぐや姫の物語」©2013 Studio Ghibli・NDHDMTK」『読売新聞』、12月21日。

◆教育プログラム企画・制作(担当：森谷・安岡)

- ・「しずびちビッコプログラム」オリジナルプログラム(各展覧会・計6種)
- ・「しずびオープンアトリエ」オリジナルプログラム(計2種)
- 夏：「メビウスの輪で不思議な模様とカタチをつくろう！」
- 春：「はんこでつくろ！夢ニデザイン」
- ・「プレゼントワークショップ」(計4種)
- vol.17「母の日だ！親子でプレゼントをつくろう」、vol.18「父の日だ！親子でプレゼントをつくろう」、vol.19「敬老の日だ！おじいちゃん、おばあちゃんとプレゼントをつくろう」、vol.20「クリスマスの準備をしよう！」子ども編・大人編
- ・「暦とあそぶワークショップ」(計2種)
- vol.12「こどもの日の準備をしよう！」、vol.13「七夕の準備をしよう！」

5-2 博物館実習

以下の要領で学芸員資格取得を目指す学生を対象に博物館実習を行った。

対象：博物館法施行規則第一条に定められた博物館に関する科目の単位を履修済みまたは履修中で、以下の要件を満たす者。ただし学芸員資格を既に取得済みの者は除く。

- ①美学・美術史または美術教育専攻であること。(美術館で研修する理由がある者)
- ②静岡県内在学者もしくは県内に帰省先があること。
- ③パソコンのメールアドレスを持っていること。(携帯メールは不可)
- ④学部3年生以上であること。(4年生を優先する)

実習期間：8月10日(水)～14日(日) 計5日間

実習場所：当館および静岡市清水文化会館マリナート

受入大学・人数：静岡大学、武蔵野美術大学、筑波大学、青山学院大学、八洲学園大学、多摩美術大学 計6大学6人

実習日	時 間	実 施 内 容
10日(水)	9:10～ 9:55 10:10～11:00 11:10～12:00 13:40～14:30 15:00～16:50	ガイドダンス・職員紹介・施設案内 静岡市美術館の特色について(講義) 開催中展覧会の展示について(講義)※終了後各自展覧会鑑賞 静岡市美術館の教育普及活動について(講義) オープンアトリエ体験(実習)
11日 (木・祝)	9:10～10:50 11:10～12:00 13:00～13:50 14:00～14:50	自記温湿度計の取扱い・収蔵庫見学(実習) 美術館の展示・保存環境について(講義) 展覧会のつくり方(講義) 静岡市美術館の広報活動について(講義)
12日(金)	9:10～12:00 13:00～16:50	作品調査①(実習)＜於：静岡市清水文化会館マリナート＞ 作品調査②(実習)＜於：静岡市清水文化会館マリナート＞
13日(土)	11:10～12:00 13:00～15:20 15:30～19:00	静岡市美術館の図書の分類について(講義) 図書の整理(実習) 夜店市補助(実習)
14日(日)	11:10～12:00 13:00～15:50	館長講話(講義) 「これまでの実習で学んだこと」(実習生による発表)

5-3 視察等受入

平成28年度受入分は下記のとおりである。

	日 付	視察団体名	人数
1	6月15日(水)	静岡市観光交流文化局MICE・国際課	4人
2	7月29日(金)	静岡市下水道課	30人
3	8月26日(金)	静岡市秘書課	15人
4	10月20日(木)	JR宇都宮駅西口地区まちづくり協議会	20人
5	3月2日(木)	静岡市産業振興課	9人

(※外部施設との連携事業における展示解説分は除く。) 計 5件 78人

6. 収蔵品・図書等

6-1 収蔵品・画像貸出等

1)「金沢湯涌夢二館リニューアル記念特別展Ⅱ 夢二式美人そろいぶみー志田コレクションを中心にー」

会期：9月24日(土)－11月27日(日)

＜前期：9月24日(土)－10月24日(金)、中期：10月25日(土)－11月4日(金)、後期：11月5日(土)－11月27日(日)＞

会場(所在地)：金沢湯涌夢二館(石川県金沢市湯涌町)

貸出内容：

種別	題名	種別	題名
掛軸	《初春》	短冊	《山に舟》
	《合鏡》	団扇	《福島小夜曲》
	《木による女》	素描	《長襦袢》
	《草に憩う女》	資料	《日記帳》
	《小春・時雨の炬燵》		《西村渚山宛絵葉書(明治40年1月4日)》
	《紙びな》		《渡辺英一宛絵葉書(明治42年7月25日)》
	《荒野の楽人》		《渡辺英一宛絵葉書(明治43年2月9日)》
	《たそがれ》		《渡辺英一宛絵葉書(明治43年4月18日)》
	《嵐峡初秋》		《渡辺英一宛絵葉書(大正2年8月17日)》
屏風	《紫色の春の夜の》		《竹久方しの宛書簡(大正7年1月11日)》
色紙	《うしろ姿》	すべて志田コレクション 計24点	
	《寒燈》		
	《鴨東夜花》		
	《春浅き》		

6-2 図書等

平成28年度図書等受入数

	購入	寄贈	合計
カタログ	37冊	360冊	397冊
雑誌	225冊	66冊	291冊
一般図書・その他	25冊	382冊	407冊
合計	287冊	808冊	1,095冊

7. 広報活動

7-1 広報印刷物

1) 年間スケジュール

平成28(2016)年度展覧会スケジュールを下記のとおり制作し、ウェブサイトに掲載した。

<仕様>紙：マットコート 110kg

サイズ・数量：210×396mm（仕上 210×99mm）45,000部（日本語版）、500部（英語版）

加工：観音折り（四つ折り）加工

印刷：オフセット印刷（日本語版）、オンデマンド印刷（英語版）

◆日本語版年間スケジュール



◆英語版年間スケジュール



2) ワークショップシリーズ年間スケジュール

平成28(2016)年度ワークショップシリーズ年間スケジュールを下記のとおり制作した。

<仕様>紙：片艶晒クラフト（キャピタルラップ）86kg

サイズ・数量：A4（仕上A5）20,000部

加工：二つ折り加工



7-2 ウェブサイト

展覧会情報を中心に、関連イベントの情報や施設概要、ショップ情報についても掲載。スマートフォンサイトとも連動している。また、ブログ、ツイッター、インスタグラムも開設し、常にタイムリーな情報発信を行っている。

ウェブサイト構成：(<http://www.shizubi.jp>)

- 展覧会
 - ・これからの展覧会
 - ・開催中の展覧会
 - ・年間スケジュール
 - ・過去の展覧会
- イベント
 - ・これからのイベント
 - ・今までのイベント
- ショップ&カフェ
 - ・ショップ&カフェ
 - ・アーカイブ
- 学校・団体鑑賞
- プレス
- アクセス・利用案内
 - ・アクセス/利用案内
 - ・駐車場
- 美術館の概要
 - ・館長挨拶
 - ・コンセプト
 - ・施設概要
 - ・ロゴについて
 - ・沿革
- その他(リンク)
 - ・ブログ(<http://www.shizubi.jp/blog/index.php>)
 - ・ツイッター(http://twitter.com/shizubi_jp)
 - ・インスタグラム(http://instagram.com/shizubi_jp)

アクセス数：413,053件(1日平均 約1,132件)



パソコン版ホームページ



スマートフォン版
ホームページ

7-3 施設広報記録

展覧会事業・交流事業以外の美術館施設に関する主な取材記録は下記のとおりである。

1)新聞

- ・「シズオカカレンダー アートを難しくしているのは、自分かもしれない。/今年度のラインナップ」『静岡新聞』、3月31日。

2)雑誌等

- ・「施設紹介」『静岡お茶カフェ』、4月1日。
- ・「ワークショップ実施風景(写真)」『しみずミニレポート』、平成28年3月期、清水銀行、6月1日。
- ・「“ちょっと面白い街の中の広場” 静岡市美術館」『しずおか生活ガイドブック』、6月1日。
- ・「ミュージアムショップ紹介」『しずおかデート本 2016-2017』vol.27、6月30日。
- ・「都市型のアクティヴな美術館 静岡市美術館」『美術展&美術館ぴあ2017』、3月25日。

8. 管理運営

8-1 利用者数

1)利用者数(月別) (単位：人)

	展覧会 観覧者	展覧会関連事業 参加者	交流事業 参加者	連携事業・その他の事業 参加者	事業参加者 計	総入館者
4月	5,199	309	30	0	5,538	17,381
5月	11,958	337	120	0	12,415	28,212
6月	3,982	442	40	23	4,487	14,773
7月	12,098	936	23	172	13,229	29,167
8月	26,809	864	408	468	28,549	52,149
9月	5,974	367	18	268	6,627	19,098
10月	10,180	394	23	7,302	17,899	24,827
11月	12,310	726	0	5,965	19,001	31,460
12月	20,176	1,192	41	580	21,989	40,114
1月	33,669	790	145	0	34,604	67,668
2月	16,061	389	93	0	16,543	36,017
3月	9,131	257	1,847	0	11,235	23,981
計	167,547	7,003	2,788	14,778	192,116	384,847
月平均	13,962	584	232	1,232	16,010	32,071

2)利用者数 事業別

展覧会名	実施期間	入場者等
没後20年 ルーシー・リー展	4月9日－5月29日 (開館45日間)	17,157人 (381人/日)
伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靉彦・龍子らと修善寺	6月7日－7月10日 (開館30日間)	6,592人 (220人/日)
エッシャーの世界	7月17日－8月28日 (開館37日間)	36,297人 (981人/日)
ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ	9月10日－10月30日 (開館45日間)	16,154人 (359人/日)
高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。スタジオジブリ・レイアウト展	11月19日－2月5日 (開館65日間)	79,378人 (1,221人/日)
夢二と京都の日本画	2月18日－3月26日 (開館32日間)	11,969人 (374人/日)
展覧会 観覧者 計		167,547人
普及事業参加者 (展覧会関連事業参加者＋交流事業参加者＋連携事業・その他事業参加者)		24,569人
事業参加者 総計 (展覧会観覧者＋普及事業参加者)		192,116人
総入館者数(エントランス入口自動カウンター集計数)	4月1日－3月31日	384,847人

3)利用者数(事業別詳細)

事業 区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
展覧会事業	展覧会		計6本 167,547人		
	没後20年 ルーシー・リー展	4/9-5/29 (45日間)	15,000	17,157	114.4%
	伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺	6/7-7/10 (30日間)	8,000	6,592	82.4%
	エッシャーの世界	7/17-8/28 (37日間)	24,000	36,297	151.2%
	ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ	9/10-10/30 (45日間)	20,000	16,154	80.8%
	高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。スタジオジブリ・レイアウト展	11/19-2/5 (65日間)	67,000	79,378	118.5%
	夢二と京都の日本画	2/18-3/26 (32日間)	10,000	11,969	119.7%
展覧会 関連事業	ミュージアム教室		計4,395人(135団体／136回)		
	没後20年 ルーシー・リー展	4/9-5/29 (全12回)	199(12団体／12回)		
	伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺	6/7-7/10 (全10回)	353(10団体/10回)		
	エッシャーの世界	7/17-8/28 (全42回)	1,262(42団体／42回)		
	ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ	9/10-10/30 (全7回)	218(6団体/7回)		
	高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。スタジオジブリ・レイアウト展	11/19-2/5 (全57回)	2,219(57団体/57回)		
	夢二と京都の日本画	2/18-3/26 (全8回)	144(8団体／8回)		
	その他展示解説		計744人(18団体／18回)		
	没後20年 ルーシー・リー展	4/9-5/29 (全2回)	107(2団体/2回)		
	伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺	6/7-7/10 (全4回)	93(4団体/4回)		
	エッシャーの世界	7/17-8/28 (全2回)	90(2団体／2回)		
	ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ	9/10-10/30 (全4回)	159(4団体／4回)		
	高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。スタジオジブリ・レイアウト展	11/19-2/5 (全6回)	295(6団体／6回)		
	夢二と京都の日本画	2/18-3/26 (全0回)	0(0団体/0回)		
	没後20年 ルーシー・リー展		計4本 340人		
	記念講演会「ルーシー・リーの造形美 現代陶芸のパイオニア」	4/16	70	91	130.0%
	実演&レクチャー「ルーシー・リーの制作技法について」	4/30	70	110	157.1%
	当館学芸員によるギャラリートーク	5/7	-	33	-
	講演会「ルーシー・リーとハンス・コパー その生涯と時代」	5/21	70	106	151.4%
	伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺		計3本 141人		
	写真展「修善寺の四季」	6/7-7/10	-	-	-
	講演会「修善寺と安田靱彦」	6/12	70	94	134.3%
	学芸員のギャラリートーク/この一点をとことん語る	6/18、6/25	-	47	-

事業 区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
展 覧 会 関 連 事 業	エッシャーの世界		計3本 303人		
	講演会「エッシャーとサイケデリック数学」	7/17	70	132	188.6%
	クラシックミニコンサート	7/31	70	88	125.7%
	当館学芸員によるギャラリートーク	8/6	-	83	-
	ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ		計5本 384人		
	講演会「レオナルド・フジタとランスー魂の安寧の地へ」	9/10	70	85	121.4%
	当館学芸員によるギャラリートーク	9/17、10/9	-	94	-
	コンサート「バロックから近代へ～音楽でめぐるヨーロッパ～」	9/22	100	93	93.0%
	「シャンパーニュの夕べ」(展覧会レクチャー&シャンパン試飲会)	10/8	60	46	76.7%
	コンサート「音楽と美術の幸せな出会い」	10/23	100	66	66.0%
	高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。 スタジオジブリ・レイアウト展		計3本 343人		
	担当学芸員によるスライドトーク	11/26、1/15	-	128	-
	講演会「レイアウトとは何か」(対談)	12/17	100	100	100.0%
	講演会「主観と客観」	1/14	100	115	115.0%
	夢二と京都の日本画		計5本 353人		
	プレミアムフライデー特別企画 館長と担当学芸員によるプレミアムトーク	2/24	-	33	-
	講演会①「京の美人画」	2/25	70	75	107.1%
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 キニナルスキニナルプロジェクト ミュージアムコンサート「夢二を歌う」	2/26	70	97	138.6%
	講演会②「新たな夢二像を探って」	3/4	70	74	105.7%
	学芸員によるギャラリートーク	3/5、3/18	-	74	-
交 流 事 業	Shizubi Project		計2本 1,602人		
	Shizubi Project 6 「彼方へ 國府理・林勇気・宮永亮」	3/28～H29/6/18 (内今年度分のみ)	-	1,587	-
	アーティストトーク	3/28 (次年度6/4、6/18) (内今年度分のみ)	40	15 (今年度分のみ)	-
	Shizubiシネマアワー		計3本 169人		
	Shizubiシネマアワー vol.18 シズオカ×カンスウィーク2016・こどもの日 連携企画 『地下鉄のザジ』	5/5	70	74	105.7%
	Shizubiシネマアワー vol.19「マンガの時代」 ①『マンガをはみだした男 赤塚不二夫』	8/13	70	50	71.4%
	Shizubiシネマアワー vol.19「マンガの時代」 ②『トキワ荘の青春』	8/20	70	45	64.3%
	ピーター・バラカンの「音を見る。アートを聴く。」		計1本 101人		
	ピーター・バラカンの「音を見る。アートを聴く。」 第10回「音を見る。アートを聴く。」	1/9	100	101	101.0%
	しずびオープンアトリエ		計2本 604人		
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびオープンアトリエ 「メビウスの輪で不思議な模様とかたちをつくろう！」	8/6～8/21 (14日間)	196	291	148.5%
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびオープンアトリエ 「はんこでつくろ！夢二デザイン」	2/18～3/26 (12日間)	168	313	186.3%

事業 区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
交流事業	しずびチビッコプログラム		計6本 157人		
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびチビッコプログラム ー没後20年 ルーシー・リー展	5/14 (全2回)	20	24	120.0%
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびチビッコプログラム ー伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺	6/11 (全2回)	20	19	95.0%
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびチビッコプログラム ーエッシャーの世界	8/27 (全2回)	20	22	110.0%
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびチビッコプログラム ーランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ	10/15 (全2回)	20	23	115.0%
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびチビッコプログラム ー高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。 スタジオジブリ・レイアウト展	1/21、1/22 (全4回)	40	44	110.0%
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびチビッコプログラム ー夢二と京都の日本画	3/20 (全2回)	20	25	125.0%
	暦とあそぶワークショップ		計2本 53人		
	暦とあそぶワークショップ vol.12 「こどもの日の準備をしよう！」	4/23	20	30	150.0%
	暦とあそぶワークショップ vol.13 「七夕の準備をしよう！」	7/2	20	23	115.0%
	プレゼントワークショップ		計5本 102人		
	プレゼントワークショップ vol.17 「母の日だ！親子でプレゼントをつくろう」	5/8	20	22	110.0%
	プレゼントワークショップ vol.18 「父の日だ！親子でプレゼントをつくろう」	6/18	20	21	105.0%
	プレゼントワークショップ vol.19 「敬老の日だ！おじいちゃん、おばあちゃんとプレゼントをつくろう」	9/17	20	18	90.0%
	プレゼントワークショップ vol.20 「クリスマスの準備をしよう！」子ども編	12/10	20	21	105.0%
	プレゼントワークショップ vol.20 「クリスマスの準備をしよう！」大人編	12/11	20	20	100.0%
	その他交流事業		計1本		
	夜店市	8/12-8/14 (3日間)	-	-	-
連携事業	めぐりアート静岡		計2本 12,330人		
	キニナルスキニナルプロジェクト めぐりアート静岡 記憶をめぐる 記憶をつくる	10/25-11/13 (20日間)	-	12,294 (当館分)	-
	キニナルスキニナルプロジェクト めぐりアート静岡 記憶をめぐる 記憶をつくる アーティストトーク(Nerhol)	10/30	-	36	-
	■生涯学習センターとの連携事業				
	展示解説付き講座		計4本		
	長田生涯学習センター しずび出前講座『大観・靱彦・龍子らと修善寺』を楽しむ②	6/25	※その他展示解説に含む		

事業 区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
連携事業	駿河生涯学習センター 高齢者学級みのり大学 小鹿学級	7/26	※その他展示解説に含む		
	南部生涯学習センター 高齢者学級みのり大学	9/14	※その他展示解説に含む		
	藁科生涯学習センター 高齢者学級みのり大学	12/8	※その他展示解説に含む		
	しずび出前講座(座学)※当館学芸員が講師として参画		計6本 307人		
	長田生涯学習センター しずび出前講座『大観・靱彦・龍子らと修善寺』を楽しむ』①	6/18	40	23	57.5%
	南部生涯学習センター 高齢者学級みのり大学	9/28	80	69	86.3%
	南部生涯学習センター しずび出前講座「白隠と仙厓 その生涯と書画」	9/30、10/7	60	81	135.0%
	藁科生涯学習センター しずび出前講座「中勘助と美術－随筆に見る浮世絵鑑賞」	10/1、10/8	20	20	100.0%
	長田生涯学習センター 高齢者学級みのり大学	11/11	120	88	73.3%
	北部生涯学習センター しずび出前講座「画家とめぐる地中海沿岸の旅(南仏編・スペイン編)」	12/10、12/17	30	26	86.7%
	しずび出前講座(ワークショップ)		計2本 40人		
	西奈生涯学習センター 出張！しずびチビッコプログラム 「親子でオリジナルエコバックをつくろう」	7/23	20	24	120.0%
	北部生涯学習センター 出張！しずびチビッコプログラム 「自分のマーク入りの旗「旗印」をつくろう！」	10/22	20	16	80.0%
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)		計4本 588人		
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 キニナルスキニナルプロジェクト 「みる・きく・さわるのさっかく展」	7/16-8/31 (45日間)	-	-	-
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 エッシャーの世界展に寄せて エッシャーとバッハ	7/22	-	34	-
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 キニナルスキニナルプロジェクト 「子どものためのコンサート 弦楽四重奏で聴く「ジブリ」の世界」	12/3	-	554	-
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 キニナルスキニナルプロジェクト ミュージアム・コンサート「夢二を歌う」	2/26	※展覧会関連事業に記載		
	キニナルスキニナルプロジェクト		計6本		
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびチビッコプログラム	5/14、6/11、8/27、 10/15、1/21・22、 3/20 (計7日・14回)	※交流事業に記載		
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 キニナルスキニナルプロジェクト みる・きく・さわるのさっかく展	7/16-8/31 (45日間)	※静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業欄に記載		
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびオープンアトリエ	8/6-8/21、 2/18-3/26 (計26日間)	※交流事業に記載		
	キニナルスキニナルプロジェクト めぐるりアート静岡 記憶をめぐる 記憶をつくる	10/25-11/20 (27日間)	※別項に記載		

事業 区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
連 携 事 業	キニナルスキニナルプロジェクト 「スタジオジブリ・レイアウト展」鑑賞ガイド	11/19-2/5 (65日間)	-	-	-
	静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業 キニナルスキニナルプロジェクト ミュージアムコンサート「夢二を歌う」	2/26	※展覧会関連事業に記載		
	その他連携事業		計3本	1,058人	
	Kids Art Project Shizuoka	4/1-3/31	-	-	-
	JR東海「アート&トレイン」	7/17-11/27	-	1,045	-
	静岡市・静岡市美術館共同開催 静岡市まちかどコレクション ワークショップ 「"フォトモ"で再現 静岡の"まちかど"」	7/23、7/30	24	13	54.2%
そ の 他 事 業	その他事業		計2本	455人	
	平成28年度静岡市文化活動振興事業 静岡市清水文化会館マリナート常設展示 「平野富山-清水が生んだ彩色木彫の名匠」	【第1期】 7月-10月 【第2期】 11月-2月 【第3期】 3月-6月	-	-	-
	平成28年度 静岡市文化活動振興事業 「旧五十嵐邸 竹久夢二」展	11/3-11/6 (4日間)	400	455	113.8%
計			146,928	192,116	130.75%

8-2 過去展覧会一覧

	展覧会名	会期	観覧者数
●平成22(2010)年度			計3本 93,654人
1	開館記念展<Ⅰ> ポーラ美術館コレクション展 印象派とエコール・ド・パリ	10月2日(土)～11月28日(日) <開館51日間>	38,695人 (759人/日)
2	開館記念展<Ⅱ>・NHK静岡放送局開局80周年記念 家康と慶喜－徳川家と静岡	12月11日(土)～1月30日(日) <開館42日間>	34,424人 (820人/日)
3	開館記念展<Ⅲ> 棟方志功 祈りと旅	2月11日(金・祝)～3月27日(日) <開館39日間>	20,535人 (527人/日)
●平成23(2011)年度			計5本 131,904人
1	ハンス・コパー展－20世紀陶芸の革新	4月9日(土)～6月26日(日) <開館69日間>	16,395人 (238人/日)
2	没後150年 歌川国芳展	7月9日(土)～8月21日(日) <開館38日間> ※前期：7月9日(土)～31日(日) 後期：8月2日(火)～21日(日)	30,404人 (801人/日)
3	開館1周年記念展<Ⅰ>・NHK静岡放送局開局80周年記念 アルプスの画家 セガントーニ－光と山－	9月3日(土)～10月23日(日) <開館44日間>	17,806人 (405人/日)
4	開館1周年記念展<Ⅱ> レオナルド・ダヴィンチ美の理想	11月3日(木・祝)～12月25日(日) <開館46日間>	53,136人 (1,156人/日)
5	竹久夢二と静岡ゆかりの美術 (前期：中川雄太郎と静岡の創作版画の世界 後期：平野富山“彩色木彫”の美)	1月7日(土)～3月25日(日) <開館64日間> ※前期：1月7日(土)～2月12日(日) 後期：2月18日(土)～3月25日(日)	14,163人 (222人/日)
●平成24(2012)年度			計6本 100,862人
1	森村泰昌モリエナーレ まねぶ美術史	4月7日(土)～6月10日(日) <開館57日間>	7,976人 (140人/日)
2	静岡音楽館AOI×静岡科学館る・く・る×静岡市美術館 共同事業 七夕の美術－日本近世・近代の美術工芸にみる	6月23日(土)～8月19日(日) <開館51日間> ※前期：6月23日(土)～7月22日(日) 後期：7月24日(火)～8月19日(日)	10,929人 (214人/日)
3	フィンランドのくらしとデザイン－ムーミンが住む森の生活	9月1日(土)～10月8日(月・祝) <開館38日間>	41,258人 (1,086人/日)
4	ストラスブール美術館展 モダンアートへの招待	10月27日(土)～12月16日(日) <開館44日間>	12,016人 (273人/日)
5	滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美 近江巡礼 祈りの至宝展	1月2日(水)～2月11日(月・祝) <開館36日間> ※前期：1月2日(水)～1月20日(日) 後期：1月22日(火)～2月11日(月・祝)	11,256人 (313人/日)
6	新美南吉生誕100年 ごんぎつねの世界	2月23日(土)～3月31日(日) <開館32日間>	17,427人 (545人/日)
●平成25(2013)年度			計5本 156,594人
1	藤田嗣治 渡仏100周年記念 レオナルド・フジタとパリ	4月20日(土)～6月23日(日) <開館57日間>	22,451人 (393人/日)
2	静岡朝日テレビ 開局35周年記念 オーディロン・ルドン 夢の起源 幻想のふるさと、ボルドーから	6月29日(土)～8月25日(日) <開館51日間>	16,907人 (332人/日)
3	はじめての美術 絵本原画の世界2013	9月14日(土)～10月27日(日) <開館38日間>	44,385人 (1,168人/日)
4	徳川家康公顕彰四百年記念事業 没後100年 徳川慶喜	11月2日(土)～12月15日(日) <開館38日間> ※前期：11月2日(土)～11月24日(日) 後期：11月26日(火)～12月15日(日)	15,260人 (402人/日)
5	テレビ静岡開局45周年記念 シャガール展	1月2日(木)～3月30日(日) <開館76日間>	57,591人 (758人/日)

	展覧会名	会期	観覧者数
●平成26(2014)年度			計6本 155,028人
1	巨匠の眼 川端康成と東山魁夷	4月12日(土)～6月1日(日) ＜開館44日間＞	15,475人 (352人/日)
2	読売新聞創刊140周年記念・静岡第一テレビ開局35周年 法隆寺展―聖徳太子と平和への祈り―	6月14日(土)～7月27日(日) ＜開館38日間＞	26,566人 (699人/日)
3	日本のアニメーション美術の創造者 山本二三展 ～天空の城ラピュタ、火垂るの墓、時をかける少女～	8月4日(月)～9月23日(火・祝) ＜開館48日間＞	66,773人 (1,391人/日)
4	徳川家康公顕彰四百年記念事業・静岡市文化振興財団設立20周年記念事業 国宝・久能山東照宮展―家康と静岡ゆかりの名宝	10月4日(土)～11月24日(月・祝) ＜開館45日間＞	20,353人 (452人/日)
5	ロイヤル・アカデミー展 イギリス美術の華麗なる150年	12月6日(土)～1月25日(日) ＜開館41日間＞	16,034人 (391人/日)
6	没後100年 小林清親展 文明開化の光と影をみつめて	2月7日(土)～3月22日(日) ＜開館38日間＞	9,827人 (259人/日)
●平成27(2015)年度			計6本 155,806人
1	静岡市美術館開館5周年記念 大原美術館展 名画への旅	4月18日(土)～5月31日(日) ＜開館39日間＞	32,133人 (824人/日)
2	青磁のいま―受け継がれた技と美 南宋から現代まで	6月13日(土)～8月16日(日) ＜開館56日間＞	13,907人 (248人/日)
3	錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！	8月23日(日)～9月27日(日) ＜開館36日間＞	16,475人 (458人/日)
4	静岡市美術館開館5周年記念 ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと	10月10日(土)～11月23日(月・祝) ＜開館39日間＞	41,836人 (1,073人/日)
5	静岡市美術館開館5周年記念 静岡市立芹沢銈介美術館・静岡市美術館共同企画 芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様	12月5日(土)～1月11日(月・祝) ＜開館29日間＞	7,502人 (259人/日)
6	スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。	1月23日(土)～3月27日(日) ＜開館57日間＞	43,953人 (771人/日)
●平成28(2017)年度			計6本 167,547人
1	没後20年 ルーシー・リー展	4月9日(土)～5月29日(日) ＜開館45日間＞	17,157人 (381人/日)
2	伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺	6月7日(火)～7月10日(日) ＜開館30日間＞	6,592人 (220人/日)
3	エッシャーの世界	7月17日(日)～8月28日(日) ＜開館37日間＞	36,297人 (981人/日)
4	ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ	9月10日(土)～10月30日(日) ＜開館45日間＞	16,154人 (359人/日)
5	高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。 スタジオジブリ・レイアウト展	11月19日(土)～2月5日(日) ＜開館65日間＞	79,378人 (1,221人/日)
6	夢二と京都の日本画	2月18日(土)～3月26日(日) ＜開館32日間＞	11,969人 (374人/日)

8-3 静岡市美術館運営協議会

(公財)静岡市文化振興財団では、当館の事業及び運営について、幅広く意見を求め、長期的かつ総合的展望に立った運営に資することを目的として、平成23年度より静岡市美術館運営協議会を設置している。年2回の開催を基本とし、平成27年度まで計10回開催した。

【静岡市美術館運営協議会委員】(敬称略・50音順)

氏名	肩書
●第1期【平成23年6月19日～平成25年6月18日】	
岩城見一	京都大学名誉教授・前京都国立近代美術館館長
小澤 豊	静岡市校長会(図工美術部会長・観山中学校校長)
織田元泰	元静岡市教育長・元常葉学園大学教授
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
川崎博良	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街理事長)
金原宏行	豊橋市美術館館長
小林 忠	学習院大学名誉教授・前千葉市美術館長
小針由紀隆	静岡県立美術館学芸部長
谷 新	宇都宮美術館館長・美術評論家
●第2期【平成25年6月19日～平成27年6月18日】	
岩城見一	京都大学名誉教授・前京都国立近代美術館館長
小澤 豊	静岡市校長会(図工美術部会長・観山中学校校長) ＜～平成26年4月1日＞
織田元泰	元静岡市教育長・元常葉学園大学教授
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
川崎博良	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街理事長)
金原宏行	豊橋市美術館館長
小林 忠	岡田美術館館長・学習院大学名誉教授
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
谷 新	宇都宮美術館館長・美術評論家
増田安由	静岡市校長会(図工美術部会長・富士見小学校校長) ＜平成26年4月2日～＞
●第3期【平成27年6月19日～平成29年6月18日】	
天野一夫	豊田市美術館チーフキュレーター
岩城見一	京都大学名誉教授・前京都国立近代美術館館長
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
金原宏行	豊橋市美術館館長
小林 忠	岡田美術館館長・学習院大学名誉教授
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
田中文雄	元静岡県立中央図書館調査課長
服部 功	静岡市中央商店街連合会 (静岡紺屋町名店街代表理事)
増田安由	静岡市校長会 (図工美術部会長・富士見小学校校長)

※委員の肩書については、各期就任時のものを記載した。

静岡市美術館運営協議会設置要綱

(目的)

第1条 公益財団法人静岡市文化振興財団(以下「当法人」という。)は、静岡市美術館(以下「美術館」という。)の事業及び運営について、幅広く意見を求め、長期的かつ総合的展望に立った運営に資することを目的として、静岡市美術館運営協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(任務)

第2条 協議会は、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べるものとする。

(委員)

第3条 協議会の委員は、専務理事が選定し、理事長が委嘱する。

2 委員の任期は、2年以内とする。ただし、再任を妨げない。

3 補欠又は増員により選任された委員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

4 委員は、任期満了後においても、後任者が就任するまで、なおその職務を行うものとする。

5 委員は別表のとおりとする。

(会長)

第4条 協議会に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選により選出する。

2 会長は、会議の議長となり、会務を総括する。

(会議)

第5条 協議会は、館長からの求めに応じ、会長が随時召集する。

2 会長は、協議会を招集しようとするときは、委員に対し、開催日の1週間前までに、書面等により、あらかじめ日時、場所及び議題その他必要な事項を通知しなければならない。ただし、委員全員の同意があるときは、この限りではない。

3 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

4 会長は、必要と認めた時は協議会に諮り、関係者に参考人として会議への出席を求め、資料の提供、意見の開陳、説明その他必要な協力を求めることができる。

5 副会長は、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(議事録)

第6条 会議の議事については、その経過の要領及びその結果を記載した議事録を作成するものとする。

(庶務)

第7条 協議会の事務は、静岡市美術館総務課において処理する。

2 美術館の職員は、協議会その他の事務処理を通じて知り得た事項を他に漏らしてはならない。

(補足)

第8条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は協議会において定める。

附 則

この要綱は、平成23年6月19日から施行する。

附 則

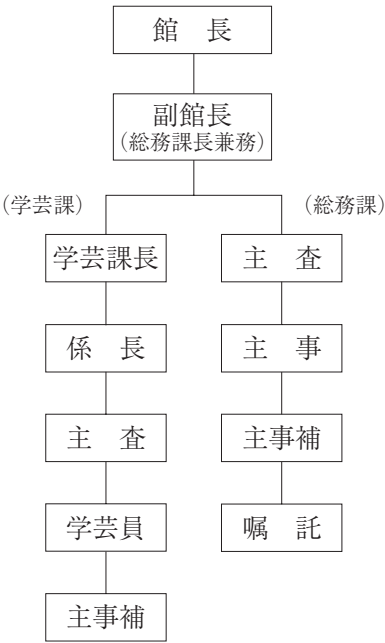
この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年10月30日から施行する。

8-4 組織図・職員名簿

<組織図>



<職員名簿> (平成28年度)

館長	田中 豊稻
副館長(総務課長兼務)	大澤 眞明(～8月28日)
	島崎 英男(10月1日～)
(総務課)	
主査	村上 真琴
主事	市川 志帆
主事補	岩倉 牧
嘱託	望月 俊佑
(学芸課)	
学芸課長	以倉 新(近・現代美術)
係長	吉田 恵理(日本美術)
主査	山本 香瑞子(日本近代美術)
学芸員	小川 かい(西洋美術)
学芸員	森谷 紗世(教育普及)
学芸員	青木 良平(西洋美術)
学芸員	伊藤 鮎(西洋美術)
学芸員	大石 沙織(日本史)
学芸員	安岡 真理(教育普及)
主事補	大庭 千恵子(広報)

8-5 条例・施行規則

○静岡市美術館条例

平成21年7月16日
条例第50号

(設置)

第1条 静岡市は、多様な美術表現を広く市民に公開し、静岡市の特色ある美術文化の創造と発信を行い、及び美術文化の交流を促進することにより、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、もって市民の美術文化を振興することを目的として、次の施設を設置する。

名称	位置
静岡市美術館	静岡市葵区紺屋町17番地の1

(事業)

第2条 静岡市美術館(以下「美術館」という。)は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術文化に係る展示会の開催に関すること。
 - (2) 美術文化の教育及び普及に関すること。
 - (3) 美術文化に係る講演会、講習会等の開催に関すること。
 - (4) 美術文化に係る調査及び研究に関すること。
 - (5) 美術文化に係る情報の収集及び提供並びに広報活動に関すること。
 - (6) 美術作品及び美術に係る資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
 - (7) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める事業(開館時間)
- 第3条 美術館の開館時間は、午前10時から午後7時までとする。ただし、第7条の規定による指定を受けて美術館の管理を行うもの(以下「指定管理者」という。)が特に必要があると認めるときは、市長の承認を得てこれを変更することができる。

(休館日)

第4条 美術館の休館日は、次のとおりとする。ただし、指定管理者が特に必要があると認めるときは、市長の承認を得てこれを変更し、又は臨時に休館することができる。

- (1) 月曜日(当日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下この号において「休日」という。)に当たるときは、その翌日以降の最初の休日以外の日)
- (2) 12月28日から翌年の1月4日までの日

(入館の制限)

第5条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、美術館への入館を拒否し、又は美術館からの退館を命ずることができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を害するおそれがあると認めるとき。
- (2) 美術館の管理上支障があると認めるとき。
- (3) 前2号に掲げる場合のほか、必要があると認めるとき。

(損害賠償の義務)

第6条 美術館の施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、市長がやむを得ない理由があると認めるときは、賠償額を減額し、又は免除することができる。

(指定管理者による管理)

第7条 美術館の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であって市長が指定するものに行わせるものとする。

(指定管理者の指定の申請)

第8条 指定管理者の指定を受けようとするものは、事業計画書その他規則で定める書類を添付して市長に申請しなければならない。

(指定管理者の指定の基準)

第9条 市長は、前条の規定による申請を審査し、次に掲げる基準に適合するもののうちから、最も効率的かつ

適切な管理を行うことができると認めるものを指定管理者として指定するものとする。

- (1) 事業計画が美術館の設置の目的を達成するためにふさわしいものであること。
- (2) 事業計画が美術館の効果的な管理を実現するものであること。
- (3) 事業計画に沿った管理を行うために必要な物的・人的能力を有していると認められること。
- (4) 管理の業務を適切かつ円滑に行うための経理的基礎を有していること。

(指定管理者の指定等の公告)

第10条 市長は、指定管理者を指定したとき、又はその指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公告するものとする。

(指定管理者の業務の範囲)

第11条 指定管理者が行う業務の範囲は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 第2条に掲げる事業の実施に関すること。
- (2) 美術館の施設及び設備の維持管理に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める業務(指定管理者の原状回復の義務)

第12条 指定管理者は、その指定に係る管理の業務の期間が満了したとき、又は指定を取り消され、若しくは期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった施設又は設備を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、市長の承認を得たときは、この限りでない。

(委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して12月を超えない範囲内において規則で定める日から施行する。ただし、第1条、第8条から第11条まで及び第13条の規定は、公布の日から施行する。

(平成22年規則第9号で、規則で定める日を平成22年5月1日とした。)

○静岡市美術館条例施行規則

平成21年11月12日
規則第103号

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡市美術館条例(平成21年静岡市条例第50号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(入館者の遵守事項)

第2条 静岡市美術館(以下「美術館」という。)の入館者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 火災、爆発その他の危険を生ずるおそれのある行為をしないこと。
- (2) 騒音又は大声を発する等他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 動物(身体障害者補助犬法(平成14年法律第49号)第2条第1項に規定する身体障害者補助犬を除く。)又は他人に迷惑を及ぼすおそれのある物品を持ち込まないこと。
- (4) 美術館資料、器物又は施設を汚損し、又は損傷するおそれのある行為をしないこと。
- (5) 許可を受けないで広告類を掲出し、又はまき散らす行為をしないこと。
- (6) 所定の場所以外の場所へ立ち入らないこと。
- (7) 所定の場所以外の場所で飲食をしないこと。
- (8) 喫煙をしないこと。
- (9) 許可を受けないで寄附金品の募集、物品の販売若しくは陳列又は飲食物の販売若しくは提供をしないこと。
- (10) 前各号に掲げるもののほか、指定管理者が管理上支障があると認める行為をしないこと。

(指定管理者の指定の申請書類)

第3条 条例第8条の規定による申請は、静岡市美術館指定管理者指定申請書(様式第1号)に、次に掲げる書類を添えて行うものとする。

- (1) 静岡市美術館事業計画書(様式第2号)
- (2) 静岡市美術館事業計画に関する収支予算書(様式第3号)
- (3) 定款、寄附行為又はこれに準ずるものの謄本
- (4) 役員名簿
- (5) 経営(事業)状況に関する書類
- (6) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める書類(協定の締結)

第4条 市長は、指定管理者を指定したときは、当該指定管理者と美術館の管理に関する協定を締結するものとする。

2 前項の協定には、次に掲げる事項を掲載するものとする。

- (1) 事業計画に関する事項
- (2) 市が支払うべき管理費用に関する事項
- (3) 管理業務を行うに当たって保有する個人情報の保護に関する事項
- (4) 事業報告に関する事項
- (5) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める事項(雑則)

第5条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。ただし、第2条の規定は、静岡市美術館条例附則本文に規定する規則で定める日から施行する。

様式第1号(第3条関係)

静岡市美術館指定管理者指定申請書

年 月 日

(あて先)静岡市長

所在地(法人以外の団体にあっては、その代表者の住所)

申請者 名称

代表者氏名

印

電話

静岡市美術館の指定管理者の指定を受けたいので、静岡市美術館条例第8条及び静岡市美術館条例施行規則第3条の規定により、次のとおり関係書類を添えて申請します。

様式第2号(第3条関係)

静岡市美術館事業計画書

事業計画の理念・方針

実施事業の概要(事業の構成及び年間計画表)

実施体制図

特記事項(効果的に事業を行うための方策、市民サービスの向上のための施策等)

様式第3号(第3条関係)

静岡市美術館事業計画に関する収支予算書

収入			千円
	科目	内容・数量	金額
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円
支出			千円
	科目	内容・数量	金額
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円

8-6 施設・建築概要

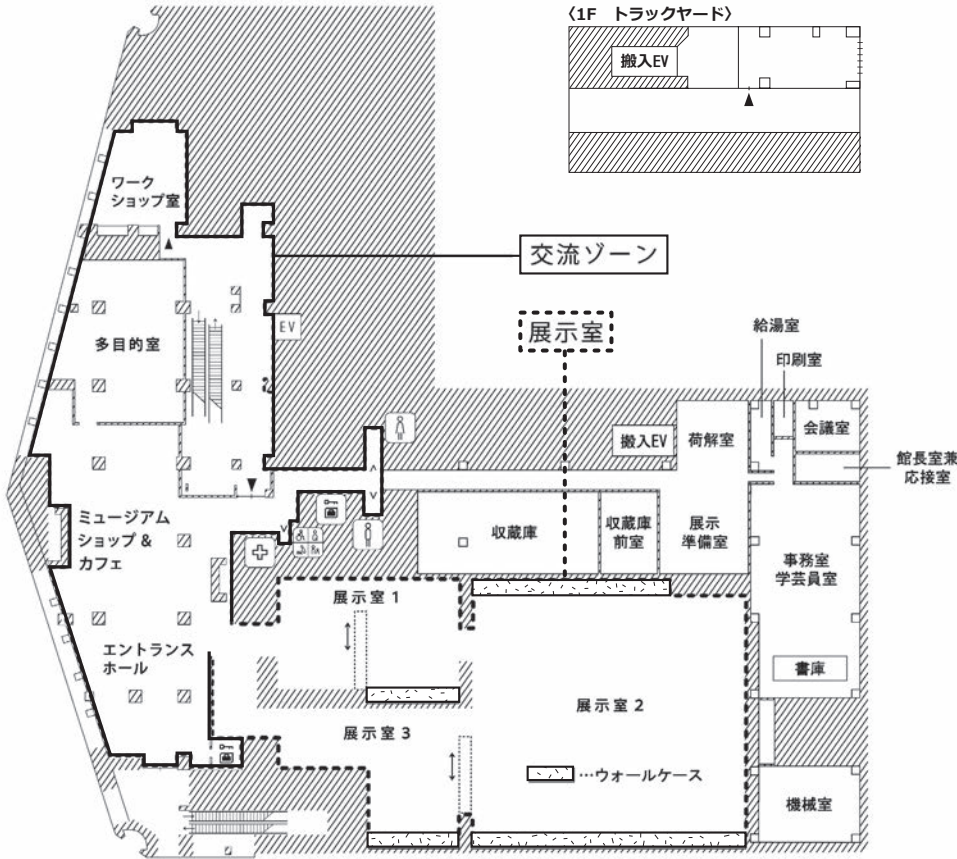
所在地：静岡市葵区紺屋町17番地の1号 葵タワー3階
設置者：静岡市
構造：S造（一部RC・SRC造）
内装設計：株式会社丹青研究所
内装建築工事：株式会社木内建設
延床面積：3,393.22㎡
館内施設：
（展示関係）展示室1：209.76㎡ 展示室2：713.03㎡
展示室3：204.17㎡
天井高：4.1m-4.5m
総壁面長（可動壁含む）：290m
床荷重：500kg/㎡
ウォールケース：総長60m（エアータイト型壁面ガラスケース）
（収蔵関係）収蔵庫：141㎡ 収蔵庫前室：46㎡
（管理関係）事務室・学芸員室：179㎡ 会議室31㎡
館長室兼応接室：19㎡
（交流ゾーン）エントランスホール：612㎡（天井高6m） 多目的室：180㎡（天井高5m） ワークショップ室：92㎡（天井高3m）
設備：
（電気）[本体ビル]3相3線6.6KV（地中引込方式）、非常用発電設備
（給排水）[本体ビル]給水：上水、雑用水2系統 排水：汚水、雑排水分流方式

（消火）N2ガス消火設備（展示収蔵エリア）、スプリンクラー（その他エリア）、消火用散水栓、消火器、自動火災報知設備
（空調）[本体ビル]ガス焼き吸収冷温水機及び排熱冷温水機（熱源）、4管方式により冷温水供給
[美術館]展示室：エアハンドリングユニット（床置きコンパクト型）
収蔵庫：空冷パッケージ（インバータ・セパレート型）エアコン
その他エリア：ファンコイルユニット

＜静岡市美術館整備費内訳(単位：円)＞

保留床購入費 （葵タワー再開発組合からの占有床購入経費）	¥ 2,461,200,000
内装・展示工事費	¥ 859,533,150
（内訳）建築工事費	¥ 712,007,100
電気工事費	¥ 132,826,050
衛生工事費	¥ 14,700,000
整備費合計	¥ 3,378,123,924
（内訳）まちづくり交付金（国庫補助金）	¥ 1,180,000,000
市債（合併特例債）	¥ 1,571,200,000
一般財源	¥ 626,923,924

施設見取り図



平成28(2016)年度
静岡市美術館 年報 No.7
2018年1月 発行

編集・発行 静岡市美術館
〒420-0852
静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3階
TEL 054-273-1515(代)
FAX 054-273-1518

印刷 株式会社アプライズ

©Shizuoka City Museum of Art 2018

